

● 蠶業取締所處務細則

大正十二年七月七日
長野縣指令蠶業取締第六五七號認可

- 第一章 職務心得
- 第一條 職員新任命セラレ又ハ轉勤シタルトキハ若任後選擧ナク履歷書、印鑑、住所ヲ本所ニ在リテハ所長支所ニ在リテハ支所長(以下單ニ所長又ハ支所長ト稱ス)ニ提出スヘシ但シ女子ノ履歷檢査吏員ハ之ヲ要セズ
- 第二條 父母ノ看護、遺孀、轉地療養ノ爲旅行セムトスル下キハ許可ヲ受ケルニ付シテ所長ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス
- 第三條 疾病ノ爲休職七日以上ニ達スルトキハ醫師ノ診断書ヲ添ヘ提出シテ七日毎ニ其ノ病狀ヲ提出スヘシ但シ醫師書ニ記載シテ療養期間ヲ明記シアルモノハ其ノ期間内提出ヲ要セズ
- 第四條 忌服シタルトキハ制服ノ日數ヲ提出スヘシ
- 第五條 出張ヲ要スルトキハ制式第一ノ出張命令簿ニ依リ支所長又ハ支所長ノ命令ヲ受ケルヘシ
- 第六條 出張ヲ命ゼラレタル者左ノ各條ノ一ニ該當シタルトキハ選擧ナク其ノ事由ヲ具申シ指揮ヲ受ケルヘシ
- 一 指定日數内ニ其ノ用務終ハサルトキ
- 二 出張中一時歸所スルニ必要トスルトキ
- 三 疾病其他ノ事故生シタルトキ

〔長野縣〕

- 第七條 事務ハ總務所長又ハ支所長ノ決裁ヲ經テ之ヲ施行ス
- 第八條 到着文書ハ所長又ハ支所長ニ於テ收受開封シ開了後文書主任ニ交付ス文書主任ハ之ニ制式第二ノ受付印ヲ捺捺シ書年日月日ヲ記入シ其ノ要旨ヲ制式第三ノ文書件名簿ニ登記シ之ヲ各主任ニ配付ス
- 第九條 書留文書、親展文書、及電報ハ別ニ記載シ其ノ名宛ニ送付スヘシ
- 第十條 到着シタル金券又ハ現金ヲ添ヘタル文書ハ別ノ帳簿ニ記載シ所長又ハ支所長ノ檢印ヲ經主任ニ同付シ領收印ヲ捺スヘシ
- 第十一條 主任ニ於テ文書ノ配付ヲ受ケタルトキハ制式第四ノ同職用紙ニ依リ處分案ヲ具ヘ合議ノ上所長又ハ支所長ニ提出スヘシ
- 第十二條 簡易ナル事件ハ文書ノ餘白又ハ欄外ニ朱書立案スルコトヲ得定例アリ別ニ理由ヲ記スルニ及ハサルモノハ帳簿ヲ以テ合議スルコトヲ得
- 第十三條 處分案ノ同付ヲ受ケタルトキハ直ニ開了シ意見アルトキハ主任ニツキ熟議シ其ノ意見協ハサルトキハ所長又ハ支所長ニ陳述スヘシ
- 第十四條 緊急ヲ要シ又ハ機密ノ事件ハ所長又ハ支所長ノ指揮ニヨリ前各條ノ手續ニ依ラサルコトヲ得
- 第十五條 決裁ヲ經タル處分案ハ決裁月日ヲ記入シ主任ニ返付ス
- 主任ハ速ニ浮書檢合シ文書主任ニ同付スヘシ
- 第十六條 文書主任ハ前條ノ文書ノ同付ヲ受ケタルトキハ文書件名簿ノ相

〔長野縣〕

- 當欄ニ其ノ要旨ヲ記載シタル後發送スヘシ
- 事件完結シタルトキハ文書件名簿ニ完結印ヲ捺捺スヘシ
- 處分案ハ施行月日ヲ記入捺印シ之ヲ主任ニ返付ス
- 第十七條 發送スヘキ金券又ハ現金ヲ添ヘタル文書ハ別ノ帳簿ニ記載シ文書主任領收印ヲ捺捺シ所長又ハ支所長ノ檢印ヲ受ケルヘシ
- 第三章 文書編纂及保存
- 第十八條 完結ノ文書ハ一事件ヲ一帳簿ニシテ文書主任ニ引繼クヘシ
- 引繼テ受ケタル文書ハ假ニ別編纂索引ヲ付スヘシ
- 第十九條 合達告示並將來成例規格外ナルヘキ文書ハ別ニ之ヲ編纂スヘシ
- 第二十條 文書ハ曆年(會計三屬スルモノハ會計年度)ヲ以テ完結ノ月日ヲ連ヒ編纂スヘシ但シ紙數僅少ナルモノハ數年分ヲ一冊トスルコトヲ得
- 第二十一條 文書保存期限ヲ區分シ左ノ三種トス
- 第一種 無期保存
- 第二種 十年保存
- 第三種 三年保存
- 第二十二條 輕微ナル事件ニシテ保存ノ必要ナキ文書又ハ保存期限ヲ經過シタル文書ハ所長又ハ支所長ノ承認ヲ經廢棄スルコトヲ得
- 第二十三條 文書ハ所外ニ提出スルヲ得但シ公務上必要ナル場合ハ所長又ハ支所長ノ許可ヲ得提出スヘシ
- 第四章 當宿直
- 第二十四條 當宿直勤務ノ時間左ノ如シ
- 一 宿直ハ退所時間ヨリ翌日登所時間マテ
- 一 當直ハ登所時間ヨリ退所時間マテ
- 第二十五條 當宿直員ハ當日左ノ簿冊物品ヲ文書主任ヨリ受取り翌日其ノ取扱ニ係ル文書物品引繼ノ際之ヲ返還スヘシ休日ニ當ルトキハ當宿直員

- 互ニ受渡スヘシ
 - 一 當宿直日誌
 - 二 郵便切手受拂簿
 - 三 郵便切手
 - 第二十六條 當宿直員ハ到着文書物品其ノ他取扱ニ屬スル一切ノ事項ヲ簡明ニ當宿直日誌ニ記載署名スヘシ
 - 第二十七條 電報又ハ至急ヲ要スル文書物品到達シタルトキハ速ニ宛名人ニ送付スヘシ
 - 第二十八條 電報又ハ文書ノ發送ヲナシタルトキハ郵便切手ノ支拂及殘數ヲ郵便切手受拂簿ニ記載スヘシ
 - 第二十九條 當宿直員ハ公務上已テ得サル場合ノ外外出スヘカラス但シ當宿直員ノ住宅又ハ其ノ附近ニ天災地變アルトキ若ハ自己又ハ家族ニ急病者アリタルトキハ他ノ職員ニ事務ヲ托シ一時退所スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ再ヒ登所スルコト能ハサルトキハ代理者又ハ次ノ當番ニ事務ヲ引繼クヘシ
 - 第三十條 火災其ノ他事變ノ場合ハ支所長ノ指揮アル迄應續ノ處置ヲ盡スヘシ
- 附則
- 制式ノ定メアルモノハ大正十三年三月末日迄仍從前ノ制式ニ依ルコトヲ得
- 本則ノ規定ハ之ヲ出張所ニ準用ス
- 制式第一
- 出張命令簿
- 大正 年 月 日發議

(支) 所長 上席

出 月 日	發 行 所 日	出 張 數	出 張 合 計	
			原簿	合算
出 張 日 月 日		出 張 合 計		
出 張 日 月 日		出 張 合 計		

様式第二

受付印



【長野管】

様式第三

文書件名簿

番 号	日 月	日 月	日 月	日 月
1	、、、、、、、、 件	、、、、、、、、 件	、、、、、、、、 件	、、、、、、、、 件
2	、、、、、、、、 件	、、、、、、、、 件	、、、、、、、、 件	、、、、、、、、 件
3	、、、、、、、、 件	、、、、、、、、 件	、、、、、、、、 件	、、、、、、、、 件

様式第四

第 一 次 決 算	日 月	日 月	日 月	日 月
第 二 次 決 算	日 月	日 月	日 月	日 月
第 三 次 決 算	日 月	日 月	日 月	日 月
第 四 次 決 算	日 月	日 月	日 月	日 月
第 五 次 決 算	日 月	日 月	日 月	日 月

大正十二年九月

長野縣農業取締所長

實業取締所 支所長殿
實業取締所業務規程改正ノ結果實業取締事務成績ハ自今左記ノ事項ヲ別
紙當該様式ニ依リ其ノ期日迄ニ報告相成度此段及通牒候
記

十二月二十五日

様式第一號及第一號ノ二

様式第二號 一、二、三

様式第三號 一、二

様式第九號

二月末日

様式第二號ノ四

様式第三號ノ三、四、五、六、七

様式第四號

様式第五號

三月末日

様式第六號

様式第七號

様式第十號

- 一 實業製造者數額(郡市別)
- 二 實業製造者數額
- 三 原簿製造者ニ關スル成績
- 四 原簿製造者立帳數及總量(化性別)
- 五 實業ノ検査(化性別)
- 六 母帳ノ検査(化性別)
- 七 母帳検査

第六編 農業 第一章 農業

- (甲) 實業母帳検査(化性別)
- (乙) 實業母帳検査(化性別)

様式第三號

普通實種検査ニ關スル成績
一 普通實種製造用原簿製造者立帳數及總量(化性別)
二 普通實種製造用收書(郡市別)
三 歩合検査
(甲) 播立口成績(郡市別)
(乙) 實種成績(郡市別)
四 再検査
(甲) 播製(郡市別)
(乙) 平附(郡市別)
五 越年不越年別全検査(郡市別)
六 春置用、夏秋置用全検査(郡市別)
七 苗色別全検査
(甲) 純粹種及固定種(郡市別)
(乙) 交雜種(郡市別)

- 一 移入又ハ輸入實種検査ニ關スル成績
- 二 移入又ハ輸入實種ノ品種名及數量
- 三 母帳ト別トヲ對照シ得ルモノノ検査
- 四 母帳ノ検査及官署公署ノ證明ニ依リ検査
- 五 検査ニ合格シタル移入又ハ輸入實種
- 六 品種名別實種製造者及合格數(郡市別)
- 七 生苗取扱業者及取扱場所數
- 八 種札下付數
- 九 桑苗生産業者數及桑苗圃ノ段別
- 十 養蠶除除成績

- 様式第五號
- 様式第六號
- 様式第七號
- 様式第八號
- 様式第九號

(乙) 蜜種成績(各郡市別)

系統別	純粋種	交雜種	固定種	純粋種		交雜種		系統別	
				計	歐羅巴種	支那種	計	其他	合格
日本種	歐羅巴種	支那種	計	其他	計	其他	合格	不合格	其他
口	口	口	口	口	口	口	口	口	口
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比

(長野書)

(乙) 平附(各郡市別)

系統別	純粋種	交雜種	固定種	純粋種		交雜種		系統別	
				計	歐羅巴種	支那種	計	其他	合格
日本種	歐羅巴種	支那種	計	其他	計	其他	合格	不合格	其他
口	口	口	口	口	口	口	口	口	口
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比

備考
 一 百分比例ハ其ノ級數ニ依ル
 二 數別在ルトキハ之ヲ包含セシメ其旨備考トシテ記載スヘシ
 五 越年不越年別全検査(各郡市別)

(長野書)

四 再検査 (甲) 蜜製(各郡市別)

系統別	純粋種	交雜種	固定種	純粋種		交雜種		系統別	
				計	歐羅巴種	支那種	計	其他	無毒
日本種	歐羅巴種	支那種	計	其他	計	其他	無毒	有毒	其他
口	口	口	口	口	口	口	口	口	口
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比

系統別	純粋種	交雜種	固定種	純粋種		交雜種		系統別	
				計	歐羅巴種	支那種	計	其他	無毒
日本種	歐羅巴種	支那種	計	其他	計	其他	無毒	有毒	其他
口	口	口	口	口	口	口	口	口	口
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比	百分比

第六編 産業 第一章 農産

- 四 取引ノ方法
 - 五 其ノ他業務執行上必要ナル事項
- 第四條 免許ヲ與ヘタルトキハ免許證ヲ下付ス
- 第五條 免許證書ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ選擇ナク知事ニ届出フヘシ
- 第六條 業務規程ヲ變更セムトスルトキハ知事ノ認可ヲ受ケヘシ
- 第七條 免許證ヲ毀損又ハ亡失シタルトキ若シハ免許證記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ再下付又ハ書換ヲ請求スルコトヲ得
- 第八條 市場經營者死亡シ業務ヲ廢止シ又ハ免許證ヲ取消サレタルトキハ選擇ナク免許證ヲ返納スヘシ
- 第九條 前項死亡ノ場合ニ於テハ其ノ相続人又ハ戸主若シハ家族ヨリ之ヲ爲スヘシ
- 第十條 市場經營者ヲ法外ニシテ解散シタル場合ハ其ノ清算人ヨリ之ヲ爲スヘシ
- 第十一條 市場經營者ハ看買ニ用フル風袋ニ其ノ量目ヲ表記スヘシ
- 第十二條 市場經營者ハ立會ノ場合最高入札ノ公標ニ標示スヘシ
- 第十三條 市場經營者ハ立會ノ場合取扱数量並価格ヲ口及毎二毎日ノ一頁ノ最高最低平均價格ヲ記載スヘシ
- 第十四條 前項ノ帳簿ハ一年間之ヲ保存シ當該官吏又ハ警察官吏ノ請求アリタルトキハ之ヲ呈示スヘシ
- 第十五條 市場經營者ハ取扱數量價格ニ付虚偽ノ發表ヲ爲スコトヲ得ス
- 第十六條 市場經營者ハ正當ノ事由ナクシテ開設期間中前ノ取引ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第十七條 市場經營者ハ前賣買業者ノ一方ヨリ前層歩合取引ノ要求ヲ受ケタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第十八條 市場經營者ハ前賣買業者ノ一方ヨリ前層歩合取引ノ要求ヲ受ケタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第十九條 知事ハ必要ト認メタルトキハ當該官吏又ハ警察官吏ヲシテ業務執行ノ

〔長野縣〕

前取引市場取締規則第一條ニ依リ免許ス

年月日

長野縣

●前賣買業者取締規則

大正十一年二月 縣令第五號

- 第一條 本規則ニ於テ前賣買業者ト稱スルハ本縣内ニ於テ前ノ賣買又ハ仲立ヲ業トスル者及店舗以外ニ於テ前ノ賣買ヲ爲ス生絲製造業者ヲ謂フ
- 第二條 前賣買業者及店舗ニ於テ前ノ賣買ヲ爲ス生絲製造業者ノ從業者ニシテ前ノ賣買ニ從事スル者ハ前賣買業者ト看做ス
- 第三條 前賣買業者ヲラムトスル者ハ知事ノ免許ヲ受ケヘシ
- 第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ免許ヲ受ケルコトヲ得ス
 - 一 生絲製法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ虚偽ヲ受ケタル後一年ヲ経過セザル者
 - 二 家賃分取又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復讐セザル者
 - 三 禁治産者及準禁治産者
- 第五條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第六條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第七條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第八條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第九條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第十條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第十一條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第十二條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第十三條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第十四條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第十五條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第十六條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第十七條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第十八條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第十九條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第二十條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第二十一條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第二十二條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第二十三條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第二十四條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第二十五條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第二十六條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第二十七條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第二十八條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第二十九條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第三十條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第三十一條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第三十二條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第三十三條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第三十四條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第三十五條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第三十六條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第三十七條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第三十八條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第三十九條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第四十條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第四十一條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第四十二條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第四十三條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第四十四條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第四十五條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第四十六條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第四十七條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第四十八條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第四十九條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第五十條 前條ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ知事ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス

第六編 産業 第一章 農産

- 第二條 指示セラルコトアルヘシ
 - 第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五十四以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 第一條第九條若シハ第十一條ニ違反シタルトキ又ハ第五條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ
 - 二 第八條ノ表記ヲ怠リ又ハ虚偽ノ表記ヲ爲シタルトキ
 - 三 第十條第一項ノ規定ニ依リ帳簿ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキ
 - 四 第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ業務ヲ停止シ又ハ免許證ヲ取消スコトヲ得ヘシ
 - 一 生絲製法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ
 - 二 本則第十條第十二條又ハ第十三條ニ違反シタルトキ若シハ本則第十五條ノ規定ニ違反シタルトキ
 - 三 前條ノ各號ノ一ニ該當スルトキ
 - 四 第十四條ノ規定ニ違反シタルトキ
 - 五 其ノ他不正行為ヲ爲シタルトキ
 - 第十七條 本則ニ依リ提出スヘキ書類ハ所轄農業取締所支所ヲ經由スヘシ
- 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十三條ノ規定ハ大正十二年三月三十一日迄之ヲ適用セシメ

式 厚紙 六寸

第八條	免許證	住所	氏名(名譽)
第九條	住所	氏名	
第十條	住所	氏名	
第十一條	住所	氏名	
第十二條	住所	氏名	
第十三條	住所	氏名	
第十四條	住所	氏名	
第十五條	住所	氏名	
第十六條	住所	氏名	
第十七條	住所	氏名	
第十八條	住所	氏名	
第十九條	住所	氏名	
第二十條	住所	氏名	
第二十一條	住所	氏名	
第二十二條	住所	氏名	
第二十三條	住所	氏名	
第二十四條	住所	氏名	
第二十五條	住所	氏名	
第二十六條	住所	氏名	
第二十七條	住所	氏名	
第二十八條	住所	氏名	
第二十九條	住所	氏名	
第三十條	住所	氏名	
第三十一條	住所	氏名	
第三十二條	住所	氏名	
第三十三條	住所	氏名	
第三十四條	住所	氏名	
第三十五條	住所	氏名	
第三十六條	住所	氏名	
第三十七條	住所	氏名	
第三十八條	住所	氏名	
第三十九條	住所	氏名	
第四十條	住所	氏名	
第四十一條	住所	氏名	
第四十二條	住所	氏名	
第四十三條	住所	氏名	
第四十四條	住所	氏名	
第四十五條	住所	氏名	
第四十六條	住所	氏名	
第四十七條	住所	氏名	
第四十八條	住所	氏名	
第四十九條	住所	氏名	
第五十條	住所	氏名	

第六編 産業 第一章 農業

第四 賣買又ハ仲立ヲ行ヒタル場所
前項ノ帳簿ハ一年間保存シ當該官吏及警察官吏ノ請求アリタルトキ
之ヲ呈示スヘシ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ業務ヲ停止シ又ハ其ノ免許ヲ取
消スコトアルヘシ
一 免許ヲ受ケタル後第三條ニ該當スルニ至リタルトキ
二 第十條ニ違反シタルトキ
三 正當ノ理由ナクシテ二年間營業ヲ爲サザルトキ
第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處
ス

一 第二條ニ違反シタル者
二 第十一條ノ規定ニ依リ禁止セラレタル區域内ニ於テ前ノ賣買又ハ仲
立ヲ爲シタル者
三 第十二條ニ違反シタル者
四 第十三條ノ規定ニ依リ帳簿ノ記載ヲ怠リ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル
者

第十六條 本則ニ依リ差出スヘキ書類ハ所轄農業取締所支所ヲ經由スヘシ
但シ本縣内ニ住所ヲ有セザル者ハ直接知事ニ差出スヘシ

附則
本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
農式第一號

Table with 4 columns: 本籍地 (Homeplace), 住所 (Residence), 職業 (Occupation), 氏名 (Name). Includes fields for 名 (Name), 生年月日 (Date of Birth), and 營業區域 (Business Area).

〔長野縣〕

右免許相成度別紙履歷書及證明書相添ヘ此段相願候也

長野縣知事何某殿
現住所 業種 氏名
長野縣知事何某殿
二寸五分
業種 氏名

Form for license application with fields for 免許證 (License), 住所 (Residence), 業種 (Occupation), 氏名 (Name), 生年月日 (Date of Birth), 年月日 (Date), and 縣長野 (County Official).

● 蠶種賣買業者取締規則

大正十二年十一月十二日
縣令第六十四號
第一條 本則ニ於テ蠶種賣買業者ト稱スルハ本縣ニ於テ蠶種ノ賣買又ハ仲
立ヲ業トスル者ヲ謂フ
蠶種賣買業者ノ從業者並蠶種製造者及其ノ從業者ニシテ蠶種ノ賣買ヲ爲
ス者ハ蠶種賣買業者ト看做ス

第二條 蠶種賣買業者ヲラウトスル者ハ知事ノ免許ヲ受ケヘシ但シ本縣知
事ノ免許ヲ受ケタル蠶種製造者ニシテ自己ノ生産セル蠶種ヲ販賣スル者
並其ノ從業者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ免許ヲ受ケルコトヲ得ス
一 蠶種製造法施行規則第三條第一項第三號ニ該當スル者
二 家業分數又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セザル者
三 禁治產者及準禁治產者
四 蠶種保護ノ設備ヲ有セザル者
五 第十五條ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレ爾後三年ヲ經テタル者

第四條 蠶種ニ關スル智識經驗無シト認ムル者又ハ品行不良ニシテ公益ヲ
害スル虞アリト認ムル者其ノ他不適當ト認ムル者ニ對シテハ第二條ノ免
許ヲ爲サス

第五條 第二條ノ免許ヲ受ケタル者ハ農式第一ノ願書ニ履歷書並第三
條各號該當ノ有無ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ添附シ知事ニ差出スヘシ
第六條 前條ノ出願者ニ對シ必要ト認メタルトキハ蠶種ニ關スル智識經驗
ノ有無ニ付試験ヲ行フコトアルヘシ

第七條 免許ヲ與ヘタルトキハ農式第二ノ免許證ヲ下付ス
第八條 免許證ヲ毀損若ハ亡失シタルトキ又ハ免許證記載事項ニ變更ヲ生
シタルトキハ再下付又ハ書換テ請求スルコトヲ得

第九條 免許ヲ受ケタル者其ノ業務ヲ廢止シ又ハ取消サレタルトキ若ハ死
亡シタルトキハ遺傳ヲ承継シテ返納スヘシ
免許ヲ受ケタル者死亡シタル場合ニ於テハ其ノ家事擔當者ニ於テ前項ノ
手續ヲ爲スヘシ

第十條 蠶種賣買業者ハ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス
一 露店又ハ露店ニ類似セル場所ニ於ケル蠶種ノ賣買

第六編 産業 第一章 農業

二 若シノ生理ヲ行フコトヲ認ムル蠶種ノ賣買
前項第二條ニ該當セル蠶種ニハ農式第三ノ賣買禁止印ヲ押捺ス
第十一條 第二條但書ノ蠶種製造者ニシテ從業者ヲシテ蠶種ノ賣買ヲ爲ス
シメタル場合ハ其ノ從業者ニ農式第四ノ蠶種製造從業者ノ證ヲ携帶
セシムヘシ
第十二條 前條ノ證票ヲ請求セムトスル者ハ農式第五ノ請求書ヲ知事ニ差
出スヘシ
第十三條 免許證及從業者證票ハ其ノ業務ヲ行フ際之ヲ携帶シ當該官吏
及警察官吏ノ請求アリタルトキハ之ヲ呈示スヘシ
第十四條 第二條ノ免許ヲ受ケタル蠶種賣買業者ハ其ノ業務ヲ行フ際自己
ノ住所氏名ヲ明記セル帳簿ニ左記事項ヲ記載シ使用濟後一年間之ヲ保存
スヘシ
一 賣買又ハ仲立ヲ行ヒタル年月日
二 賣買又ハ仲立相手方ノ住所氏名
三 賣買又ハ仲立ヲ爲シタル蠶種ノ品種名及數量
前項ノ帳簿ハ當該官吏及警察官吏ノ請求アリタルトキハ之ヲ呈示ス
ヘシ
第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ業務ヲ停止シ又ハ其ノ免許ヲ取
消スルコトアルヘシ
一 免許ヲ受ケタル後第三條及第四條ニ該當スルニ至リタルトキ
二 正當ノ理由ナクシテ二年間營業ヲ爲サザルトキ
第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
一 第二條ニ違反シタル者
二 第十條ニ違反シタル者
三 第十三條及第十四條ニ違反シタル者

四三

第六編 産業 第一章 蠶業

第十七條 本則ニ依リ蠶出スヘキ蠶額ハ所轄蠶業取締所支所ヲ經由スヘシ但シ本縣内ニ住所ヲ有セザル者ハ直接知事ニ差出スヘシ

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本則施行前蠶種ノ賣買又ハ仲立ヲ業トセシ者ハ本則施行後ト雖仍三箇月間本則ノ免許ヲ受クヌシテ其ノ業務ヲ營ムコトヲ得

- 第一 蠶種賣買(仲立)免許願
- 一本籍地
 - 職業
 - 管業區域
 - 従業者ナルトキハ本業者ノ住所氏名
- 右免許相成度別紙履歷書並證明書相添ヘ此段相願候也

知事宛

年月日

住所

蠶種製造者 氏名

第一 表 三寸

蠶種賣買免許之證

年 月 日

第二 表 三寸

本業者 住所 氏名

住 氏所 氏名

〔長野縣〕

●蠶種検査手数料徴收規程

大正一〇年三月縣令第二〇號
大正七年四月二十六日
縣令第二十四號

第一條 蠶種検査法第二十七條第二項ノ規定ニ依ル検査手数料ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徴收ス

- 一 根製及袋製 一枚又ハ一容器ニ付
- 病率歩合百分ノ二未滿 五分
- 百分ノ二以上 五分
- 二 平付及散卵 一枚又ハ一容器ニ付
- 病率歩合百分ノ二未滿 四分
- 百分ノ二以上 四分

第二條 前條ノ手数料ハ左ノ期日迄ニ之ヲ徴收ス

- 一 八月末日迄ニ検査ヲ了リタルモノニ在リテハ九月二十日
- 二 九月以後ニ検査ヲ了リタルモノニ在リテハ各其ノ翌月二十日但シ十一月一日以後ノ検査ニ依ルモノニ在リテハ隨時

第三條 蠶種検査法第二十七條第一項ノ規定ニ依ル手数料ハ大正七年縣令第一號蠶種検査法施行手續第三十條ノ届出アリタル後隨時之ヲ徴收ス

第四條 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 明治四十五年縣令第三十三號ハ之ヲ廢止ス

第六編 産業 第一章 蠶業

第三 表 一寸

蠶種製造從業者之證

年 月 日

第四 表 一寸

本業者住所 氏名

住 氏所 氏名

生 生年月日 名

肉色 黒

第五 表 三寸

蠶種製造從業者之證

年 月 日

第五 表 三寸

本業者住所 氏名

住 氏所 氏名

生 生年月日 名

知事宛

年月日

住所

蠶種製造者 氏名

第五 表 三寸

住	所	氏	名	生	年	月	日

右ノ者蠶種賣買ニ從事爲欲候間蠶種製造從業者之證明書交付相成度此段及

●蠶病消毒用「フォルマリン」鑑定ニ關スル規程

明治四十五年四月十二日
長野縣告示第百二十四號

第一條 自己又ハ團體ニ於テ使用スヘキ蠶病消毒用「フォルマリン」ノ鑑定ヲ乞ハムトスル者ハ本規程ニ依リ申請スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ申請セムトスル者ハ供試「フォルマリン」ヲ添ヘ様式第一號ニ依リ願書ヲ所轄蠶業取締所ニ差出スヘシ

第三條 前項ノ申請ニ對シ鑑定ヲ爲スノ必要ナシト認メタルトキ又ハ事務ノ都合ニ依リ鑑定ヲ爲シ難キトキハ許可セザルコトアルヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ運賃先拂ヒテ以テ返付スルモノトス

第四條 供試「フォルマリン」ハ能ク殺菌シタル後大樽「十基瓦以上」又ハ商標ノ異ナル小樽ハ每箇ニ商標ノ同シ小樽ハ十個毎ニ「一アシヨットル」(五勺餘)以上ヲ採リ清淨乾燥セル場ニ入レ封緘ヲ以テ密閉スヘシ

第五條 供試「フォルマリン」ハ鑑定ノ後殘餘ヲ生スルコトアルモ返付セズ

第六條 蠶業取締所ニ於テ鑑定ヲ了リタルトキハ「フォルマリン」全部ヲ提供シタルモノニ在リテハ第二號様式ノ鑑定證書各摺ニ封貼シ其ノ一部ヲ提供シタルモノニ在リテハ第三號様式ノ鑑定證書ヲ交付ス

第七條 鑑定ノ爲提供シタル「フォルマリン」ノ滅失毀損等ニ對シテハ賠償ノ責ニ任セズ

(第一號様式)

商	標	購	入	先	松	敷	一	壘	波	量

四五

何々印 住所 何之種又ハ何商店

右御鑑定相成度此段相願儀也

年月日

住所

出願人業種 氏名印

蠶業取締所宛

備考

共同購入ニ係ルモノハ總代ヲ以テ出願シ尙別ニ共同者ノ氏名ヲ記載ス

(第二様式)

長サ四寸

鑑定證

「フォルムアルデヒド」含有量

%

寸一幅

右之通鑑定ス

蠶業取締所印

紙質ハ淡水色ノモノトシテ文字ハ黒色トス

(第三様式)

鑑定證

何月何日提出ノ「フォルムリン」ハ %ノ「フォルムアルデヒド」ヲ含有ス

年月日

蠶業取締所印

蠶病豫防ノ件ニ付指示

〔長野警〕

明治三十八年六月七日
勅令第七六二五號

第六

蠶病豫防法施行ニ付テハ警察官ニ於テモ職責ノ範圍ニ於テ該法ノ實施ニ力ヲ致スヘク且蠶組ノ豫防ニ付テハ蠶病豫防吏員ト協力シ蠶除ノ實施ヲ奏スルコトニ力ムヘシ

(參考事項)

警察官豫防ニ關スル件

一 明治二十九年六月縣令第三七號警察官豫防法施行規則第一條所定ノ警察官豫防ニ關スル事項ニキリ直チニ報告スルコト

二 警察官豫防ノ主要事項左ノ如シ

イ 蠶病ノ種類

ロ 蠶病ノ状況

ハ 町村農會、産蠶會、町村産蠶部並ニ蠶業協同會ノ豫防上ノ措置計畫

ニ 蠶病ノ発生

三 右報告ヲ爲スト同時ニ警察官長ハ郡市長ニ駐在巡査ハ町村長ニ豫防

通報スル事

四 駐在巡査ハ可成産蠶會委員ト共ニ時々部内ノ蠶病觀察ヲナシ蠶除ノ實施ヲ爲スコト

五 警察官長ハ町村農會、町村産蠶部カ蠶除上ノ措置不充分ト認ム

ル場合ニハ實地ニ出頭豫防ヲナスコト

六 警察官長ノ出張ニ要スル旅費ハ蠶病豫防費ヨリ支拂スヘキニ依リ豫メ電話又ハ書面ヲ以テ其町村名及旅費額ヲ具シ承認ヲ受ケヘキ

コト

七 警察官長出張シタルトキハ復命書ヲ提出スヘキコト

農事試験場佐々木技手講演筆記

〔長野警〕

蠶ノ害蟲

第一章 昆蟲

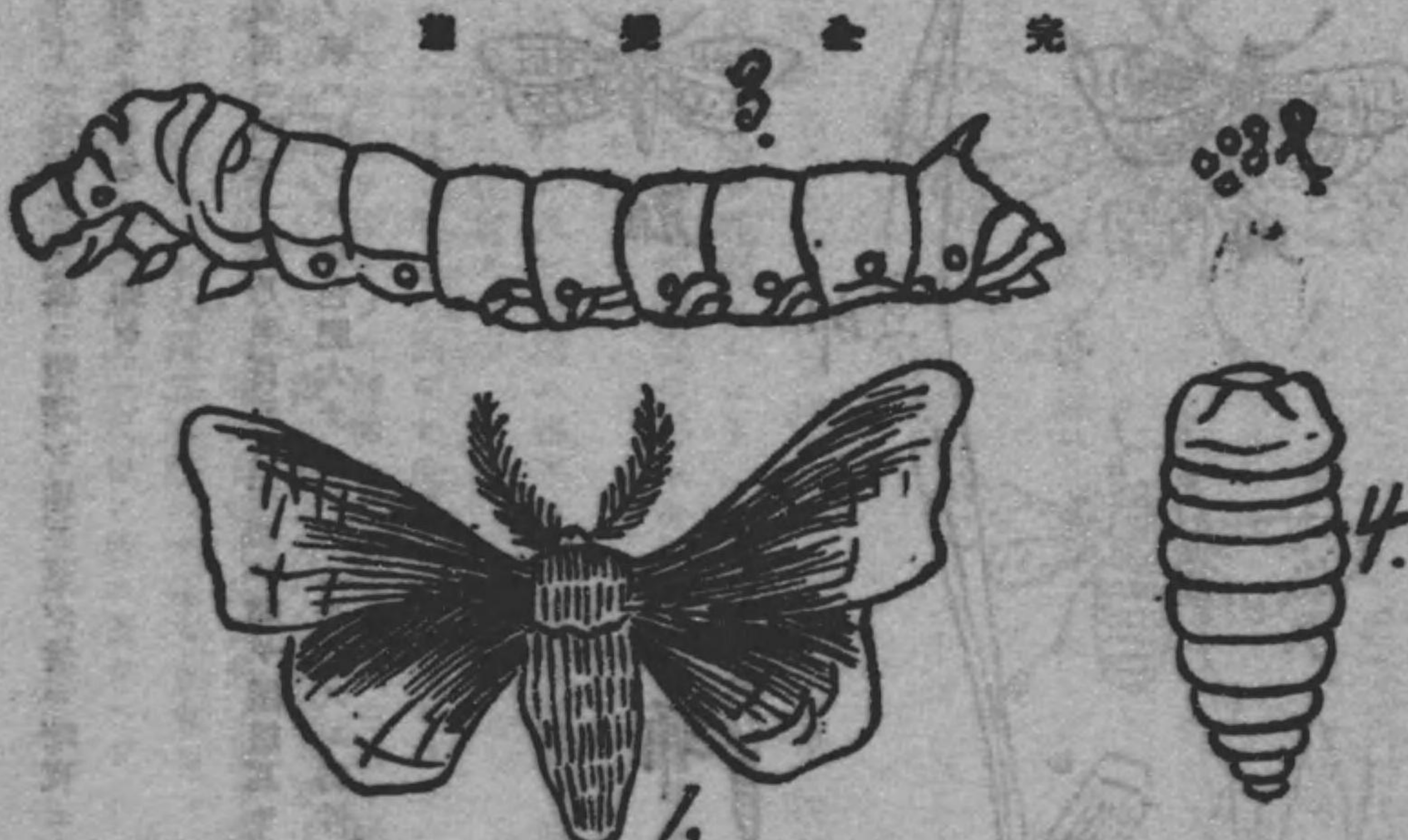
一、外部ノ構造



- (1) 頭部 (2) 胸部 (3) 腹部
- 複眼 (頭部ニテ見ル時ハ六角形ノ無數ノ小眼ヨリナル)
- 口器 (口部ニテ見ル時ハ六角形ノ口部トシテ吸口トアリ)
- 産卵管 (胸部ニテ見ル時ハ六角形ノ管トシテ産卵ヲ爲ス)
- 氣門 (胸部ニテ見ル時ハ六角形ノ管トシテ呼吸ヲ爲ス)
- 後脚 (腹部ニテ見ル時ハ六角形ノ脚トシテ歩行ヲ爲ス)
- 尾節 (腹部ニテ見ル時ハ六角形ノ節トシテ尾ヲ爲ス)
- 爪 (腹部ニテ見ル時ハ六角形ノ爪トシテ歩行ヲ爲ス)

第六編 産業 第一章 農産

(卵未熟期成蟲)



(一) 成蟲 (二) 卵 (三) 幼蟲 (四) 蛹

完全變態 不完全變態

蠶 幼蟲

(卵幼蟲成蟲)

四七

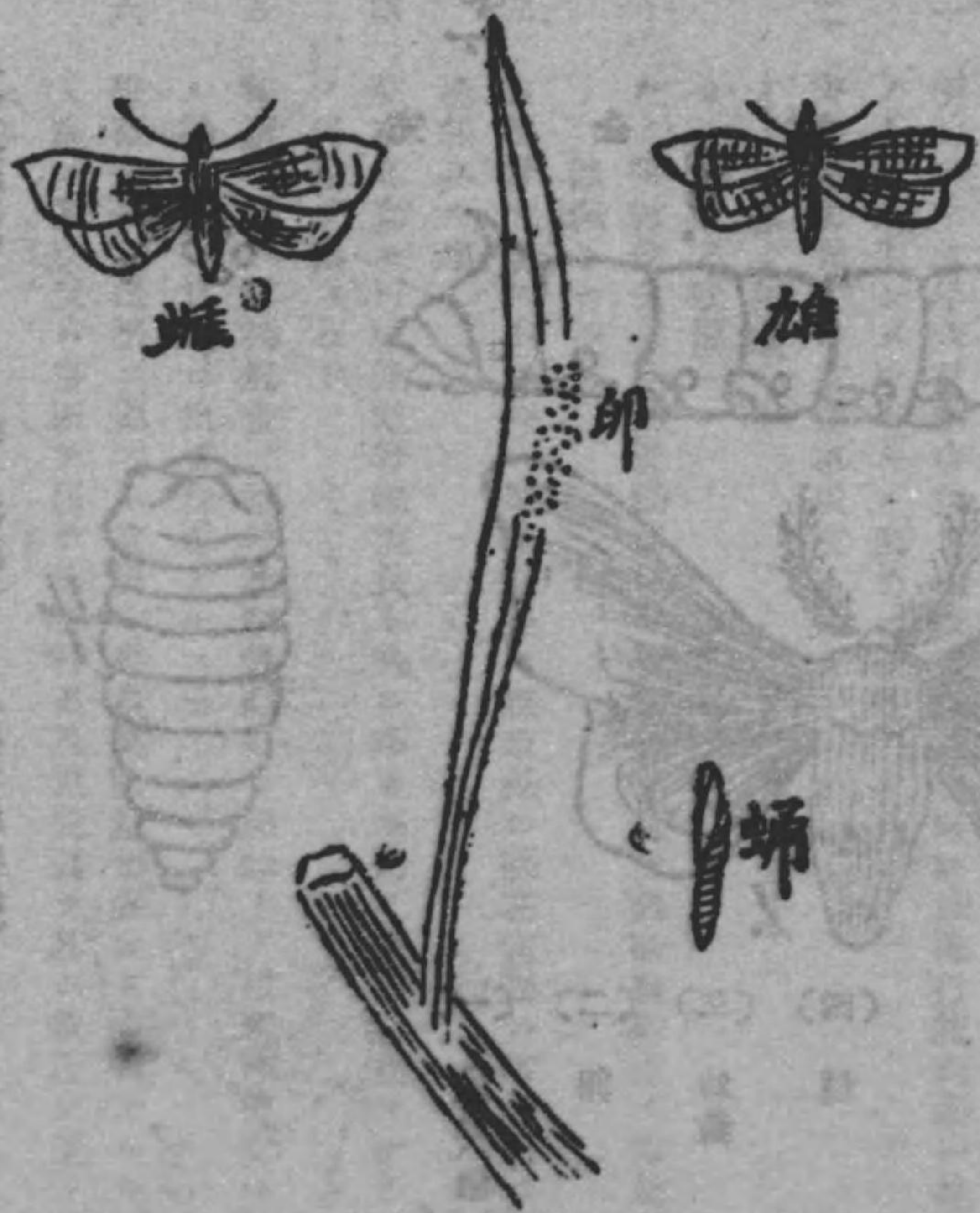
三、分 類

- (1) 彈尾類 衣魚ノ類
 - (2) 直翅類 ツバメ、蝗、コホロギ、ケラノ類
 - (3) 膜翅類 クサカゲロウ、ウスバカゲロウノ類
 - (4) 鱗翅類 トシホ、カワゲラ、羽虱ノ類
 - (5) 半翅類 セミ、浮塵子、鋸蟲、ダガメ、貝殼蟲ノ類
 - (6) 甲翅類 ミチチシエ、テント蟲、ホタル、コガネ蟲、方ミキリ
 - (7) 袋尾類 ムクゲムシノ類
 - (8) 鱗翅類 モンシロアブ、ハナセセリ、アゲハアブ、ミノムシ、
 - (9) 雙翅類 イエバ、ノミ、キロウソ、蚊、アブノ類
 - (10) 膜翅類 ミツバチ、ノコギリバチノ類
- 第二章 稻ノ害虫
- (一) 螟 虫 方音(ス、ムシ、ズイムシ、サシ)
- 發生時期ト同敷
- 年二回發生スルモノト三回發生スルモノトアリ、前者ヲ二化性螟蟲ト云ヒ後者ヲ三化性螟蟲ト云フ、長野縣ニ出ルモノハ二化性螟蟲ナリ
- 二化性螟蟲ノ第一回發生期ハ六月、第二回ノ發生ハ八月中旬乃至九月初旬トス
- 長野縣農事試験場ニ於テ調査セシ所ニ依レハ其ノ早キハ六月一日既ニ螟ヲ見メ同十六日ヨリ二十七日ノ間ニ最も多ク以後絶エス小數ノ螟ヲ存レ八月二十四日乃至九月二三日頃再ヒ多クナリ夫レヨリ次第ニ減シテ十月初旬頃ニ至リ絶ルモノトス
- 〔長野縣〕

薄暮ヨリ十一時頃マア盛ニ飛翔シ殊ニ葉ノ曇キ暗夜ニ多ク雨及ビ風強キ夜ハ飛翔セザルモノノ如シ

産卵

葉先ノ表面ニ四五個乃至百五六十個ノ卵ヲ層層瓦ヲ並ベアルカ如ク産付ス此ノ卵ハ好シテ綠色肥大ナルモノニ産卵スル特性アリ



〔長野縣〕

三、すいむしやどりばち幼蟲ニ寄生シテ之ヲ斃ス



豫防取締法

- 一、苗代時ニ於テ採卵スルコト
- 二、田圃ノ早キ所及螟蟲發生多キ年ニハ本田採卵ヲ行フベシ
- 三、燈火誘殺ヲ行フベシ
- 四、中枯レ心枯レ及ビ枯種ハ根本ヨリ町事ニ抜取り焼キ棄ツヘシ
- 五、葉ノ處分ニ注意スベシ
- (ロ) 糞ハ堆肥ニ製造シ決シテ生糞ヲ用ヒサルコト
- (ハ) 細工用糞ヲ除キタル殘餘ハ春季五月頃ニ至リ納屋又ハ倉庫ニ貯ヘ
- 風呂箱ノ如キモノニ華氏百四十度内外ノ湯ヲ薄カシ糞東ノ下部五
- 六寸ヲ浸スヘシ大抵五六秒ニテ死スヘシ
- 諸糞盤ハ苗代ナレハ地上一尺位ノ所ニ置クヘシ
- 豊ノ中ニハ一寸内外ニ水ヲ入レ置クヘシ

孵化

産ミツケシ當時ハ淡黄色ナレドモ日ヲ經クニ從ヒ黒紫色トナリ普通十日内外ニシテ孵化ス

卵塊中往々黒色ニシテ無數ノ小孔ヲ有スルハ寄生蜂ノ脱出シタルモノトス

幼蟲

孵化シタルモノハ體長五厘内外、淡黄色ヲ帯ヒタル蟲ニシテ背面ニ三條側面ニ二條ノ褐色線縱走ス

幼蟲ハ葉面ヲ匍匐シ或ハ葉端ヨリ縁ヲ吐キテ體ヲ懸垂シ風ニヨリ葉面ニ移リ葉柄ノ所ヨリ内部ニ侵入スソノ初ハ一室中數十頭群居スレドモ既ニ其ノ室枯死スレバ散亂シ多クハ一室ニ一頭宛喰入ス

幼蟲ハ約四十日ノ間ニ四回ノ脱皮ヲナシ其將ニ老熟セントスルモノハ體長ハ九分ニ達ス室内ニ蟄化シ十日内外ヲ經テ羽化シ蝶トナリテ出ス此ノ蝶ハ産卵シテ孵化シタル第二回目ノ幼蟲ハ稻刈株葉及附近ノ禾本科植物内ニ越冬シ翌年六月初旬頃再ヒ蝶トナルモノトス

蛹

褐色ヲ帯ヒ體長四五分アリ葉鞘内ニ粗キ繭ヲ作り其中ニ存ス成蟲

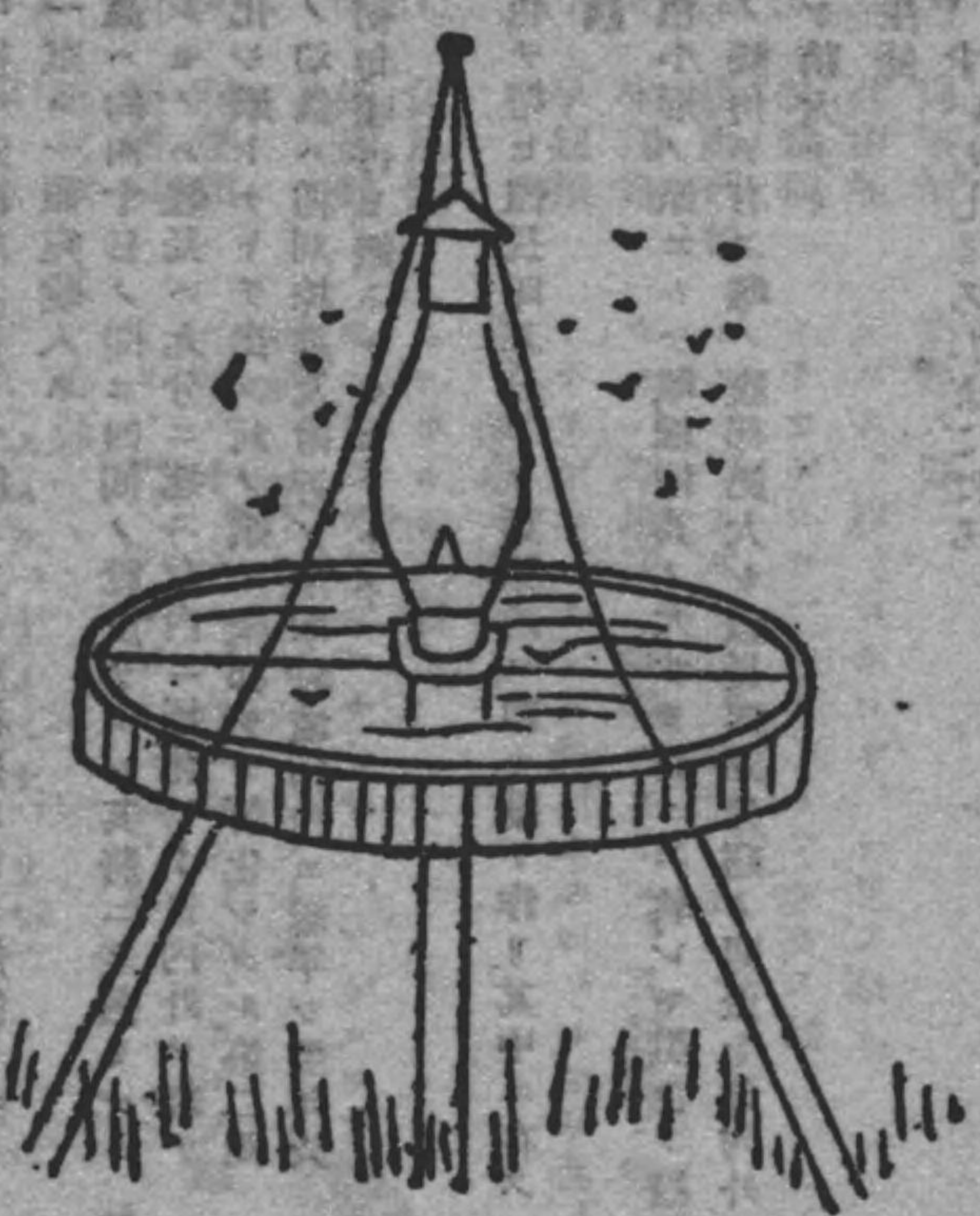
白色小形ノ蝶ニシテ雌雄精其ノ大サヲ異ニス蛾レモ黒色ノ複眼ト二分内外ノ觸角ヲ有ス雌ハ腹部肥大シ體長四五分翅ノ開張七分内外アリテ雄ニ比シ稍大ナリ

寄生蜂

一、すいむしころたまごばち

二、すいむしあかたまごばち、共ニ卵ニ寄生シ之ヲ斃ス

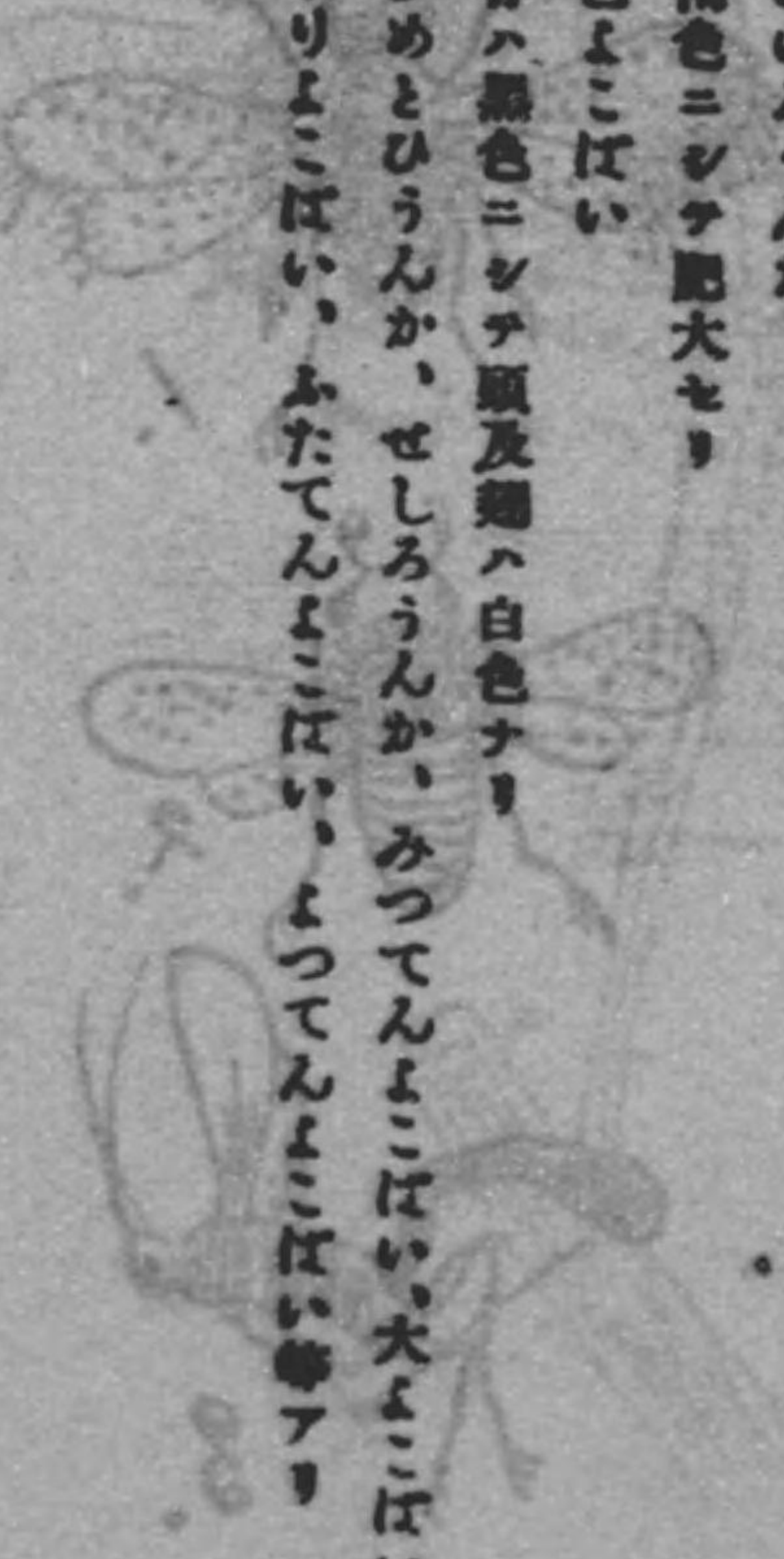




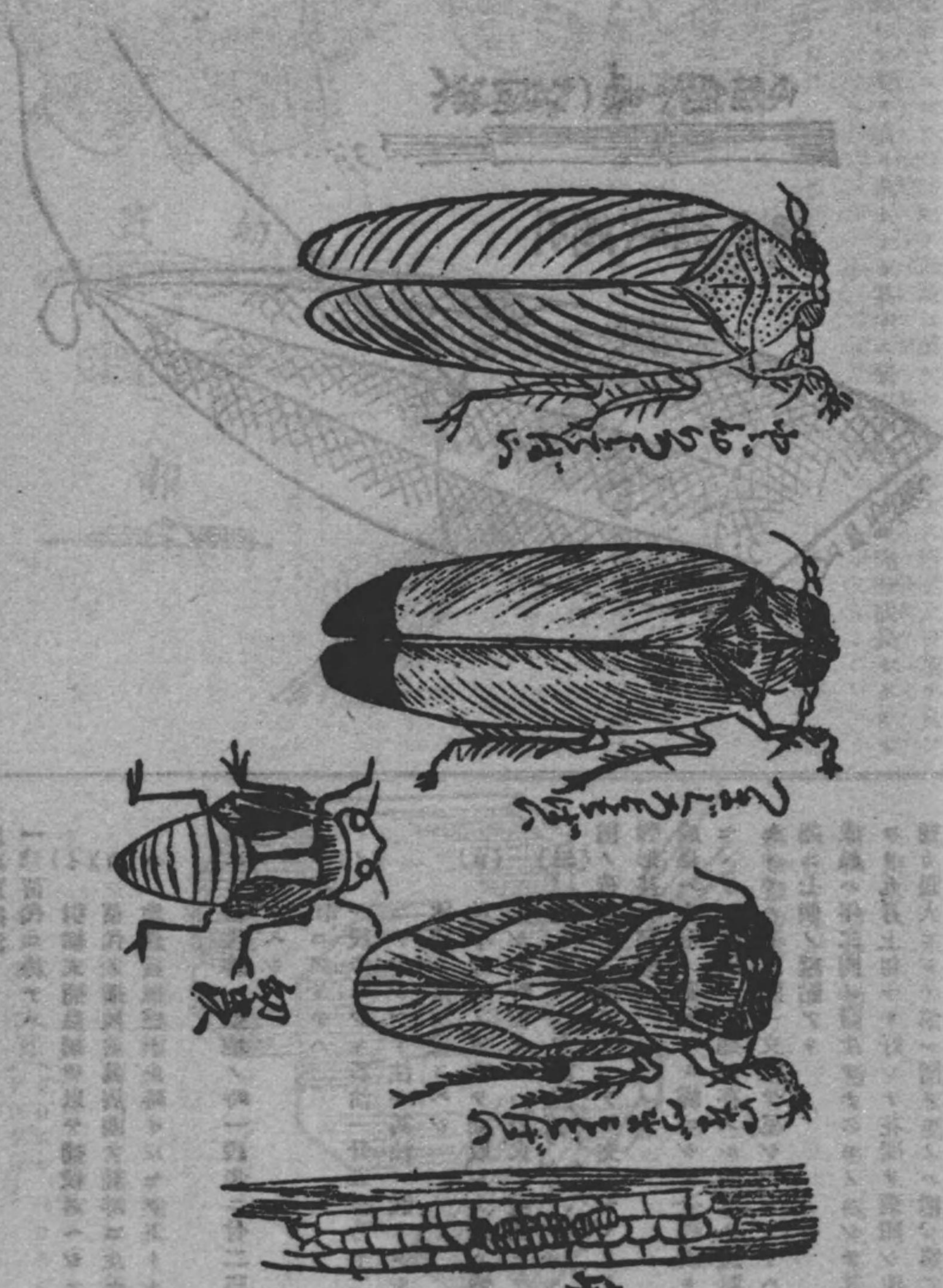
六、凡テ青虫類除ハ共同シテ行フ事必要ナリ個人驅除ハ勞多クシテ大ナラサレハ終ニ驅除ノ精神ヲ減殺セシムルニ至ルヘシ
 採卵及枯種採取リニ小學生徒ヲ利用スルハ時ニヨリ大ナル效アリ
 (二) 浮塵子 方言(ウシカ、コスカムシ、アキム)
 浮塵子ハ成虫若クハ幼虫ニテ越冬スルモノニシテ冬間ハ多ク畦畔ノ雜草中ニ潜伏シ春期温暖ノ候ニ至テ葉莖葉、麥園等ニ來集シ苗ノ背シタル噴出テ苗代ニ集マリ針狀ノ吸吸口ヲ稻ノ組織中ニ挿入シ養液ヲ吸収ス唯其ハ無食狀ノ産卵器ヲ以テ苗葉又ハ苗莖ニ産卵ス

〔長野管〕

卵ハ長サ二厘内外白色ニシテ楕圓形ヲナス精氣ヲ切開シテ横ニ置ヘ産ス卵ハ大抵一週内外ニテ孵化ス
 孵化シタル幼虫ハ四回乃至五回脱皮シテ成虫トナリ翅ヲ有シ自由ニ飛翔ス其孵化ヨリ成虫ニ至ル日數ハ大抵三週内外ニシテ一年四五回ノ産生ヲナス
 種類
 本邦ニ産スル種類百五十餘種アリ此中最モ普通ニ存シ稻ニ大害ヲナスモノ左ノ如ク
 一、つまぐるよこばい
 全體綠色ニシテ脚ハ細弱褐色條ハ黒色ナリ
 二、いなづまよこばい
 全體淡褐色ニシテ翅ヲ合ヒハ淡褐色電光狀ノ斑紋アリ
 三、とびいろらんか
 體赤褐色ニシテ脚大セリ
 四、白色よこばい
 腹及背ハ黒色ニシテ頭及翅ハ白色ナリ
 此他ひめとひらんか、せしろらんか、みつてんよこばい、大よこばい、こみとりよこばい、ふたてんよこばい、よつてんよこばい等アリ

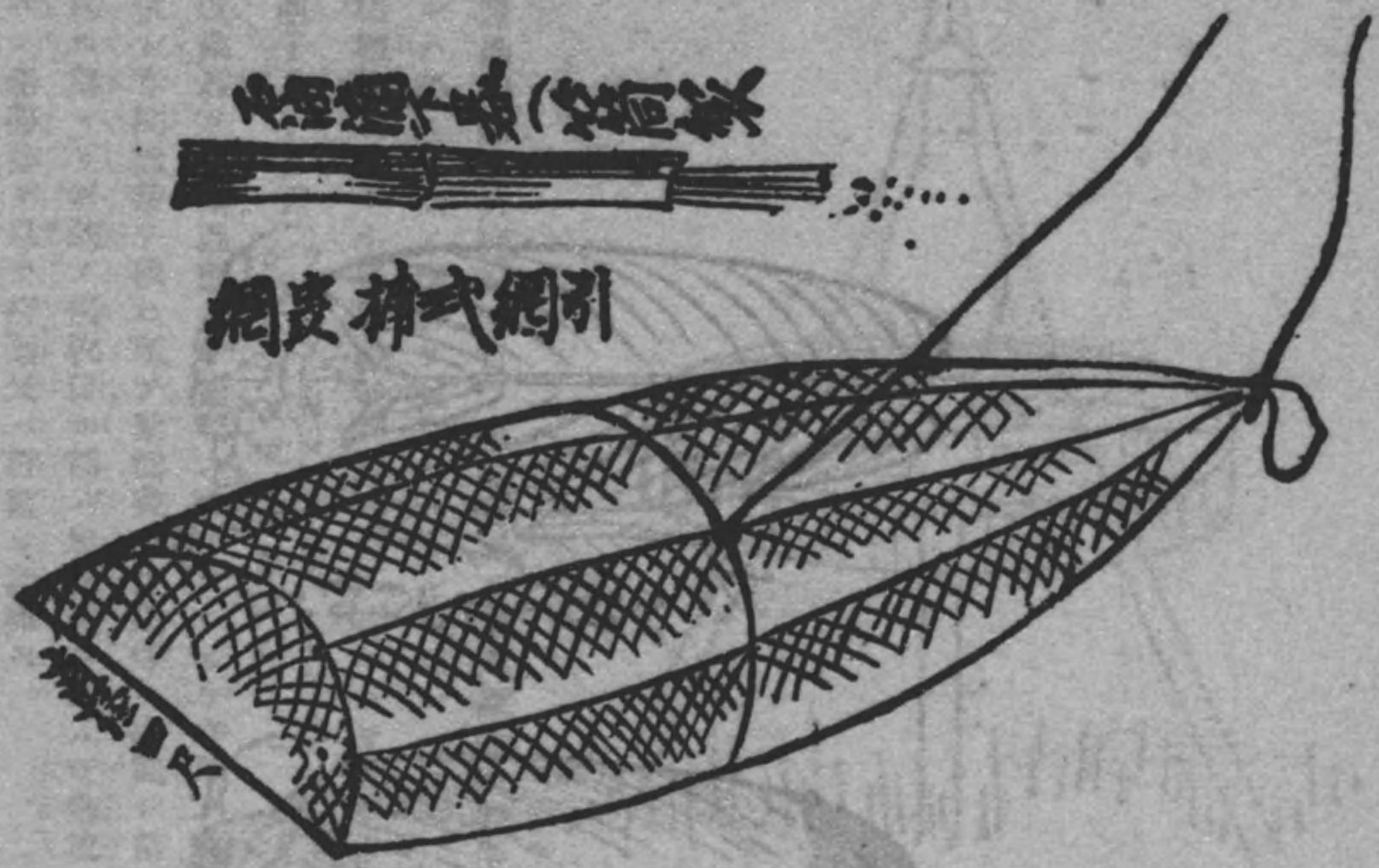


〔長野管〕



〔長野管〕

一、つまぐるよこばい
 全體綠色ニシテ脚ハ細弱褐色條ハ黒色ナリ
 二、いなづまよこばい
 全體淡褐色ニシテ翅ヲ合ヒハ淡褐色電光狀ノ斑紋アリ
 三、とびいろらんか
 體赤褐色ニシテ脚大セリ
 四、白色よこばい
 腹及背ハ黒色ニシテ頭及翅ハ白色ナリ
 此他ひめとひらんか、せしろらんか、みつてんよこばい、大よこばい、こみとりよこばい、ふたてんよこばい、よつてんよこばい等アリ



〔長野〕

驅除防法

一、苗代ニ於テハ
引網式捕蟲網ヲ以テ捕殺スヘシ
苗代ノ播種前其周圍ノ畦畔ニ生セシ雜草ヲ刈取ルヘシ
幼蟲發生盛ナル時イニセトールノ八十倍乃至百倍液ヲ灌注スヘシ

二、本田ニアリテハ
(一) 一段歩ニツキ石油一升五合乃至二升ヲ晴天ノ日ニ前圃ノ如キモノニテ少シク、注キ其油ノ散リタル頃細竹ノ類ニテ稻葉ヲ拂ヒ蟲ヲ水面ニ落シ殺スヘシ
秋季畦畔ノ雜草ヲ刈取ルカ又ハ鎌キ棄テヘシ
但シ畦畔雜草キニハ野火ノ蔓延セサル様注意スヘシ

(二) 成蟲ハ中形ノ肥大セル蝶ニシテ全體黄キ茶褐色ヲ呈ス一文字セ、ヨト花セ、ヨノ區別ハ後翅ニ存スル四個ノ斑點ノ排列ニヨルモノニシテ一文字セ、ヨハ其斑點一文字ヲ呈シ花セ、ヨハ銀齒狀ヲ呈ス而シテ兩者トモ前翅ニ七個ノ斑點アリ

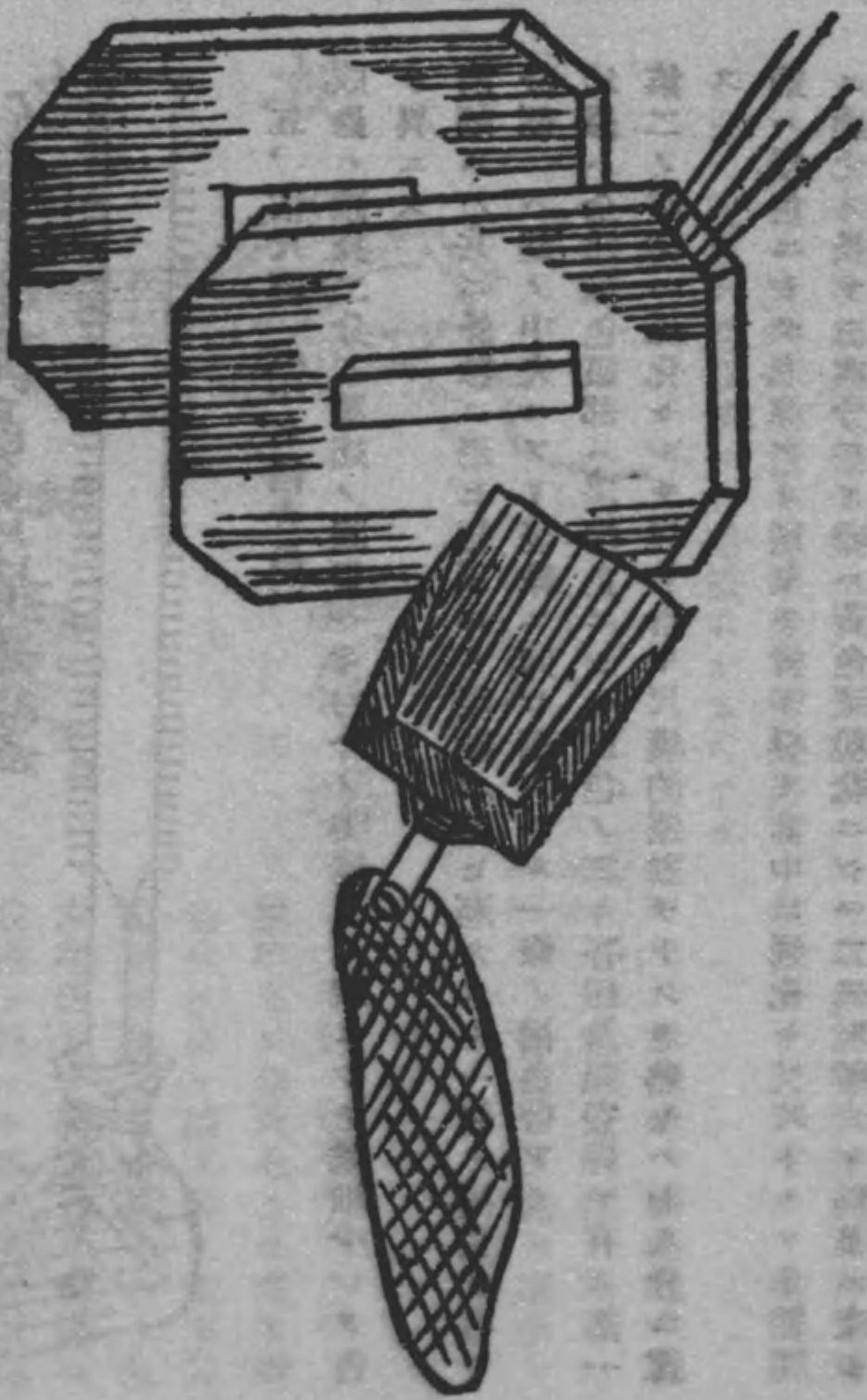
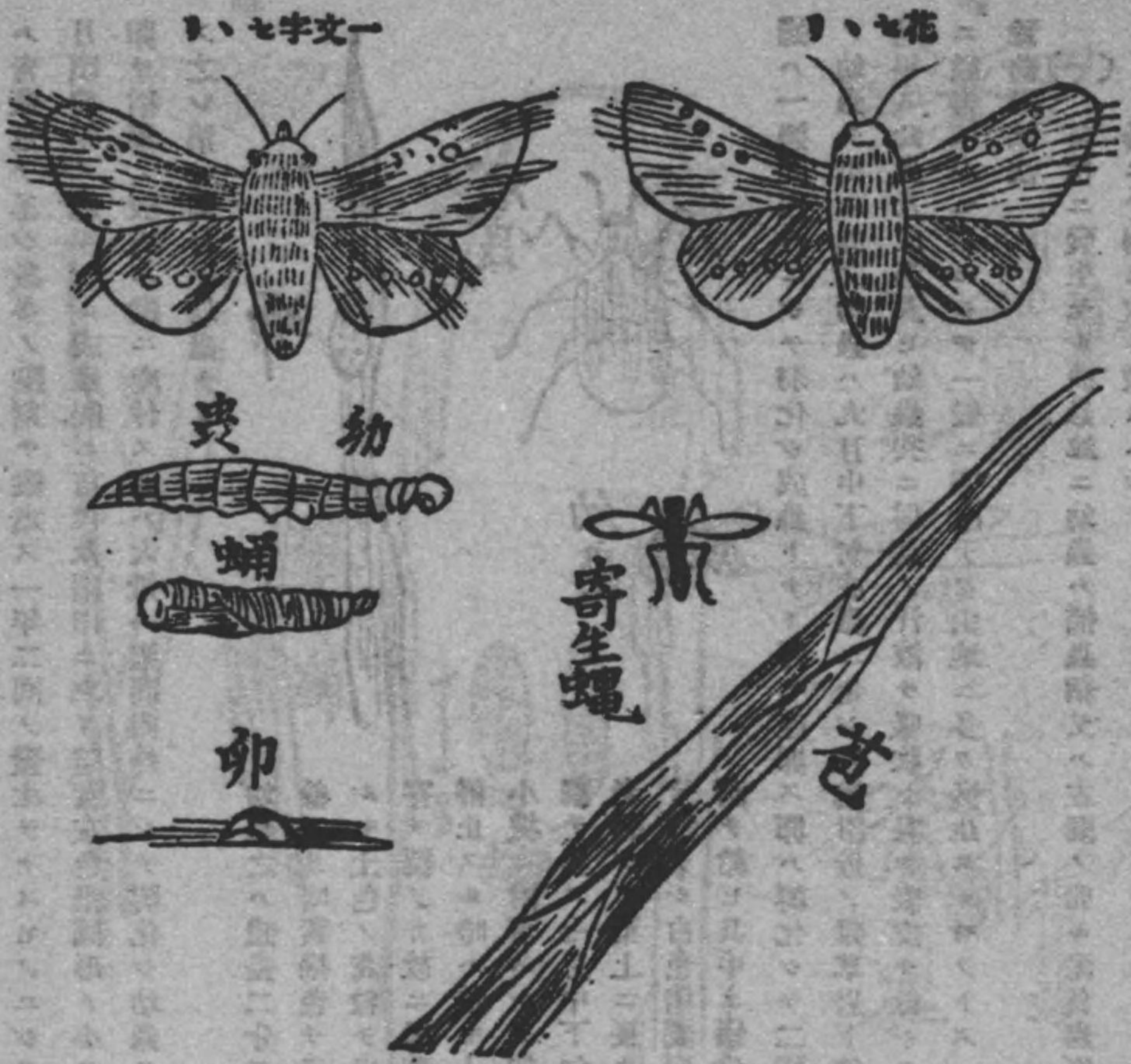
(三) 成蟲ハ年二回ノ發生ヲナスモノニシテ其第一回ハ七月第二回ハ八月下旬ヨリ九月上旬ナリ好シテ花間ヲ飛翔シ殊ニ苜蓿、蕎麥圃ニ集ルコト多ク翅力強大ニシテ第一回ノモノハ縞、第二回ノモノハ多ク條葉ニ産卵ス卵ハ一個宛産付セラレ其色茶褐色ニシテ少シク青色ヲ帯ヒタル銀頭形ノ體形甚ク類似ス

三、方官 (カラダシ、チマキムシ) 方官 (ツトムシ、ハムシ)

稻ノ在蟲ニ二種アリ一チ一文字セ、ヨト云ヒ他チ花セ、ヨト稱シ共ニ其體形甚ク類似ス

〔長野〕

モノナリ大抵六七日ニテ孵化ス
幼蟲ハ頭部大ニシテ頸部細ク末梢ニ至ルニ從ヒ膨大ス稻葉及笹葉ヲ食シ白色ノ絲ニテ葉ヲ綴リ苞トナシ其中ニ蟄シテ蛹トナル充分成長シタルモ



ノハ長サ一寸餘トナリ幼蟲態ニテ越冬ス
蛹ハ淡キ茶色ニシテ頭部扁タテ苞中ニアリ四圍ニ絲チカク白色ノ分泌物ヲ附著ス
苞蟲ノ幼蟲及蛹ニハ種々ノ寄生蟲及寄生蜂アリテ之方爲メニ難クシタルハ往々見ル所アリ

驅除防法

(一) 成蟲ハ卵形捕蟲網ヲ以テ捕殺スヘシ
葉ヲ綴リタル幼蟲ハ左圖ノ如キ袋ヲ附シタル網ニテ稻葉ヲ梳リ捕殺スルカ或ハ厚板ノ類ニ枚ヲ以テ叩殺スヘシ

四 泥負蟲 方官 (フロシ、メロムシ)

成蟲ハ體長一分五六厘ノ甲蟲ニシテ頭部及腹部ハ黒色前胸部ハ褐色前翅

ハ青藍色ヲ呈シ多ク點刻ヲ能走ス一年二回ノ發生ヲナスモノニシテ六月頃前年ノ越冬セル成蟲既ニ苗代及稻田ニ來リ暗灰色楕圓形ノ小サキ卵ヲ稻葉ノ表面ヘ産シ産付ス卵ハ大抵一週間内外ニシテ孵化シ幼蟲ヲ出ス之レ第一回目ノ幼蟲ナリ



幼蟲之ハ體長二分五厘餘アリ暗褐色ヲ呈スルモ土色ノ糞粒ヲ以テ寄テ覆フカ故ニ稻葉ニ附止スル時ハ恰モ土ノ小塊カ附著スルカ如キ觀テ基ス七月中下旬ニ老熟シテ葉上ニ長サ二分許ナル白色楕圓形ノ繭ヲ結ヒ其中ニ蛹化ス繭ハ一週間内外ニシテ羽化シ成蟲トナリ再ヒ産卵ス卵ハ孵化シテ二回目ノ幼蟲ヲ出ス此ノ幼蟲ハ九月中下旬成蟲ニ化シ其體附近ノ雜草岩下等ニ越冬ス此處及成蟲及ヒ幼蟲共ニ稻葉ノ汁液ヲ吸取シ且ツ表皮ヲ蝕シテ縱ニ蝕害スルモノニシテ一般ニ寒冷ナク山地ニ多ク發生スルモノトス

〔長野縣〕

(三) 秋末ヨリ冬ニカケ附近雜草及岩下等ニ隠レ存スル成蟲ヲ捕殺スヘ

鉄製泥負捕獲器



五、稻尺蠖 (一名稻青蟲) 成蟲ハ體長二分五厘弱ノ圓盤一寸内外ノ美麗ナル蝶ニシテ雌雄少シクテ異ニス 前翅ニハ共ニ外縁ニ沿ヒ翅頂ヨリ後縁ニ向ヒ漸大スル一條ノ褐色帯アリ後翅ニハ翅ノ中央ニアリ後縁ニ向ヒ漸大スル一條ノ褐色帯アリ 幼蟲ハ全體綠色頭部ハ淡褐色ニシテ白色ノ細キ脊線及亞脊線ヲ有ス第一第二ノ腹脚ハ退化セルヲ以テ恰モ尺蠖的運動ヲナス老熟セハ七八分ニ達ス 繭ハ褐色ニシテ光澤アリ稻葉ヲ折り疊ミ其中ニ蛹化シ又時トシテ葉間ニ蛹化ス長サ三四分アリ卵ハ黄色栗粒狀ニシテ二三粒聯ツ、稻葉ニ産シ 孵化前ニハ赤色ノ繭線ヲ生ス 連年經過表 明治三十八年度調査 五月三十日 前年ノ繭線ニ化ス (第一回成蟲) 六月二日 産卵ス 六月七日 孵化シテ幼蟲トナル 八月二日 繭ニ化ス

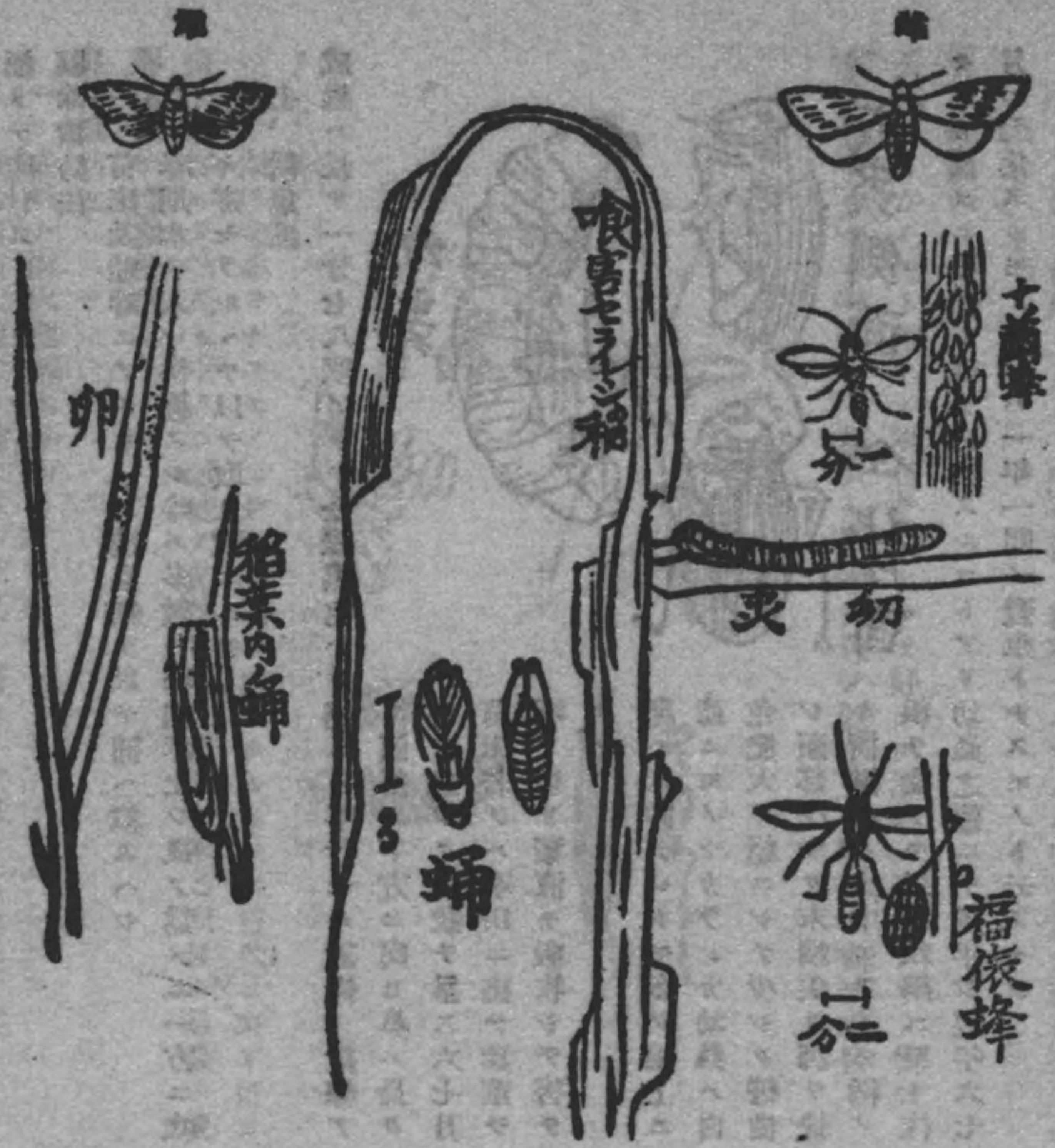
〔長野縣〕

蛾トナル (第二回目ノ成蟲)

八月六日 八月九日 八月十五日

産卵ス 繭ニ化ス

繭ハ稻葉ノ葉尖ヲ疊ミ其中ニ入り稻葉ト共ニ越冬ス



豫防驅除法

- (一) 成蟲ハ燈火ニ集ルヲ以テ點火誘殺ヲ行フヘシ
(二) 苗移植ノ際ニハ繭ノ稻葉ヲ疊ミ蟄伏セルモノ水面ニ多ク浮ブヲ以テ之ヲ集メ殺スヘシ
(三) 幼蟲ノ苗ヲ蝕害スルモノニハイソセクトール百倍液ヲ如露又ハ噴霧器ニテ射殺スヘシ
(四) 本田ニ幼蟲ノ盛ニ發生シタル場合ニハ一段歩ニ付米糞五六升ト石油一升内外ヲ注キ入レ蟲ヲ拂ヒ落シテ殺スヘシ
(五) 成蟲ハ捕獲網ニテ捕殺スルモノ可ナリ



六、蝻 (蠧) 總年セル卵六七月ニ至リ孵化シテ出テ稻其他ノ禾本科植物ヲ食シテ成蟲トナリ秋末産卵シテ死ス繭ノ幼蟲ハ成蟲ト異ナル事ナク唯ハ翅ヲ缺クノミナリ其充分成長スル時ハ體長一寸三四分ニ達ス 卵ハ地下若クハ稻株間ニ産付セラル其色淡褐ニシテ長

楕圓形ヲ呈シ直径二分五厘内外アリテ瓦色ヲナセル狀ノ物質中ニ數多
メテ産付ス

(二)(一) 苗床及畦畔ニアルモノハ捕蟲網ヲ以テ捕ヘ殺スヘシ
春期水ヲ入レ耕種スル時ハ多數ノ卵塊浮上シ風ノ爲メニ一方ニ吹
キ寄セラルハテ以テ取り殺スヘシ

七、稻象蟲

成蟲ハ長サ一分七八厘アリテ全體黒色ナリ翅ニハ平行セル數條ノ縱線アリ
頭部ハ下方ニ向ヒ鼻ハ長ク
少シク鉤狀ヲ呈ス六七月
苗床若クハ本田ニ出テ莖莖ヲ
嚼ミ切り葉液ヲ吸飲シテ害ヲ
ナス

幼虫



成虫側面 全背面

々之方爲メニ葉節ヲ後チ白枯スルコトアリ幼蟲之體ニテ越冬シ翌年六七
月ニ羽化スルモノナレバ一年一回ノ發生トナスモノト云フベシ
八、稻のむくげむし (一名スリツアス又ハアザミウマト云フ)
多クハ成蟲ニテ越冬スルモノ、如ク六月一日頃既ニ苗代ニ來リ葉液ヲ吸
飲シ苗葉ヲ捲キ突ラシテ其中ニ存ス成蟲ハ體長五厘内外光澤アル黒色ニ
シテ短毛ヲ粗生ス(短毛ハ肉眼ニテ詳カナラズ)六月十日頃成蟲卵ヲ第一

〔長野縣〕

〔長野縣〕

(四)(三)(二) 尖ノ捻レタルモノハ剪ミ落シ葉集メテ焼キ棄ツヘシ
本田ニ存スルモノハ未ダ良法ヲ聞カス
インセクトールノ六七十倍及ヒ石油乳劑ノ五十倍液ハ幼蟲ヲ殺ス
テ以テ注射スヘシト雖モ苗ノ稀薄ナルモノハ害アルヲ以テ行フヘ
カラス

九、稻蟲のりうじ
長蟲ハかかんぼト稱スル脚長ク蚊ニシテ好シテ湿地ニ産卵スルノ性アリ
卵ハ孵化シテきりうじト稱スル扁平白色ノ蛆トナリ稻莖ノ根ヲ喰害ス



一年二回ノ發生ヲナスモノニシテ春期ニ出テタルモノハ苗代ニ來リ苗ノ
根ヲ喰害シテ枯死セシムル濕地ノ苗代田ニ此害多シ第二期目ノ幼蟲ハ秋
期ニ出テ害根ヲ害ス
驅除法
(一) 成蟲ハ點火燻殺スヘシ
(二) 苗代田ハ秋期分ニ排水スルカ又ハ初ヨリ乾燥ノ良キ地ヲ撰ムヘシ

同ノ幼蟲ヲ出ス

幼蟲ハ全體赤黄色ニシテ翅ヲ缺クノ外成蟲ト異ラズ
第一回幼蟲ノ孵化シ出ル當時ハ苗ノ未ダ苗代ニアルノ時ニシテ其一本中
多キハ數十百ヲ以テ數ヘラル、コトアリ苗ノ葉尖ノ黄色ヲ呈シテ是レ大
苗ノ捻レタル狀

成虫



卵

第二回成蟲ニシテコトアラバ取りテ殺スヘシ此蟲多クハ存在セシ
第二期目ノ成蟲發生時ハ大抵八月下旬頃ニシテ當時恰カモ稻穂ノ出ント
スル頃ナリ此時成蟲ハ穂頭ノ所ニ二三疋宛存在シテ下部ヨリ出テ産ル糞
ノ汁液ヲ悉ク吸飲スルヲ以テ秋末ニ至リ莖葉ニ何等ノ被害ナキニモ保テ
ス稻穂ハ風枯ノ如ク白枯シテ浮トナリ穂ヲ常トス
むくげむしヨリ其形細小ニシテ人目ヲ避ケコト少シト雖モ蠶下ニ於ケ
ル被害ノ度ヤ實ニ大ナルモノアルヘシ
驅除法
(一) 苗代ニ存スルモノハ捕蟲網ニテ苗ヲ捲ヒ捕ヘ殺スヘシ

〔長野縣〕

(四)(三) 麥ヲ害スルコト多キ地ハ可成土地ノ排水ヲ行フヘシ
苗代ニ一寸五分乃至二寸ノ深サニ一二晝夜水ヲ張ルトキハきりう
じ雌雄ニ集ルヲ以テ熱湯ヲ注キ殺スヘシ
インセクトール五升内外ヲ苗代田ノ水ノ深サ一寸位トナシ注入シ
置クトキハ拾三四時間ニシテ悉ク死シ水面ニ浮上スヘシ

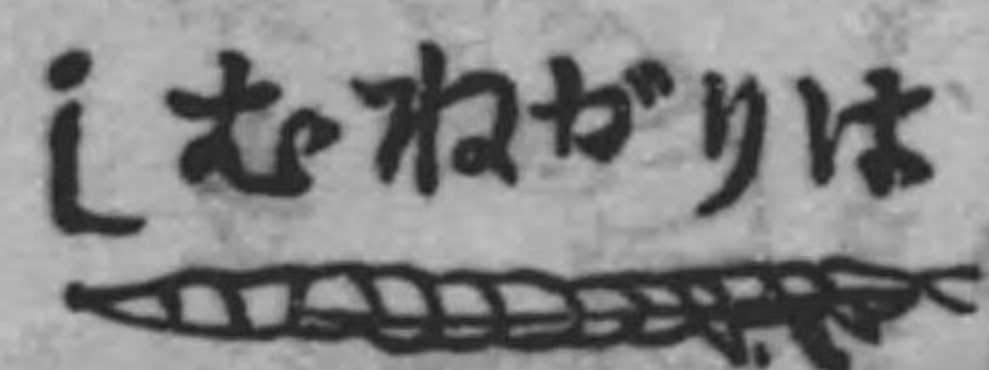
第三節 麥ノ害蟲

麥ノ害蟲トシテハ恐レヘキハ叩頭蟲、野蟲、金龜子蟲ノ幼蟲ナリ此中野
蟲金龜子ニツキテハ後章ニ論スルヲ以テ茲ニテハ單ニ叩頭蟲ニノミ就テ論
スヘシ

一、叩頭蟲

成蟲ハ細長扁平ニシテ腹ク黒褐色ヲ帯ビタル甲蟲ニシテ之レヲ倒置スレ
ハ前胸ヲ屈折シテ自ら跳リ上ル事ヲ得六七月頃盛ニ發生ス

幼蟲ハ橙黄色ノ堅キ光澤アル長
形ノ蟲ニシテ俗ニハリガネムシ
ト稱ス常ニ土中ニ存シ春季麥根
莖葉ノ種子等ヲ喰害スルコト甚
シ故ニ之ノ多ク存スル所ノ麥ハ
萎縮シ枯死シ苗床ノ種子ハ悉ク
發芽セサルコトアリ二三年間幼
蟲態ニテ存スルモノ、如ク深ク
土中ニ入り蛹ニ化スルヲ以テ未



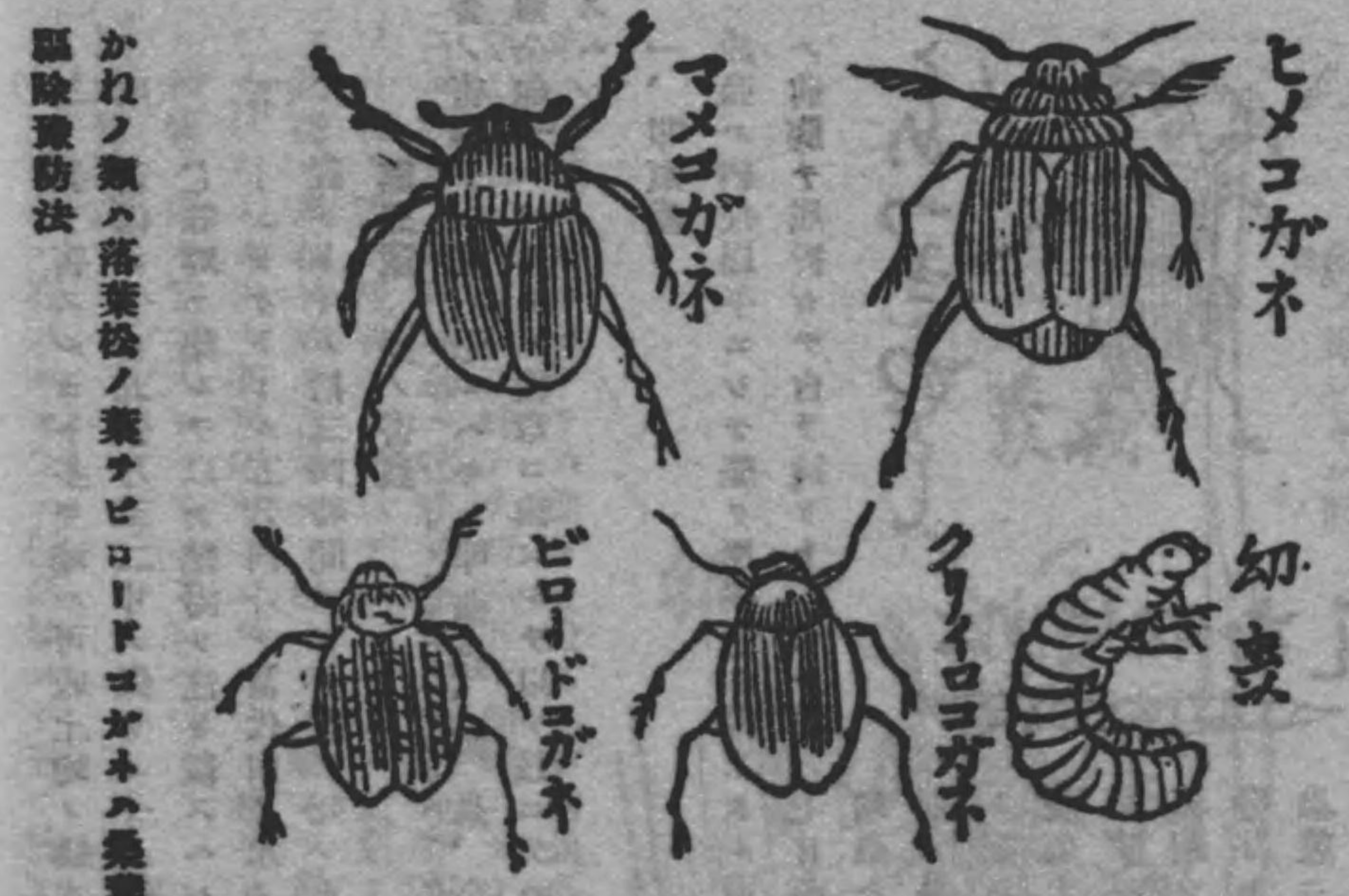
完全ナル蛹ヲ見ス
驅除法
(一) 早春黃變シタル時ハ其根ヲ檢シテ幼蟲ヲ殺スヘシ

(二) 被害多キ地ハ甘藷馬鈴薯等ヲ切斷シ土中ニ埋メ又米糠等ヲ處々ニ埋メ置キ幼蟲並ニ成蟲ヲ殺スヘシ
 (三) 石灰食鹽ヲ播種前地上ニ撒布シ置キ時ハ放アリト云フ
 (但食鹽ハ一段少ニ付百斤乃至五十斤ヲ用フヘシ餘レハ植物ニハ害ナクシテ却テ間接的肥料ノ效ヲ奏スヘシ)
 (四) 松、杉、等ノ如キ針葉樹ノ葉ヲ土中ニ埋メル時ハ針金蟲ヲ驅逐スルコトヲ得ルト云フ
 (五) 蕎麥、豌豆、蚕豆、落花生等ヲ適宜輪作スル時ハ著シク害ヲ免ルコトヲ得ヘシ



一、こぶき象鼻蟲
 體長一分五厘乃至二分全體黒色ノ觸毛ヲ密生シ雌ハ雄ヨリ稍々大ナリ六七月頃産ニ出テ、夏葉ヲ喰害スルハ圓形白色ノ小粒ニシテ粘着力ナキヲ以テ悉ク地上ニ落下ス五日内外ニシテ黒色トナリ白色ノ小ナキ蛆トナリ土中ニ入ル幼蟲ハ多ク土中ノ有機分ヲ食シ越冬シ翌年初夏成蟲トナルモノ、如シ
 豫防除滅法
 糞ノ器内ニ成蟲ヲ捕ヒ落シ殺スヘシ
 二、金龜子蟲
 大豆ノ葉ヲ害シ葉脈ヲ遺シテ網狀トナス之レニひめこかれ、まめこかれ、くりいるこかれ、びろいどこかれ等ノ種

類アリ
 ひめこかれハ美麗ナル金屬光澤ヲ有スル大形種ニシテ體色綠キナリ其ノ普通ナルモノハ綠色、藍色、黒藍色、條柄、褐色ナリ體長四分乃至五分アリまめこかれハ暗綠色ヲナシ體長四分内外アリ



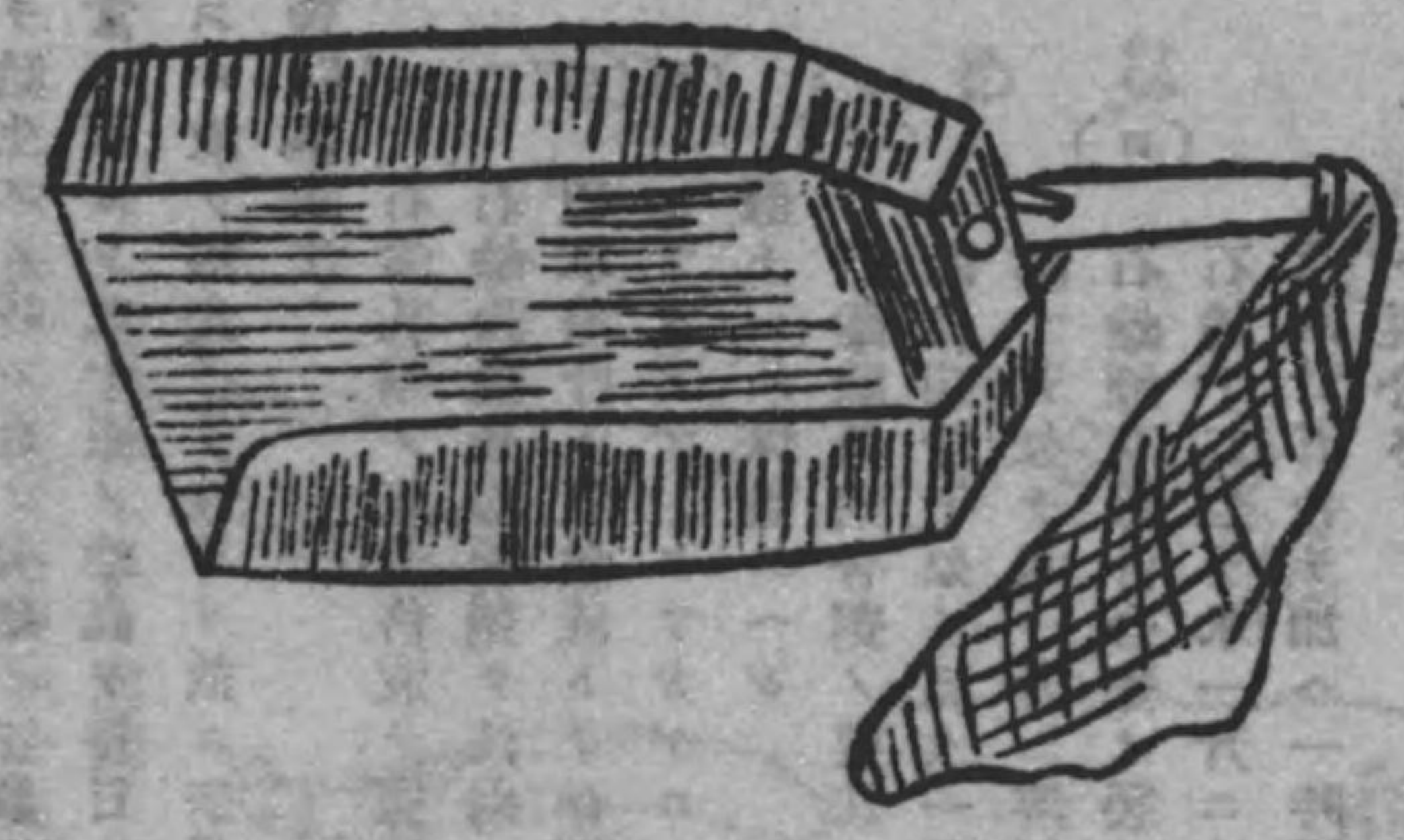
くりいるこかれ、全體栗色ヲ帶ヒ長サ三分内外アリ(此ノ種ハ寧ろ甘藷ノ葉等ヲ食害スルコト多シ)
 びろいどこかれハ天鵝絨色ヲナシ體長五分五厘乃至三分位ノ甲蟲ナリ
 雌ヲ金龜子ノ類ハ土中ニ産卵シ幼蟲ハ地下ニアリテ一年一回ノ發生ヲナスモノニシテ七八月出テ、豆、蕎麥、苜蓿等ノ圃ニ來集喰害ヲナシ秋ニ至リ産卵シテ死ス幼蟲並ニ越冬シ幼蟲ハ春根ヲ害ス以上ノ内まめこかれ、ひめこかれノ類ハ落葉後ノ葉ヲビロイドコガネハ葉莖ヲ喰害スルコトアリ
 區除豫防法

(四)(三)(二)(一)
 夜間被害地ノ附近ニ點火シテ誘殺スヘシ
 冬期耕種ノ際幼蟲ノ地下ニ存スルモノヲ捕殺スヘシ
 朝露ノ未タ乾カサル間ニ被害地ニツキ捕殺スヘシ
 僅少ノ酒精ニ薄シテ液カシ之レニ適宜除蟲菊精ヲ加用シタル液ヲ注射セハ多ク之レヲ斃スコトヲ得ヘシ
 第五節 蔬菜ノ害蟲
 一、さるばむし



黒色ノ光輝アル小ナキ甲蟲ニシテ蔬菜ノ葉ヲ喰フヲ以テ種々苗ハ性々枯
 第六編 農業 第一章 農藝

死スルニ至ル
 卵ハ楕圓形黃色ニシテ被害植物ノ莖葉ヲ穿テ産付ス
 幼蟲ハ黒色ニシテ一分七八厘アリ全體ニ肉狀ノ突起ヲ有シ圓ル、時ハ體ヲ彎曲シテ地上ニ落下ス成蟲ト共ニ葉ヲ喰食ス幼蟲老熟セ土中ニ入り淡黃色ノ蛹ニ化ス
 一年二回ノ發生ヲナスモノニシテ秋季ニ出テ翌年第二回目ノ成蟲ハ土中ニ越冬シ春季出テ、蔬菜類ニ産卵ス此卵孵化シテ六七月頃ニ至リ第一回目ノ成蟲トナリ十月頃迄ニ生存シ漸次産卵シテ第二回目ノ成蟲ヲ出ス
 (一) 上器ノ如キ器内ニ捕ヒ落シ糞メテ殺スヘシ
 (二) 秋季播種期ノ約一二週間前ニ蔬菜類ヲ播下シ肥料ヲ與ヘテ生育ヲ保護シさるばむしの多くつきたる頃糞キ菜ヲ後テ正式ニ播種スヘシ
 (此法ハさるばむしのミナラス野蟲、カブリ蜂幼蟲等總テ蔬菜類ニ來ル害蟲ニハ多ク用ヒラル、豫防法ナリトス)



(三) 石油乳劑ノ五十倍液ニ容量ニテ五十分ノ一(石油乳劑五)ノ除蟲菊粉ヲ加用シタルモノヲ撒注スヘシ
 石油乳劑ノ製法
 洗濯石鹼又ハ軟石鹼(一名加理石鹼ト云フ)二十二匁ヲ水七匁内外ニ溶カシカナダラヒ標ノモノニ入レ火焰ノ上ヲサレ火ニカケ熱シ其ノ温マヨ

火土より下ロシ石油五合チ入レ再ヒ火ニカク攪拌シテカラ熱スル時ハ終ニ糊状ノモノトナル此ノ時火より下ロシ其冷却シタル時水チ加ヘテ稀釋スルモノトス

石鹼ト石油巧ニ混合セサルモノハ石油濁リ上部ニ遊離ス新カレモノハ非常ニ稀釋スルモ植葉チ害スルモノナレハ注意スヘシ

成虫



幼虫



年数同ノ發生チナスモノナレトモ雄ハ秋末ニ至リ一回發生スルノミニシテ雌チ需メ交尾シ成卵ス此ノ卵越年ニ至リ幼虫トナルモノニシテ之レヨリ生シタル幼虫ハ雌ノミニナリ而シテ平素ノ繁殖ハ胎生法ニヨルモノトス

〔長野野〕

シテ今日ニ至ル迄ノ景況ニ添ヘ實地調査ノ上ニ係ル其習性ノ一斑ヲ揭ケルコト左ノ如シ

幼虫ハ前陣ノ如ク生植物チ喰害スレトモ雨前雨後特ニ天候轉變ニシテ濕潤ナルトキハ晝夜ノ別ナク土中ヨリ出テ、食チ求メ幼虫ニアリテハ主トシテ葉ノ軟組織チ食ヒ網狀ニナスト雖モ老熟スルニ從ヒ全葉チ害スルノミナラス腐植質及ヒ動物質チ食ヒ混合ニヨリテハ樹皮ニ迄害チ及ボスコトモアレトモ夏月天候乾燥スルトキハ其習性トシテ常ニ塵埃乗揚其他雜草等ノ根邊ニ遷キ日光ヲ避ケ夜間ニ於テ害チ爲スコト甚ダシキモノトス

卵ハ半透明ニシテ楕圓形チナシ其大ナルモノハ殆ント小豆ノ如キモノモアレトモ大抵ハ小ニシテ土中ニ一粒ツ、産卵シ或ハ粘液チ以テ粒々連結シ以テ一ノ卵塊チナスモノアリ而シテ一塊ノ卵數少キハ三四粒多キハ二七七八粒ノモノモアリ幼虫ハ孵化後十日頃ニ至レハ三分乃至五分位ノ大キサトナリ又一ヶ月ヲ經テ體長八分位ニ伸長スルモノチ以テ其最も大ナルモノトス

産卵期ハ數ヶ月間ニ亙ルモノナラシカ五月中旬ニ於テ始テ産卵シタルモノアルチ觀メシモ七月以後ニ於テ月間尙ホ續々産卵セシモノアルチ以テ觀レハ氣候ノ溫暖ナル間ハ時々産卵スルモノニシテ孵化スル迄ノ日數ハ産卵後凡ソ二十日内外ヲ要スルモノ、如シ

驅除防法

一、冬月間ハ土地チ打起シテ蟄伏スルモノチ寒氣ニ觸レシムヘシ

二、雜草繁茂ノ頃ニ於テハ草チ刈取リ成ヘク地表チ日光ニ當テ夏月地

表ノ乾燥スル頃ハ不用ノむしろチ適宜ニ切テ被害地ノ所々ニ配置

シ水チ注キ十分濕ホシテ之ヲ誘殺スヘシ其他誘引ノ效アルモノハ

馬鈴薯或ハ南瓜ノ如キ葉ノ廣キモノニアリ是等ノモノチ撰ミ所々

ニ配置シ時々點檢シテ撲殺スルモ良シ

幼虫ハ不完全變態チナスモノニシテ幼虫ハ唯々成虫ノ小ナルニ遷キス之等ノ幼虫成長シテ成虫トナレハ多ク翅ナキモノチ胎生ス住々翅アルモノチ胎生スル時ハ此ノ有翅ノ幼虫ハ他ニ轉居シテ柱ニ無翅ノモノチ産ス通常一頭ヨリ三十頭ノ幼虫チ毎日一回ツ、産スルモノトス蟻ハ幼虫ノ分泌スル液チ喰食スルノ性アリ故ニ幼虫チ保護シテ其ノ繁殖チ助ケルモノトス

驅除防法

(イ)

(ロ)

石油乳劑ノ五十倍液チ撒注スヘシ

石鹼除虫粉チ注射スヘシ

石鹼除虫粉チ注射スヘシ

石鹼除虫粉チ注射スヘシ

石鹼除虫粉チ注射スヘシ

石鹼除虫粉チ注射スヘシ

石鹼除虫粉チ注射スヘシ

石鹼除虫粉チ注射スヘシ

石鹼除虫粉チ注射スヘシ

三、卵ハ積立塵埃ノ如キモノ、下ニシテ常ニ濕氣チ帶フル所ニアリ故ニ被害地ニ於テハ勉メテ之ヲ取除キ土地ノ清潔乾燥スル機注意セサルヘカラス

四、場合ニヨリテ石灰チ以テ驅除ノ必要ヲ認ムルコトアリ又石灰ト食鹽トチ交番ニ施スモ效アルモノトス

何レニ依ルモ夜間ニアラサレハ多ク地表ニ出ルコトナキチ以テ日中ノ驅除ハ效力

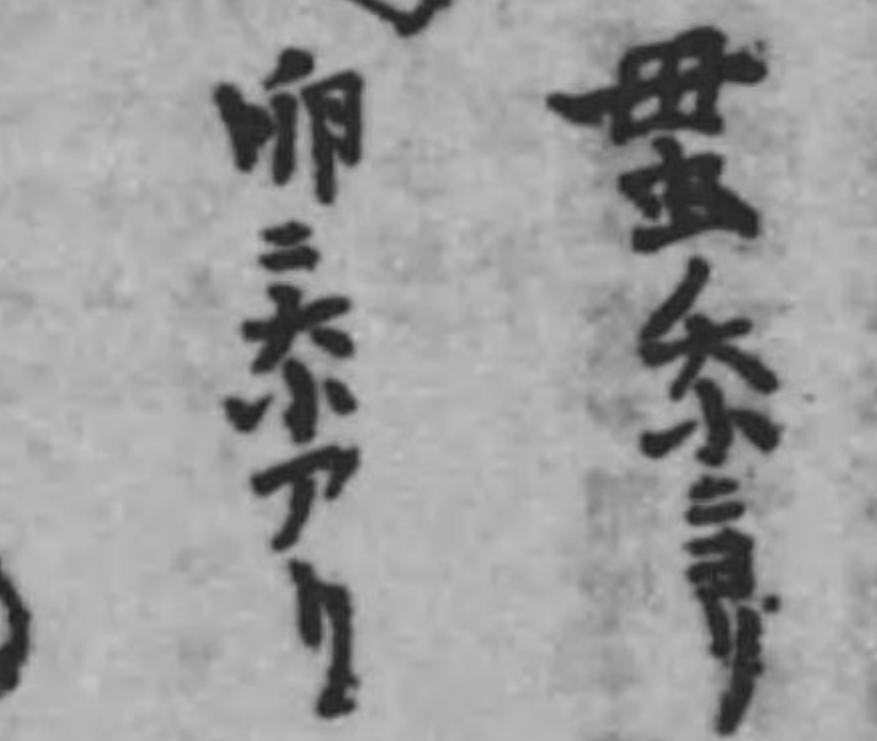
弱ナキモノトス縱令夜間ノ驅除ト雖モ石

灰ニ觸レタルモノハ粘液チ以テ之チ除キ

難チ免レントスルモノナレハ只一回ノ驅除チ行フモ決シテ其

完全チ期スヘカラサ

母虫ノ卵



ハントスルニ當リ灌漑ノ便アル土地ナレハ先ツ一箇土地チ濕フシテ後チ石灰チ撒布シ一兩日ヲ經テ更ニ一段歩ニ付二斗五升内外ノ食鹽チ施スチ良トス若シ食鹽チ用ヘサル時ニ於テハ石灰ノ量分チ根際ニ施シテ蟄伏ノ根邊ニ潛伏セシメサルノ方針チ取り傍ウ前記

ノ數ヲ適宜參酌シテ驅除ノ效ヲ奏スヘシ
四、地置一名夜盜蟲

方言 コウジク、キリウジ、子ギリムシ、シムシ

成蟲、肥大ナル蛾ニシテ長サ六七分アリ全體茶褐色ニシテ觸角ハ絲狀ナ
ナス前翅ニハ黒褐色ノ不正ナル斑紋アリ特ニ著シキハ前翅ノ外縁ニ沿フ
テ波狀ノ線アルコトナ



卵ハ白色圓形ニシテ一ヶ
所ニ百個乃至二百個宛
メテ葉裏ニ産付ス此卵時
ヲ經レハ赤キ圓紋ヲ生ス
一雌能ク五六百粒ヲ産シ
孵化ノ時至レハ卵殼紫色
トナル
幼蟲、體色一定セスシテ
綠色濃茶褐色、灰白色、
淡黑色、灰綠色等種々ナ
レトモ要スルニ孵化後三
齡頃マテハ其色主トシテ
青ク腹脚ニ對テ缺キ恰カ
モ尺蠖狀ノ葡萄ヲナシ晝
夜ノ別ナク葉ヲ喰害スレ
トモ已ニ四五齡ノ頃ニ至
レハ葉間土中ニ潛ミ夜間
出テ、葉ヲ食ス此ノ時ニ

〔長野書〕

至レハ體多クハ茶褐色トナル幼蟲ノ充分成長シタルモノハ體長一寸二三
分トナリ腹脚四對トナリ人若シ之レニ觸ル、時ハ體ヲ曲ク死狀ヲ呈ス
幼蟲ハ主トシテ豌豆、蕎麥、粟、蔬菜、油菜、烟草、桑等ノ葉ヲ喰害ス
ルモノニシテ秋季ハ主ニ蕎麥大根ヲ食シ春季豌豆南瓜、瓜、胡瓜等ヲ食
害ス而シテ一朝食物缺乏スルトキハ何種ノ植物ヲ問ハス食盡スルヲ嘗ト
ス
蛹赤褐色ニシテ長サ七八分土中ニアリテ蛹態ニテ越冬ス
越冬經過表

第一期成蟲發生ス

五月下旬 産卵ス

四五月ニシテ孵化シ幼蟲トナル

六月下旬迄ニ老熟ス

六月下旬乃至七月初旬蛹化ス

九月上中旬第二回成蟲發生ス

九月上中旬産卵ス

四五月ニシテ孵化ス

十一月下旬迄ニ蛹化ス

(蛹態ニテ越冬ス)

驅除豫防法

一、春ハ豌豆秋ハ蕎麥ノ葉裏ヲ檢シ卵塊ヲ潰殺スヘシ

二、孵化當時ノ幼蟲ハ一ヶ所ニアリテハ葉ヲ網ノ如ク食害スルモノニ
シテ極メテ落下シ易キモノナレハ細目ノ網等ノ中ニ振ヒ落シ殺ス
ヘシ

三、三四齡以後ハ葉間ハ土中ニ潛ミ夜間出テ、附近ニ漫延スルヲ以テ
畑ノ内部及周圍ニ一尺許リノ深サノ溝ヲ掘リ溝中ニ土ヲ積リ以テ

〔長野書〕

一、置キテ此ノ中ニ陥レ翌朝集メテ殺スヘシ
四、時々被害作物ノ根ヲ掘リ檢シ捕殺スヘシ
五、春被寄地ノ畦畔ヲ檢シ潜伏セル幼蟲ヲ捕殺スヘシ
六、糖蜜誘殺ハ成蟲ノ捕殺ニ效アリト云フ

第六章 果樹ノ害蟲

一、貝殼蟲

種類甚タ多ク各種ノ樹木及果樹殆ント之レカ寄生テ受ケサルモノナシ殊ニ
桃、杏、梨ノ如キ其害チ受ケルコト少シトセス

雌ハ常ニ一對ノ脚ヲ生シ後翅ハ退化シ屈曲シタル小棍トナリ口部ハ退化ス
雌ハ無翅ニシテ觸角、脚、眼等ヲ缺キ肉狀ニシテ舉動極メテ不活潑ナリ多
クノ場合ニ背上ニ介殼狀ノ物質ヲ分泌シ固著シ不動體トナリ植物ノ幹枝ニ
固著シ汁液ヲ吸收ス卵生チ主トスレトモ柱々胎生蕃殖チナスコトアリ

豫防驅除法

(一) 石油乳劑ノ二三十倍液ヲ注クヘシ
(二) 竹筴或ハ硬毛ノ刷子ニシテ葉裏ヲ介殼及菌ヲ取り除クヘシ

(二) 苹果細蟲

雌ハ多ク無翅ニシテ赤褐色ヲ呈シ腹脚肥大シ許多ノ白毛ヲ附著ス有翅ノ雌
ハ無翅ノモノ、如ク肥大ナラス類ハ灰色ヲ呈シ全體黒色ナリ

幼蟲産下ノ當時ノ雌ハ毛ヲ缺キ口吻甚タ長シ胎生蕃殖チナシ幼蟲ハ生長ス
ルニ從ヒ細毛ヲ生ヌ夏時ニアリテハ幼蟲ハ十餘日ヲ經テ無翅ノ母トナリ十
五日乃至二十日間ニ六十乃至百個ノ飯蟲ハ胎生スト云フ冬期ハ樹皮ノ下部
或ハ隙間ニ集リ越冬ス

此ノ蟲ノ寄生チ受ケタル果實ハ新梢屈曲シ枝幹ハ其ノ汁液吸收ノ際刺傷ニ
ヨリ膨大シテ瘡狀ヲ呈ス

豫防驅除法

第六編 産業 第一章 農業

至レハ體多クハ茶褐色トナル幼蟲ノ充分成長シタルモノハ體長一寸二三
分トナリ腹脚四對トナリ人若シ之レニ觸ル、時ハ體ヲ曲ク死狀ヲ呈ス
幼蟲ハ主トシテ豌豆、蕎麥、粟、蔬菜、油菜、烟草、桑等ノ葉ヲ喰害ス
ルモノニシテ秋季ハ主ニ蕎麥大根ヲ食シ春季豌豆南瓜、瓜、胡瓜等ヲ食
害ス而シテ一朝食物缺乏スルトキハ何種ノ植物ヲ問ハス食盡スルヲ嘗ト
ス
蛹赤褐色ニシテ長サ七八分土中ニアリテ蛹態ニテ越冬ス
越冬經過表

第六編 産業 第一章 農業

第一章 農業

一、石油乳劑ノ二三十倍ヲ注キカクヘシ
二、晩秋夜枚ヲ剪除シ其切口ニハ粘土又ハコールタールヲ塗抹シ置クヘ
シ
三、根ヲ犯ス場合ニハ烟草ノ葉等ヲ多分ニ埋ムヘシ

第七章 害蟲豫防驅除ニ關スル法令

第一條 明治二十九年法律第十九號ニ依リ本縣下ニ於テ驅除豫防スヘキ害
蟲ノ種類左ノ如シ(明治三十五年
縣令第四十七號)

害蟲名	方	主ナル被害植物
貝殼蟲	ズイムシ、シムシ、シザシ、 ウシキリ、サシムシ	稻
浮塵子	ウシカ、コメカムシ、イ子ノヨ コバ、コメコバ	同
泥負蟲	ドコロ、ドロシヨイ、ベロムシ ツトムシ、チマキムシ、ハマダ シムシ、カラゲムシ	同
葉捲蟲	ヨシムシ、キンスジツマキリ、 イナゴ	同
青蟲	アテムシ、イナシヤクトリ ヨウトウムシ、コウジク、キリ ウシ、子キリムシ、シムシ	同
地蠶	コガネムシ	同
金龜子	ケムシ	同
站蠅	カミキリ、ケキリ、シンドウ、 テツボムシ	同
天牛	クワシヤクトリ、ボウムシ、エ ダシヤクトリ	同
桑尺蠖	シムシ	桑
象鼻蟲	アアラムシ、タワジラミ	稻、豆、果樹
蚜蟲	ワタムシ	蔬菜、果樹

第一節 養蠶
一、養蠶ノ種類及方言
二、養蠶ノ発生又ハ発生ノ虞アル町村(大字)名並ニ除防ヲ施行スヘキ期
三、養蠶作物ノ種類及被害見積段別
四、被害ノ状況

第二節 害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ発生ノ虞アルトキハ作人ハ直ニ驅除防ニ着手シ同時ニ口頭若クハ書面ヲ以テ市町村長ニ届出テ町村長ハ郡長ニ郡長ハ知事ニ急報スヘシ郡市町村長ニ於テ害蟲田畑ニ發生ノ虞アル時亦同シ

第三節 郡市町村長前條ノ報告ヲナストキハ併テ左ノ事項ヲ報告スヘシ
一、害蟲ノ種類及方言
二、害蟲發生又ハ発生ノ虞アル町村(大字)名並ニ除防ヲ施行スヘキ期
三、被害作物ノ種類及被害見積段別
四、被害ノ状況

第四節 本則第一條ニ列記セザル蟲類若クハ昆蟲以外ノ動物ニシテ農作物ヲ害シタルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ急報スヘシ

第五節 害蟲驅除防法第三條ニ據リ驅除防施行ノ命令ヲ發シタルトキハ郡市長ハ直ニ町村長ニ町村長ハ直ニ當該作人ニ傳令シ指揮監督シテ驅除防ヲ行ハシムヘシ

第六節 害蟲蔓延シタル時又ハ蔓延ノ兆アル時若クハ害蟲田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ発生ノ虞アルトキハ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ本則第三條ノ事項ヲ具シ急報スヘシ

〔長野縣〕

第七節 前條ノ場合ニ於テ驅除防施行ノ命令ヲ發シタルトキハ郡長ハ町村長ニ傳令シ町村長ヲ以テ驅除防ヲ行ハシメ市長ハ市費ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第八節 本則第六條ノ場合ニ於テ夫役ヲ賦課スルノ必要アリト認ムルトキハ郡市長ハ豫メ賦課ノ區並ニ課率ヲ定メ具申スヘシ

第九節 害蟲驅除防法第六條ニ據リ養蠶ヲ設ケ又ハ農作物、畜産、刈株、草ヲ拔棄若クハ燒棄スルノ必要アリト認ムルトキハ郡市長ハ直ニ知事ニ具申スヘシ

第十節 害蟲一町村以上ニ蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキハ郡長ハ隣接町村ヲシテ同時ニ驅除防ヲ行ハシムヘシ

第十一節 害蟲驅除防施行期間ノ状況ハ町村長ヨリ郡長ニ郡市長ヨリ知事ニ毎日報告スヘシ

第十二節 毎年度ニ於テ市町村費ヲ以テ施行シタル害蟲驅除防ニ關スル事項ハ左ノ表式ニ據リ町村長ハ翌年四月十日限郡長ニ郡市長ハ同月十五日マテニ知事ニ報告スヘシ

第十三節 此規則ハ發令ノ日ヨリ施行ス

計	害蟲名		同農作物ノ被害ノ數	同見積ノ段別	同此年ノ被害ノ見積	同驅除防ニ關スル費用	同夫役ノ額	同補助ノ額	同補助ノ額
	市町村名	被害ノ數							

第二章 畜産

●競馬取締規則

大正六年五月十一日 長野縣令第二十五號

第一條 競馬規程第一條但書ニ依リ競馬ヲ開催セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケヘシ

一 開催ノ事由

二 日時及場所

三 器具ノ種類及投與ノ方法

四 係員ノ種類員數及其ノ職務

五 競馬規程第二十三條ニ依リ知事ノ許可ヲ受ケムトスル場合ニ於テハ前項ノ事項ヲ具シ願書ヲ所轄警察官署ニ提出スヘシ

第二條 前條ノ願書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 經費ノ出所及用途ニ關スル説明書

二 競馬ニ要スル土地關係者ノ承諾書

三 構造仕樣書

四 競馬場(馬場)及四圍ノ状況ヲ詳記シタル圖面

五 競馬場ノ位置及構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 交通上妨害トナラザル場所タルコト

二 馬場ノ形狀ハ楕圓形トシ幅員三間以上タルコト

三 馬場ノ外側ニハ木又ハ竹等ヲ以テ高さ四尺以上ノ堅牢ナル柵ヲ設ケルコト

四 馬場ノ出入口ハ一箇所トシ外部ニ向ケ扇形ニ堅牢ナル柵ヲ設ケ且出入ノ衝突ヲ避ケル爲中間ニ相當ノ區劃ヲ爲スコト

第六編 産業 第二章 畜産

〔長野縣〕

五 棧敷ハ堅牢ナル材料ヲ用ヒ且其ノ下部ハ出入シ得サルノ設備ヲ爲スコト

六 観覧席ヨリ外部ニ向ヒ自由ニ出入シ得サル装置ヲ爲ストキハ非常口(二間隔外開キ)二箇所以上ヲ設ケルコト

七 場内ヲ通過シ得ヘキ適當ノ場所ニ警察官監視席ヲ設ケルコト

第八條 競馬場ハ警察官ノ検査ヲ受ケルニアラザレハ使用スルコトヲ得ス

第九條 競馬場ニ於テ左ノ行爲ヲ禁ス

一 日出前日没後ニ於テ競馬ヲ爲スコト

二 精神異常者、馬術不熟練者其他警察官ニ於テ不適當ト認ムル者ヲシテ騎手ヲラシムルコト

三 係員及馬匹ノ口取人(一頭ニ付キ二人以内)以外ノ者ヲ馬場内ニ入ラシムルコト

四 酒氣ヲ帯ビタル者ヲ馬場内ニ入ラシムルコト

五 明ク三歳以下ノ馬匹ヲ競争セシムルコト

第六條 競走中ノ馬匹又ハ騎手ニ對シ妨害ヲ爲スコトヲ禁ス

第七條 警察官ハ場内ノ秩序維持並風紀上必要ト認ムルトキ又ハ危險ノ虞アルトキハ競馬ヲ停止スルコトアルヘシ

第八條 本則第一條第三條及第五條乃至第七條ノ規定ニ違反シ又ハ第八條ノ命ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第九條 本則ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ係員其他從事者ノ行爲ト雖自己ノ指揮ニ出テテナルノ故ヲ以テ前條ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十條 本則ニ規定シタル罰則ハ法人ノ場合ニ於テハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス

附則

明治三十三年長野縣令第九號競馬取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

競馬取締ニ關スル件

大正六年五月十一日 發第三一六號

今般縣令第二五號ヲ以テ競馬取締規則改正セラレ候處右ハ競馬規則ニ例外トシテ...

競馬投票取締規則

大正十四年三月二十日 長野縣令第十九號

第一條 競馬投票(以下單ニ投票ト稱ス)ハ競馬規則第二十三條ニ依リ競馬ニ附隨シ...

〔長野縣〕

第四條 馬場ハ内柵ノ長サ半哩以上幅十間以上ト爲シ泥濘防止ノ設備ヲ爲ス...

第五條 投票ヲ施行セムトスルトキハ十五日以前ニ競馬取締規則第一條第二項ニ依リ...

〔長野縣〕

第八條 投票ニ關シ特ニ射倂心ヲ誘發スルカ如キ廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 投票券ハ入場券ニ添付スルコトヲ要ス

第十條 投票券ハ入場券一枚ニ付五枚ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條 投票券ハ之ヲ譲渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第十二條 投票ハ自ラ之ヲ行ヒ代理投票ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第十三條 入場券發賣所ハ競馬場入口ニ投票所、故障拂戻金交付所及ヒ物

品又ハ景品券引換所ハ競馬場内ニ之ヲ設ケ且本則第九條、第十條及ヒ前

條ニ規定スル事項ノ取締ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第十四條 投票券ヲ添付セル入場券ノ購入ヲ勸誘シ又ハ之ヲ強フルコトヲ

得ス

第十五條 左ニ掲グル者ニハ投票券ヲ添付セル入場券ヲ發賣シ又ハ投票券

爲サシムルコトヲ得ス

一、出場馬匹ノ所有者

二、調教師

三、騎手、馬丁

四、當該競馬ニ關スル執務委員

五、其ノ他競馬ノ事務ニ從事スル者

六、未成年者

七、學生及生徒

第六編 章程 第二章 畜産

様式第二號

日	
競馬	
馬番號	
入票數	1
	2
	3
	4
	5
總計	
入票的中數	
一票當り金額	

横一尺五寸以上

競馬投票取締規則施行手續

大正十四年四月四日
長野縣訓令第十二號

第一條 競馬投票取締規則(以下單ニ規則ト稱ス)第五條ノ願書ヲ受理シタ
ルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ三日以内ニ通告スヘシ

〔長野縣〕

一、開催者(法人ニ在リテハ其ノ代表者)ノ素行、財産、資産、信用ノ有
無及各保員ノ素行

二、開催ノ目的内容

三、規則第五條第一項ノ事項及其ノ書類ヲ具備シ居ルヲ否ナ

四、競馬取締規則第四條及規則第四條並ニ第十三條ノ構造設備ニ適合セ
ルモノナリト否ナ

五、前各條ノ外處分上参考事項

許可ヲ受ケタル後中止セムトスルモノニ對シテハ其ノ事由變更シタル
トキハ其ノ部分ニツキ重テ調査スヘシ

第二條 規則第六條ニ依リ競馬及投票ニ關スル規程ハ別紙様式第一號及第
二號ニ準シ調製セシムヘシ

第三條 規則第七條ニ依リ競馬及投票施行ニ關スル規程及取締上必要ナル
事項ハ左記ニ依リ揭示セシムヘシ

一、入場券發賣所前ニハ競馬及投票ニ關スル規程及規則第九條乃至第十
一條、第十五條、第二十九條、第三十條ノ事項

二、投票所前ニハ投票ニ關スル規程及規則第十二條、第十五條乃至第十
八條、第三十條、第三十五條ノ事項

三、物品又ハ景品券引換所前ニハ規則第十九條乃至第二十一條及第三十
五條ノ事項

四、馬主及騎手住所ニハ規則第十五條第三十一條第三十二條ノ事項

〔長野縣〕

一、ト進現金交付ノ絕對ニ爲サシムヘカラス

第十一條 規則第二十一條ニ依リ景品券ノ引換ハ開催者其ノ他ノ保員及從
事者ヲシテ取扱ハシメサルヲ要ス

前項ノ景品券ノ引換ハ景品券發行ノ商店ニ於テ物品ト引換ヲ爲ス場合ノ
外競馬場ヨリ五町以上ノ距離ヲ保有スル場合ニアラサレハ之ヲ認ムヘカ
ラス

第十二條 規則第二十四條ノ揭示ハ勝馬ノ確定シタルトキハ速ニ之ヲ爲サ
シムヘシ

第十三條 規則第二十五條ノ届出ヲ受ケタルトキハ終了後七日以内ニ競馬
及取締ノ狀況並規則第三十三條ニ依リ競馬及投票ニ關スル收支決算書ヲ
檢シ詳細内容檢査ヲ遂ケ速達スヘシ

第十四條 規則第二十六條ノ檢査ヲ爲シ其ノ不適當ト認ムルモノニ對シテ
設又ハ改業若ハ變更ヲ命ゼタルトキハ其ノ事由及命令事項ヲ具シ速ニ申
報スヘシ

第十五條 規則第二十八條ニ依リ施設ヲ爲サシメ又ハ取締上必要ナル命令
ヲ發シタルトキハ終了後其ノ事由及要項ヲ詳細申報スヘシ

第十六條 規則第二十九條ニ該當スル者アルトキハ之ヲ制止シ尙有セサル
者ニ對シテハ假借ナク退場セシムヘシ此ノ場合警察ノ取扱ニ出テサレテ
要ス

第十七條 規則第三十條及第三十四條ニ依リ之ヲ禁止若ハ制限スルノ必要
アリト認メタルトキハ詳細指揮ヲ受ケヘシ但シ事變急テ要スル場合ハ禁
止若ハ制限後速ニ詳細申報スヘシ

第十八條 規則第三十一條ニ違反シタル騎手アリタルトキハ開催者ヲシテ
違反年月日違反シタル事項、騎手ノ本籍、住所氏名年齢ヲ具シ所轄警察
官署ヘ届出シメ一箇年所開催決定ノ本縣内各都市畜産組合並ニ畜産組

第四條 規則第八條ニ依リ投票施行ノ廣告ニ關シテハ誇大又ハ虚偽若ハ射
倖心ヲ誘發スルカ如キ廣告ヲ爲サシムヘシハ勿論大衆宣傳スルカ如キ行
爲ハ之ヲ嚴禁スヘシ

第五條 規則第九條乃至第十二條ノ投票券付入場券ノ購入及投票ヲ制限ス
ル爲メニ設ケラレタル規定ナレバ投票券付入場券ノ多數購入或ハ代理投
票其ノ他ノ名義ヲ以テ多數ノ投票ヲ爲サシムトスル者ニ對シテ取締ヲ爲
スヘシ

第六條 投票券ヲ添付セル入場券ハ施行日毎ニ色彩ヲ變ヘシメ投票者ヲシ
テ不正行爲又ハ不正投票ヲ爲サシムル豫備置スヘシ

第七條 競馬場ノ構造設備落成シタルトキハ届出シメ巡查部長以上ヲシテ
檢査ヲ完備セルモノニアラサレハ使用セシムヘカラス

第八條 規則第十三條ノ設備ニ就テハ投票券ヲ添付セル入場券發賣所ニハ
一人宛出入シ得ル構造ヲ設ケ競馬場入口ニハ一名若ハ二名ノ保員ヲ置
キ該入場券ニ改換又ハ捺印セシムヘシ

投票所、故障拂戻金交付所及物品又ハ景品券引換所等ニ對シテモ混雜ヲ
防ク爲メ相當設備ヲ爲サシムヘシ

投票券ヲ添付セル入場券發賣所及投票所ノ内外ニハ特ニ各々警察官一名
以上ヲ派遣看守取締ヲ爲サシムヘシ

第九條 規則第十五條第一項第一號乃至第五號ニ掲ケル者ニ對シテハ所定
ノ豫章ヲ見易キ箇所ニ備用セシムヘシ

前項ニ掲ケル者及未成年者、學生、生徒ニハ如何ナル場合ト雖投票セシ
メサル豫備置取締ヲ爲スヘシ

第十條 規則第十九條及第二十條ノ射倖行爲ノ防止ノ規定ナレバ投票の中
者ニ對スル贈與ハ物品又ハ景品券ニ限リ五圓以下ノ範圍内ニ於テの中投
票券一票當りノ金額ニ相當スル商品券、商品切手ノ類ヲ以テスルハ可ナ

合聯合會ニ通報セシムヘシ
 第十九條 前條ニ該當スル騎手ニ對シテハ本縣内ニ施行スル投票ノ競馬ニ
 賭博セシメタル者ニ對シテハ罰金五圓ニ科スルモ、但シ改悔ノ情願者ニシテ再ヒ不正
 行爲ヲ爲スノ虞ナキモノニシテ開催者ヨリ特ニ申出アリタルトキハ之ヲ
 シテ賭博セシムルモ支障ナシ
 第二十條 規則第九條ニ依リ投票券ヲ添付セル入場券ハ別紙様式第三號ニ
 準シ製シテシムルヘシ

競馬投票施行規程

第一條 本會ハ競馬開催ニ際シ餘興トシテ競馬投票ヲ行ヒ其ノ的中者ニ對
 シ賞品券ヲ贈呈ス
 第二條 競馬投票ノ施行ハ馬匹ノ改良増殖及馬事思想ノ普及ヲ圖ルヲ以テ
 目的トス
 第三條 競馬投票券ヲ添付セル入場券ハ一等金五圓二等金三圓三等金一圓
 トシ競馬開催當日競馬場入口ニ於テ之ヲ發賣ス但シ各等トモ普通入場料
 金ヲ徴ス
 第四條 投票券ハ一等入場券一枚ニ五枚、二等入場券一枚ニ三枚、三等入
 場券一枚ニ一枚何レモ無價ニ添付ス
 第五條 投票券所持者ハ指定競馬番組中該競馬發賣前ニ於テ各自ノ欲スル
 投票口ニ之ヲ提出シ之ヲ引換ヘニ乙種券ヲ受領シ該投票券ノ騎馬シタル
 場合ハ第八條ニ依リ決定シタル景品券ヲ乙種券引換ニ受領ス可キモノト
 ス
 一、騎馬トハ賽列所ニ揭示シタル第一者馬ヲ云フ
 二、先着馬ト雖モ競馬投票規則ニ依リ騎馬ノ權利ヲ失ヒタル時ハ其
 ノ馬匹ノ約中者ニハ景品券ヲ贈呈セズ

〔長野縣〕

三、出場馬匹ニシテ一旦馬場ニ入場シタル時ハ如何ナル事由ニ基因シ
 走セザルモ他ヲ發走シタルモノト看做ス
 第六條 前條ノ景品券ハ各指定競馬終了毎ニ之ヲ贈呈スル中者ハ其ノ都度
 第五條ノ手續ニ依リ景品券ヲ受領ス可キモノトス
 第七條 第五條第六條ノ手續ニ違背シタルモノ甲乙兩券符合セザルモノ及
 字體不明其他ニ依リ的中者タルコトヲ認知シ難キモノハ他ヲ無効トス
 第八條 指定競馬ノ競馬投票の中者ニハ該指定競馬投票總數ニ就キ一枚金
 九十圓ノ割合ニ依リ算出シタル金額ノ中者數ニ等分シ其ノ配當額ノ景
 品券ヲ贈呈ス但シ配當金額力一枚ニ對シ金五圓ヲ超過スル時ハ之ヲ金五
 圓ニ止ム
 前項ノ算出ニ於テ給付未滿ハ之ヲ切捨ツ
 第九條 競馬投票券通用ハ當日限リトス
 第十條 本競馬會ニ於テ競馬投票ヲ行フモノハ何人ト雖モ本規程ニ據ルモ
 ノトス
 大正 年 月 日
 長野縣 郡畜産組合

様式第二號

長野縣 郡畜産組合(畜産組合聯合會)競馬規程

第一條 本競馬會ニ馬匹ヲ出場セントスルモノハ左表ニ依リ所定ノ期日迄
 ニ本會事務所ニ申込ムヘシ

馬名	種類	毛色	性	特徴	體尺	年齢	産地	備考

貴組合競馬投票施行規程ヲ承認シ右馬匹ヲ出場致置此段申込候也
 年 月 日

住所

申込名義人

〔長野縣〕

何那畜産組合御中

第二條 前條ノ申込ヲナシタルモノハ指定ノ日時及場所ニ於テ馬匹ノ検査
 ヲ受ケヘシ
 正當ノ事由ニ依リ受檢シ得ザル馬匹ハ該検査期日前ニ於テ其ノ事由ヲ詳
 記シ本會ニ届出テ承認ヲ受ケヘシ
 第三條 前條ノ手續ヲ履行セザルモノハ本會ニ於テ適宜之ヲ處理ス之ニ對
 シ何等ノ異議ヲ申立ツル事ヲ得ズ
 第四條 馬匹ノ出場ニ關シ虚偽ノ記載又ハ申告ヲナシ若ハ正當ノ事由ナク
 シテ検査ニ應ゼザル馬匹ハ本會ノ競走ニ加入セシメザルコトアル可シ
 第五條 馬匹ハ其ノ所有權ノ如何ニ拘ハラズ總テ申込名義人ヲ以テ馬主ト
 看做ス馬主ハ本會ニ對シ全責任ヲ負フモノトス
 第六條 馬匹ノ負擔重量ヲ定ムルコト次ノ如シ
 四歳一五斤、五歳一二五斤、六歳以上一三〇斤、牝馬ハ五斤ヲ關馬ハ
 三斤ヲ減ス但シ其ノ限度ハ最高ハ一五〇斤、但シ一斤ハ百二十匁
 前項ノ負擔重量ハ前同ノ競馬會ノ成績及馬匹ノ狀態ニヨリ之ヲ増減スル
 コトアルモノ一〇斤ヲ下ラス
 第七條 競走馬匹ハ第一輪ニヨリ検査ヲ行ヒ第二輪ニ於テ馬見所ニ牽入レ
 第三輪ニ於テ馬場ニ乘リ入レ發馬地點ニ至ル前必ス賽列臺ノ前而テ常歩
 ヲ以テ通過スヘシ
 競走馬ニシテ一旦馬場ニ入りタルモノハ如何ナル事由ニ依リ發走セザル
 モ凡テ出走シタルモノト看做ス
 競走馬所定時刻ヲ經過スルモ出走地點ニ到者セザル時ハ該競走ヨリ除カ
 ル、モ異議ヲ申立ツル事ヲ得ズ發馬及競走終了ノ合間ハ開催ノ都度當該

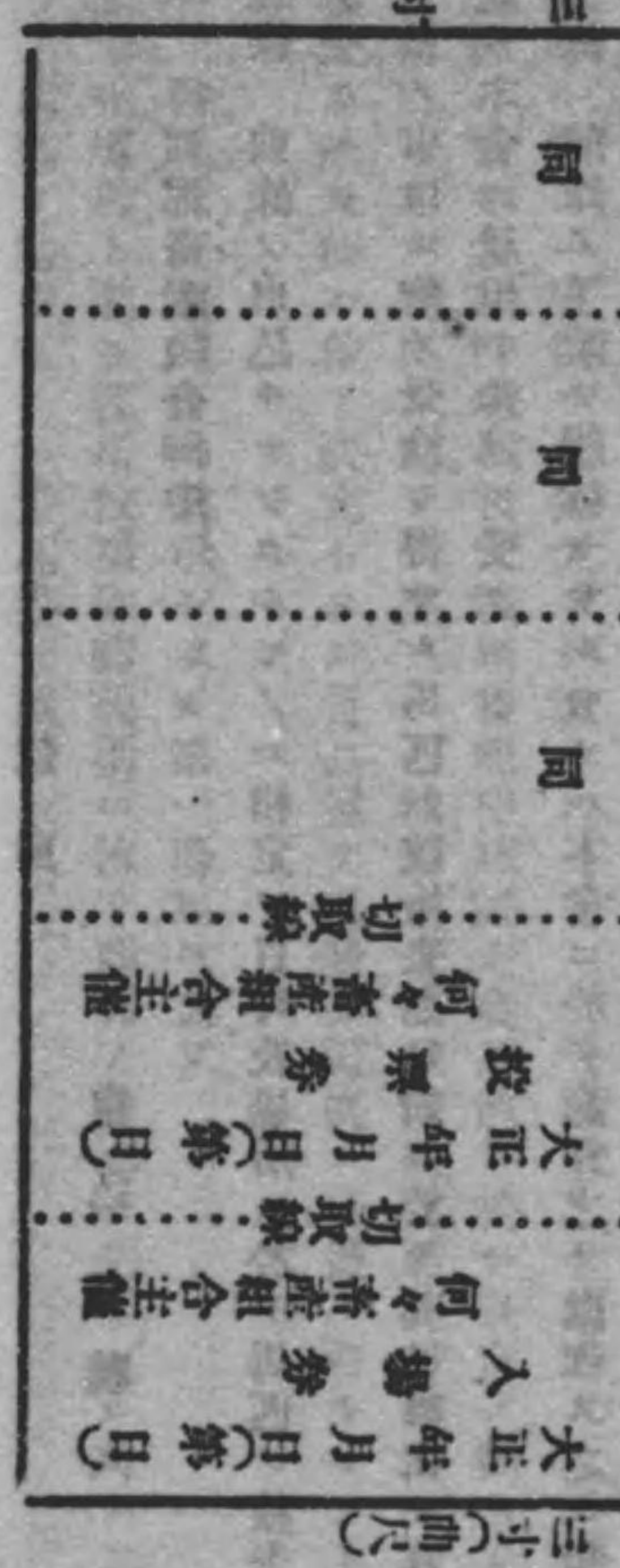
競馬會ニテ規定スル所ニ據ルモノトス
 第八條 馬場内ニハ本會係員及騎手ノ外何人タリトモ入場ヲ許サズ
 競走馬匹ノ運搬其ノ他ノ事由ニ依リ已ムヲ得ザル場合ハ賽列係ノ指揮ヲ
 請ヒ承認ヲ受ケヘシ
 第九條 馬場内ニ於ケル馬匹ノ順位ハ抽籤ヲ以テ定ム但シ前條第二項ニ該
 當ノ馬匹ニ在リテハ此ノ限リニ在ラス
 第十條 馬主、騎手ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルニ至リタル時ハ勝利權
 ヲ失ヒ競走又ハ出場ヲ制限セラル、コトアル可シ
 一、左ノ場合ニ於テハ勝利權ヲ失フ
 一、騎手力係員ノ許可ナクシテ下馬シタルトキ
 二、負擔重量ニ不足ヲ來シ若ハ秤量ニ不正ノ行爲アリタルトキ
 三、馬場外ニ出走シ若クハ馬匹轉倒シ又ハ騎手落馬シタル時
 四、他馬ノ出走ノ妨ヲナシ其ノ他不正ノ行爲アルヲ賽列官ノ發見シタ
 ル時
 本、第一條ノ申込事項ヲ偽リテ競走ノ資格ヲ得タルモノナル事ヲ判明
 シタル時
 二、左ノ場合ニ於テハ騎乘及馬匹ノ出場ヲ制限ス
 一、前項イ乃至ニノ場合ハ騎乘ヲ制限ス
 二、前項ホノ場合ハ馬匹ノ出場ヲ制限ス
 三、其他本會ノ規程ヲ犯シ又ハ係員ノ指揮ニ從ハサル者
 四、秩序風紀ヲ亂シ公安ヲ妨ケル行爲アリタル者
 第十一條 本會ハ前條ノ制限ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ詳細ノ願末ヲ選
 滯ナク所轄警察官署ニ届出ツルト共ニ關係各組合ニ通報スルモノトス
 第十二條 馬匹ノ決勝ニ關シテハ賽列係之ヲ決定シ何人ト雖モ異議ノ申立
 タナスコトヲ得ズ

第十三條 勝馬トハ審判係ノ決定ニ依リ揭示場ニ公示シタル馬匹ヲ指稱ス...

第十五條 馬匹賞金ハ二等賞ハ三頭以上三等賞ハ四頭以上ノ出走馬ナル...

第十六條 本競馬會ニ出場セル馬ノ本規程ニ據ルモノトシテ之ヲ知ラ...

第十七條 本規程外必要ナル事項ハ之ヲ事務所ニ揭示ス...



〔長野縣〕

競馬投票取締方指示

大正十四年三月二十八日 甲發第一四二號

競馬法ノ施行地域外タル本縣ニ於テハ昨年内務省令第二十號(明治四十二...

左記

- 一 競馬投票ハ競馬投票取締規則(以下單ニ規則ト稱ス)第一條ニ依リ競馬...

〔長野縣〕

場内ニハ細砂又ハ石灰散等ヲ撒カシムル方或ハ芝草ヲ植エシムル等相...

三 規則第七條ニ依リ競馬及投票ニ關スル規程及取締上參考ナルヘキ事...

四 規則第九條ノ投票券ヲ入場券ニ添付セシムル手續第十九條様式ノ如...

五 規則第十一條中ノ投票券ノ讓渡讓受中ニハ有價無價ノ何レヲ含ムモ...

六 規則第十二條中ノ代理投票禁止ノ規程ハ他人ノ代理ナル名義ノ下ニ多...

七 規則第十三條ハ投票券添付入場券ノ制限以上ノ購入及投票ヲ取締ラン...

八 規則第十四條ニ依リ制限ハ從來ノ投票券ノ不正買買ヲ防止セントスル...

九 規則第十九條及第二十條ニ依リ投票の中者ニ對スル贈與ハ必ス物品又...

- 一、競馬場内ノ取替事項ニ對スル違反ニツキテハ開催者ヨリモ事實執務スル係員及従事者等ノ責ニ歸スヘキコト多ク是等ノ者ニ對シテハ相當戒諭ヲ加フル方却テ取締ノ目的ヲ達スル場合多キヲ以テ規則第三十五條第二項ニ於テ是等ノ者ノ責ニ歸スルコトアルヘキ事項ニツキテ裁ノ規定ヲ設ケラレタルヲ以テ取締上留意スヘシ
- 一四、從來取締規則等ニ於テ法人ノ處罰ノ規定ヲ缺クモノ多ク取締上遺憾ノ點ヲササシヨリ本則ニ於テハ規則第三十七條ニ於テ法人處罰ノ場合ハ其ノ代表者ニ適用スルコト、シ違反法人ニ對シテハ體刑ヲモ科スルコトヲ得ルコト、セリ
- 一五、競馬投票開催中ハ左記ノ事項ニツキテ開催者ヲ監視テ違ク之カ終了後七日以内ニ通報ナラズ申上ルコト
- (一) 開催者ハ畜産組合ナリシヤ或ハ他ノ者カ畜産組合ノ名義ヲ藉リテ施行シタルカ如キ事實ノ有無
- (二) 規則第十三條ニ基テ入場券發賣所及投票所ハ入場券ノ購入及投票取締ニ關シテ支障ナキ様充分設備セラレシヤ
- (三) 投票券發賣ノ入場券發賣方法及投票ニ關スル取締ノ實況並ニ之ニ關スル其ノ意見
- (四) 場内取締ニ關スル其ノ職ノ意見
- (五) 競馬投票ニ關シテ場内人心ニ及ボシタル影響
- (六) 規則第九條ノ制限以上ノ投票券發賣ノ入場券ヲ購入シ或ハ五枚以上ノ投票券ヲ發賣シタルモノノ有無
- (七) 投票ニ使キ多クノ利得又ハ損失ヲ招キタル者ノ有無及其額
- (八) 投票券發賣ノ入場券ヲ競馬場入口以外ニ賣テ買取タルモノノ有無若シ

〔長野縣〕

- (九) 投票券ノ購買ヲ勸誘シ又ハ射券心ヲ誘發スルカ如キ廣告其他大舉宣傳シタル事實
- (一〇) 規則第十五條ニ據ルモノニシテ投票券發賣ノ入場券ノ買取ヲ爲シ又ハ投票券ヲ爲シタルモノノ有無
- (一一) 投票券ノ中者ニ對スル贈與ハ物品又ハ金品券以外現金ヲ以テ爲シタル事實ノ有無及是等物品券ヲ現揚及其ノ附近ニテ現金ト引換テ爲シタルモノノ有無若シアリトモハ其取離及割引ノ歩合
- (一二) 競馬投票ニ使ル利益金ヲ不正ニ使用シタル事實ノ有無(畜産獎勵費以外ニ使用セルモノヲ云フ)及其ノ額
- (一三) 投票ニ關スル係員及従事者及騎手等ノ不正行爲ノ有無
- (一四) 投票ニ附屬シテ射券行爲其ノ他公安風俗等ヲ害スルノ實アリト認ムル事實發生ノ有無
- (一五) 投票又ハ券例ニ關シテ異議ヲ挟ミ喧嘩ニ涉リ又ハ無禮暴行ノ言動アリシ者ノ有無
- (一六) 投票券ヲ爲シタルモノハ如何ナル贈與如何ナル種額ノ者最多キヤ
- (一七) 競馬投票ハ畜産獎勵ニ充スル方大ナリヤ或ハ射券心ヲ誘發スル方大ナリヤ其ノ職ノ意見
- (一八) 其ノ他參考事項

●競馬投票取締方指示

大正十五年三月十七日
甲政第一八三五號

〔長野縣〕

將年三月競馬投票取締規則定以來開期ノ適用ヲ受ケヘキ競馬會ノ開催セラレタルコト無下ヲ通シ十一回ニ及ヘリ其ノ都處關係各場ハ之ヲ取締ニ關

シ投票券ヲ發シタルト雖多數入場者ノ中ニハ一人ニシテ一日數枚ノ投票券發付ノ入場券ヲ購入シ或ハ競馬一競走ニ對シ數枚ノ投票券ヲ發シ或ハ代理投票ヲ爲シ若ハ之ヲ發シタル者等アリテ未ダ尙遺留ノ點ナシトモ時例々中中央當局ヨリモ本取締ニ關シ更ニ一段ノ勵行ヲ希望スル旨通牒ノ次第モ有之儀條尙左記ニ依リ取締ノ徹底ヲ期セラルヘシ

左記

- 一、競馬投票取締規則(大正十四年三月二十日)第十二條ノ目的ヲ達スル爲別紙第一號ノ如キ入場券ヲ發行セシメ投票所ノ入口ニ於テ之ニ改換シ且一人ニ付投票券一枚ヲ限リ「インキスタンプ」又ハ之ニ準スヘキモノノ捺印ヲ爲シ得ル様別紙第二號ノ如キ投票所ノ設備ヲ爲シタルコト
- 二、出願書ニハ前記入場券ノ見本ヲ添付セシムルコト
- 三、競馬投票ノ競馬會施行ニ付テハ開催十日前途ニ到着スル地方長官ヨリ開催者ノ名稱、開催場所及期日等ヲ農林省畜産局長ニ報告スルコト、トナリ居ルニ付之方願書ハ少クとも開催期日十五日前迄ニ畜産部ヘ必書スル様取計フコト

〔長野縣〕

第一號 入場券 形

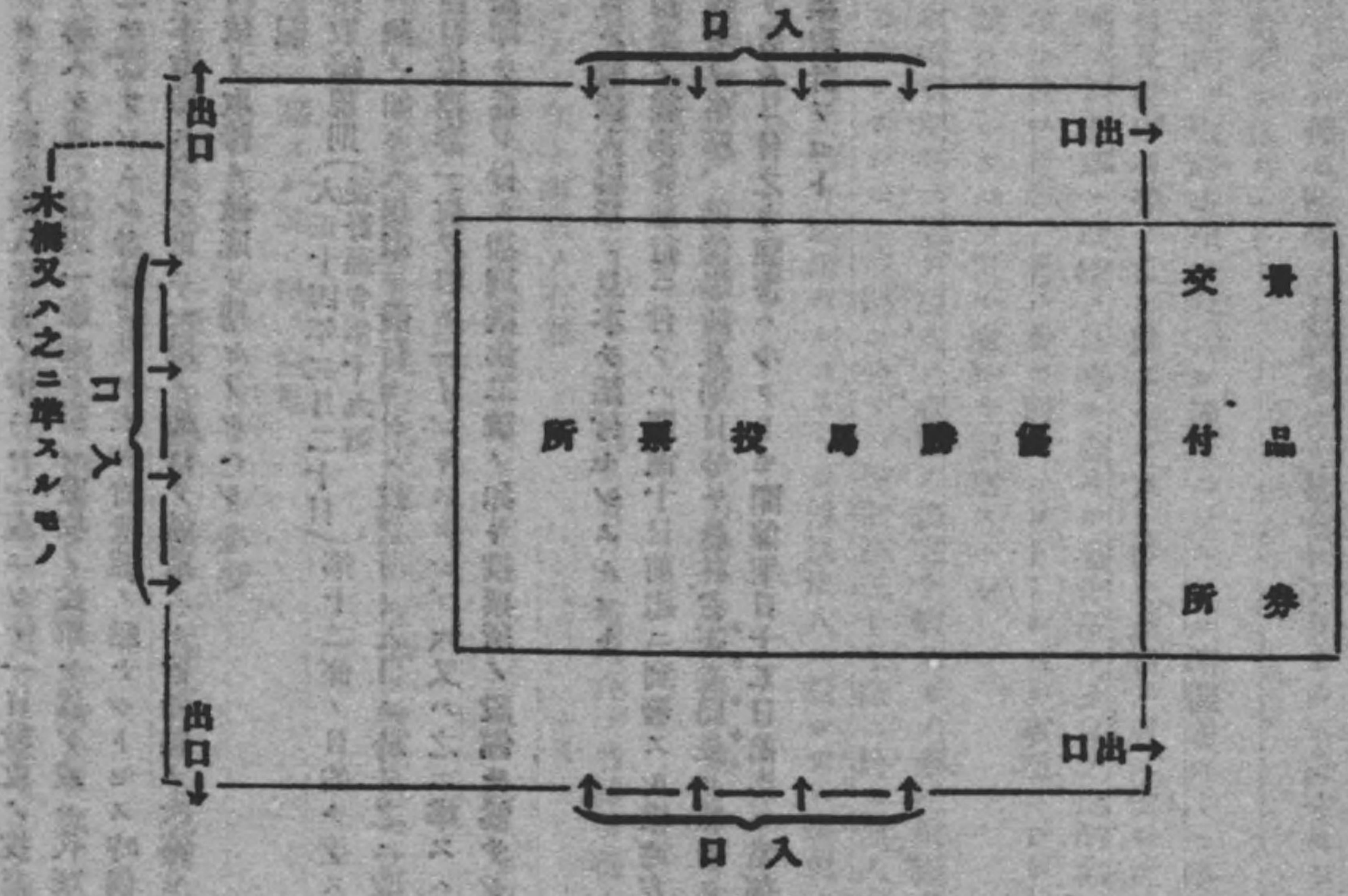


面 裏



面 裏

第二條 優馬投標所 標式



〔長野縣〕

●牛馬商取締規則施行細則

明治四十四年二月一日
長野縣令第五號

- 第一條 牛馬商取締規則ニ關スル事項ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ
- 第二條 牛馬商ハ牛馬商取締規則第二條各號ノ一ニ該當スル者ヲ從業者ト爲スコトヲ得ス
- 第三條 牛馬商取締規則第六條ニ據ル帳簿ハ別記様式トス
- 第四條 前條ノ帳簿ハ使用後滿三ヶ年間之ヲ保存スヘシ
- 第五條 保存期限内帳簿ヲ廢棄セントスルトキハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ
- 第六條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

標式第一號 (用紙美濃紙四ツ切)

年	性	産	種	牛馬ノ別	香
何年何月生(又ハ何歳)	牝(牡)	何縣、何郡、市、町、村	馬ハ和洋雜ノ別牛ハ何々種又ハ何々雜	何年何月何日	第何號

體	毛	特徴及疾病、惡癖	賣波代金	買受代金	交換進ヒ金授受額	賣、讓渡人住所	買、讓受人住所
何尺何寸	何毛	特徴何々及何々疾病又ハ何々惡癖アリ	何百何拾何圓何拾何錢	同上	受(授)何拾何圓何拾何錢	何縣、何郡、市、町、村、香地	何縣、何郡、市、町、村、香地

標式第二號 (用紙美濃紙四ツ切)

香	周旋年月日	牛馬ノ別	産	性	年
第何號	何年何月何日	牛(馬)	馬ハ和洋雜ノ別牛ハ何々種又ハ何々雜	牝(牡)	何年何月生(又ハ何歳)

●牛馬商取締規則施行細則取扱手

明治四十四年二月一日
長野縣令第十二號

- 第一條 牛馬商ノ營業額ヲ受ケタルトキハ牛馬商ノ取締規則第二條各號ニ依リテ有無ヲ調査シ適當ト認ムルトキハ免許證札ヲ下附スヘシ
- 第二條 前項ノ調査ニ依リ規則ニ該當シ免許證札ヲ下附スヘカラサル者ト認メタルトキハ專斷スヘシ
- 第三條 住所移轉ノ爲メ免許證札ヲ書換下附シタルトキハ進ニ前住地警察官署ヘ通報スヘシ
- 第四條 本則第一條第一號ニ依リ營業免許證札ヲ下附シタルトキハ其ノ業名、營業者ノ族稱、住所、氏名、生年月日、並營業所アルモノハ其ノ所在地、及免許證札下附年月日並札番號ヲ甲種簿ニ登錄スヘシ

畜養、死亡、他管へ轉住、若クハ免許ノ失致、取消アラザルトキハ之ヲ
削除シ住所、族籍、氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ舊籍ニ其ノ年月日異
動ノ事由ヲ記載シ加除訂正スヘシ

第七條 免許撤消ハ所要ノ員數ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

第六條 罰則 罰金五圓以上十圓以下ノ罰金ニ處スルコトキハ其ノ必要ノ
有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

第五條 罰則 罰金五圓以上十圓以下ノ罰金ニ處スルコトキハ其ノ必要ノ
有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

第四條 罰則 罰金五圓以上十圓以下ノ罰金ニ處スルコトキハ其ノ必要ノ
有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

第三條 罰則 罰金五圓以上十圓以下ノ罰金ニ處スルコトキハ其ノ必要ノ
有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

第二條 罰則 罰金五圓以上十圓以下ノ罰金ニ處スルコトキハ其ノ必要ノ
有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

第一條 罰則 罰金五圓以上十圓以下ノ罰金ニ處スルコトキハ其ノ必要ノ
有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

畜犬取締規則

大正五年七月七日
長野縣令第十八號

第一條 犬ヲ飼養スル者ハ一頭毎ニ左ノ事項ヲ五日以内ニ所轄警察官署ニ
届出シ之ヲ但シ生後二箇月未滿ノモノハ此ノ限ニ在ラス
一、種別
二、毛色
三、毛色
四、生年月日
五、呼名
六、特微
七、飼養ノ目的(番犬、愛犬、獵犬等ノ區別)

〔長野縣〕

第二條 飼主ハ左ノ各事ヲ遵守スルコトキハ其ノ必要ノ有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

第三條 飼主ハ左ノ各事ヲ遵守スルコトキハ其ノ必要ノ有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

第四條 飼主ハ左ノ各事ヲ遵守スルコトキハ其ノ必要ノ有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

第五條 飼主ハ左ノ各事ヲ遵守スルコトキハ其ノ必要ノ有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

第六條 飼主ハ左ノ各事ヲ遵守スルコトキハ其ノ必要ノ有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

第七條 飼主ハ左ノ各事ヲ遵守スルコトキハ其ノ必要ノ有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

第八條 飼主ハ左ノ各事ヲ遵守スルコトキハ其ノ必要ノ有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

第九條 飼主ハ左ノ各事ヲ遵守スルコトキハ其ノ必要ノ有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

〔長野縣〕

第十條 第一條第二條第三條第四條第一項ニ違反シタル者第四條第二項ノ
罰金ニ處スルコトキハ其ノ必要ノ有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

第十一條 犬ヲ飼養スル者ハ左ノ事項ヲ五日以内ニ所轄警察官署ニ
届出シ之ヲ但シ生後二箇月未滿ノモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 犬ヲ飼養スル者ハ左ノ事項ヲ五日以内ニ所轄警察官署ニ
届出シ之ヲ但シ生後二箇月未滿ノモノハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 犬ヲ飼養スル者ハ左ノ事項ヲ五日以内ニ所轄警察官署ニ
届出シ之ヲ但シ生後二箇月未滿ノモノハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 犬ヲ飼養スル者ハ左ノ事項ヲ五日以内ニ所轄警察官署ニ
届出シ之ヲ但シ生後二箇月未滿ノモノハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 犬ヲ飼養スル者ハ左ノ事項ヲ五日以内ニ所轄警察官署ニ
届出シ之ヲ但シ生後二箇月未滿ノモノハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 犬ヲ飼養スル者ハ左ノ事項ヲ五日以内ニ所轄警察官署ニ
届出シ之ヲ但シ生後二箇月未滿ノモノハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 犬ヲ飼養スル者ハ左ノ事項ヲ五日以内ニ所轄警察官署ニ
届出シ之ヲ但シ生後二箇月未滿ノモノハ此ノ限ニ在ラス

畜犬取締規則取扱方ノ件

大正五年七月七日
長野縣令第十八號

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治十五年六月有違第百九十四號ハ之ヲ廢止ス

一、各事ハ別紙様式ノ畜犬登録簿ニ記載スルコトキハ其ノ必要ノ有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

二、罰則及許可具ハ皮又ハ金屬ノ類ヲ使用シ容易ニ毀損シ得サル様作製セ
ルコトキハ其ノ必要ノ有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

三、罰則及許可具ハ皮又ハ金屬ノ類ヲ使用シ容易ニ毀損シ得サル様作製セ
ルコトキハ其ノ必要ノ有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

四、罰則及許可具ハ皮又ハ金屬ノ類ヲ使用シ容易ニ毀損シ得サル様作製セ
ルコトキハ其ノ必要ノ有無ヲ調査シ之カ同付ヲ請求スヘシ

馬匹傳染性貧血豫防規則

大正十五年六月二十五日
長野縣令第五十八號

第一條 傳染性貧血ニ罹リ又ハ其ノ疑アル馬匹ヲ發見シタル獸醫又ハ其ノ
馬匹ノ所有者若ハ管理人ハ直ニ其ノ旨知事ニ届出ツヘシ

第二條 傳染性貧血又ハ其ノ疑アル馬匹ノ所有者若ハ管理人ハ之ヲ隔離其ノ
他豫防上必要ナル處置ヲ爲スヘシ

第三條 前條ニ依リ隔離スヘキ馬匹ノ他ノ處置ニ付テハ馬匹ノ所有者若ハ
管理人ハ縣所屬ノ官吏又ハ市町村長ノ指揮ニ従フヘシ

第四條 傳染性貧血豫防上必要アルトキハ知事ハ官公吏ヲシテ馬匹ノ検査
ヲ行ハシムルコトアルヘシ

第五條 傳染性貧血流行スルトキハ知事ハ地域ヲ限リ共同放牧ヲ禁止スル
コトアルヘシ

第六條 傳染性貧血又ハ其ノ疑アル馬匹ヲ治療シタルトキハ其ノ所有者若ハ管
理人ハ診斷狀書ト連同シ其ノ旨知事ニ届出ツヘシ

第六編 畜業 第二章 畜畜

運入ハ獸醫ト連署シ其ノ旨直ニ知事ニ届出ツヘシ其ノ難死シタルトキ亦同シ

第九條 傳染性貧血又ハ其ノ疑症馬匹ノ屍體、排遺物其ノ他病毒ニ汚染シタル品物ハ馬匹ノ所有者若ハ管理人ニ於テ消毒ヲ爲スヘシ

第十條 傳染性貧血ノ預防並撲滅ヲ圖ル爲毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ交付金ヲ支出ス

第十一條 前條ノ交付金ハ傳染性貧血ニ罹リタル馬匹ヲ撲殺シタル場合ニ於テ其ノ馬匹ノ所有者ニ之ヲ交付ス

第十二條 交付金ハ一頭ニ付金拾圓以內トス

第十三條 第一條第二條第三條第五條第七條第八條及第九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第四條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 狂大病届出方

大正三十年十月四日
長野縣令第三十二號

● 狂大病發生報告様式

明治三十五年一月九日
警收第五五七號

狂大病ニ關シテハ明治三十年八月警收第二六六一號ヲ以テ報告方法及指示候様本年一月以降ハ狂犬ノ咬傷ニ就テハ第一號表式ニ依リ翌月十日迄ニ又狂

大病患者發生ノ場合ハ第二號表式ニ依リ其ノ都度報告スヘシ

市	何郡何村	發病地名	獸ノ種類	及頭數	被咬傷人員	被咬者ノ所屬	備考
野	野	野	犬	三			
創	創	創	創	創	創	創	創
創	創	創	創	創	創	創	創

● 狂大病患者發生報告

警收第(分)號

- 一 患者住所職業氏名年齢
- 一 被咬傷ノ月日
- 一 被咬傷ノ部位、局部ノ症候及當時ノ處置
- 一 發病月日
- 一 轉歸月日

● 狂大病(疑狂大病)畜檢診ニ關スル件

大正三年十二月二十二日
警收第四八四號

獸疫検査上必要有之候條自今獸疫検査委員(獸醫)若クハ警察獸醫ヲシテ狂大病(疑狂大病)畜ノ生體又ハ屍體ノ検査ヲ爲サシメタル時ハ左記各様式ニ準據シ精細明瞭ニ記載シ報告セシメラルル檢取計ヲヘシ

狂大病(疑狂大病)畜檢診報告書

畜種	種類	性	毛色及斑	年齢	體積(大小)	用途	所在	所有者氏名	現症検査	
									相	記
牛	乳用	雌	黒	3	大	耕作	山梨	山田	狂	疑
馬	乗用	雄	赤	5	中	耕作	山梨	山田	狂	疑
猪	肉用	雄	黒	1	小	耕作	山梨	山田	狂	疑
犬	雑種	雄	黒	3	中	耕作	山梨	山田	狂	疑

第六編 畜業 第二章 畜畜

〔長野警〕

〔長野警〕

畜種	種類	性	毛色及斑	年齢	種	種	種
牛	乳用	雌	黒	3	大	耕作	山梨
馬	乗用	雄	赤	5	中	耕作	山梨
猪	肉用	雄	黒	1	小	耕作	山梨
犬	雑種	雄	黒	3	中	耕作	山梨

狂大病(疑狂大病)畜屍體検査報告書

署
獸疫検査委員 獸醫

検病日時	検案場所
検死日時	検案ノ際立 會タルモ 官職氏名
検案日時	
飼往状況	
規檢	
皮下筋肉血液	
口腔咽喉食道腸膀胱	
胃	
肝	
脾	
肺	
腎	
膀胱、尿管、腎臓	
心臓、血管、管	
腸胃、消化管	
生殖器、子宮、卵巣、胎兒、胎盤、胎膜、胎嚢、胎血	
皮膚、毛、蹄、爪、乳頭、乳管	
血液及各種の検査化學的検査	

〔長野県〕

解剖的診断	
決定	
処理方法	
右及報告候也	
大正 年 月 日	
署 長	
獣疫検査委員 署名	

●疑狂犬發生ノ場合報告ニ關スル

件

大正三年四月二十四日
警發第一六二號

由來犬屬カ人畜ヲ咬傷スルヤ病性ノ如何ニ不拘直ニ撲殺スルノ傾向アルハ人畜ノ危險防衛上不得止ノ所置ナリトスルモ真正ノ狂犬病タルヤ否ハ咬傷候、暴動不逞等ノ肥肥、咬傷、下顎麻痺等其狀疫發防心得ニ揚ケル症候ノ如何ニ定テ之ヲ判定シ得ルヲ以テ之カ識別上必要有之候條自今布モ人畜ヲ咬傷セシ疑狂犬發生ノ場合ハ之ヲ生擒留置セシメ其旨即報シ向ホ其ノ經過狀等詳細報告セラルヘシ

●畜牛結核病豫防法施行細則

大正十五年九月十三日
長野縣令第百十三號

第一條 畜牛結核病豫防法施行規則(以下規則ト謂フ)第二條第一項及第二項ニ依リ届出ハ様式第一號同條第三項ニ依リ届出ハ様式第二號ニ依リ之ヲ行フ
第二條 左ノ各條ノ一ニ該當シ検査ヲ受タルコトハサレ畜牛ノ所有者又

〔長野県〕

ハ管理者ハ其事山ヲ具シ豫メ市町村長ニ届出ツヘシ
一、結核病以外ノ疾病又ハ傷病ニ罹リタルモノ
二、分娩前一月以内若ハ分娩後十日以内ノモノ
三、生後六個月未滿ノモノ
市町村長前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ市町村ノ畜牛納養病検査ニ従事スル検査員ニ其旨通知スヘシ
第三條 規則第二十四條第三項ニ依リ同條第一項ノツベルグリン皮下注射ノ許可ヲ受ケタルモノ者ハ該畜ニ畜牛ノ種類名號生年月日牝別用途毛色特微獸醫師ノ住所氏名及事由ヲ記載シ知事ニ提出スヘシ
第四條 規則第二十五條ノ届出ハツベルグリン應用事由及畜牛ノ處分方法ヲ記載シタル書面ニ依リツベルグリン應用後十日以内ニ所有者又ハ管理者之ヲ爲スヘシ
第五條 規則第三條第一項第二項第三項ニ依リ検査ノ際ハ前同ノ検査ニ於テ交付セラルル健康證書検査員ニ返納スヘシ
第六條 健康證書有スル畜牛ノ所有者又ハ管理者其ノ畜牛ノ所有又ハ管理ヲ移轉シタルトキハ新ニ所有又ハ管理スルニ至リタル者ニ其ノ健康證書ヲ交付スヘシ
第七條 健康證書有スル畜牛ノ所有者又ハ管理者其ノ畜牛ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ健康證書直ニ知事ニ返納スヘシ
一、屠殺又ハ撲殺シタルトキ
二、死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキ
三、盜難ニ罹リタルトキ
第八條 規則第十二條ニ依リ許可ヲ受ケタルモノ者ハ納牛ノ期、種類、名號、牝別、用途生年月日毛色變更事由場所方法及其ノ月日ヲ詳細ニ検査

検査員ニ届出ツヘシ
第九條 結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ヲ所有又ハ管理スルニ至リタルトキハ直ニ知事ニ届出ツヘシ
第十條 規則第二十八條ニ依リ届出ハ様式第四號ニ依リ之ヲ行フ
第十一條 規則第五條ノ公告ハ市町村役場トス
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
様式第一號
畜牛現在届

種類	名號	生年月	毛色	牝牡別	用途	所在地	備考

計何頭
右畜牛結核病豫防法施行規則第二條第一項(第二項)ニ依リ及御届候也
年 月 日
所有者住所
市町村長宛
氏 名印
注 意
第二項ニ依リモノハ備考欄ニ届出期間後新ニ畜牛ヲ所有又ハ管理スルニ至リタル事由及其年月日ヲ記載スヘシ
様式第二號
畜牛變更届

種類	名號	生年月	毛色	別	用途	所在地	所有者	管理	事由
新									
舊									

計何頭

年月日

住所

氏名印

市町村長宛

畜補ニハ前届出事項ヲ記載シ新編ニハ新届出事項ヲ記載スヘシ事由欄ニハ變更事由ヲ記載スヘシ

様式第三號

ツベルクリン應用成績表

種類	名號	生年月	毛色	別	用途	所在地	所有者	管理	事由
原用									
注射前									
注射後									
體温									
注射									
後									
體温									
差温									
(十一)									
反應									
狀況									
診斷									

〔長野管〕

備考	年月日	郡市町村番地	獸醫氏	名印
----	-----	--------	-----	----

注意

ツベルクリンノ點眼應用又ハ皮膚注射ニ依ルモノハ其ノ反應狀況ヲ備考欄ニ記載スヘシ
「ツベルクリン」ノ別稱ニハ使用セル「ツベルクリン」ノ縣分與ノモノナ
ルヲ百十ヲ記載スヘシ

様式第四號

結核病牛發見届

種類	名號	生年月	毛色	別	用途	所在地	所有者	住所	氏名	備考
----	----	-----	----	---	----	-----	-----	----	----	----

年月日

郡市町村番地

名印

検査員宛
警察署長宛

●畜牛結核病豫防法施行手續

大正十五年九月十三日
長野縣訓令第六十六號

第一條 畜牛結核病豫防法施行規則(以下規則ト謂フ)第四條第一項ノ告示

〔長野管〕

アリタルトキハ當該市町村長ニ於テ適宜ノ方法ヲ以テ検査ヲ受ケヘキ畜牛ノ所有者又ハ管理者ニ其期日及場所ヲ通知スヘシ

第二條 規則第四條第二項ノ認可ヲ受ケタルトキハ申請書ニ期日場所並其ノ検査要領及事由ヲ記載スヘシ

第三條 市町村長ニ於テ規則第四條第三項第五條並第七條第二項ノ検査ノ日時及場所ヲ指定セムトスルトキハ豫メ知事ノ承認ヲ受ケヘシ

第四條 市町村長ハ様式第一號ニ依リ畜牛検査要領ヲ備付ケ規則第二條ノ届出ヲ受ケタルトキ及検査終了シタルトキハ必要事項ヲ記載スヘシ規則第七條第一項ノ届出ヲ受ケタルトキ及同條第二項ノ日時又ハ場所ヲ指定シタルトキハ之ヲ前項ノ要領備考欄ニ記載スヘシ

第五條 市町村長ニ於テ第三條及規則第四條第二項ノ日時及場所ヲ指定シタルトキハ直ニ様式第二號ニ依リ検査ヲ受ケヘキ畜牛ノ所有者又ハ管理者ニ之ヲ通知スヘシ

第六條 市町村長ニ於テ規則第六條ニ依リ禁止又ハ制限ノ必要アリト認めタルトキハ期間ノ初日ヨリ少クとも三十日以前ニ於テ其事由期間及區域ヲ知事ニ具申スヘシ

第七條 警察署長及市町村長ハ様式第三號ノ結核病牛検査要領ヲ備付ケ必要事項ヲ記載スヘシ

第八條 検査員畜牛結核病豫防法第五條又ハ第六條ノ指揮ヲ爲シタルトキハ様式第四號ニ依リ其ノ都度關係市町村長警察署長ニ通報シ同時に知事ニ報告スヘシ

検査員畜牛結核病豫防法施行規則(以下規則ト謂フ)第八條ニ依リ許可ヲ與ヘタルトキハ様式第五號ノ許可證ヲ交付シ様式第六號ニ依リ直ニ關係警察署長及市町村長ニ通報シ同時に知事ニ報告スヘシ

第六編 畜産 第二章 畜産

様式第二號 表面

符號	検査員	検査場所	種類	名號	別	用途	生年月	毛色	所在地	所有者	住所	氏名
----	-----	------	----	----	---	----	-----	----	-----	-----	----	----

通知書

郡市町村番地

氏名

右畜牛結核病豫防法ニ依リ検査ヲ受ケヘキ畜牛ノ検査場所及其ノ日時左ノ通指定ス

年月日

検査場所

何郡何市何町村番地

検査日時

何年何月何日午前八時

裏面

注意事項

第六編 畜業 第二章 畜産

一、検査ノ際ハ必ず検査場所ハ其記載ノ時期ニ畜牛ヲ牽付ケ
 且其ニ交付シ受ケタル検査員ニ通知スヘシ
 二、畜牛ノ牽付期間ニ要スル飼料等ノ費用ハ所有者又ハ管理者ノ
 負擔ナルヘキヲ以テ検査ノ際ハ防衛防害其ノ他食料ノ準備ヲナ
 ス

スヘシ
 一、正當ノ事由ナクシテ検査ヲ受ケサルモノハ豫防法ニ依リ百圓
 以下ノ罰金ニ處セラルヘシ

様式第三號

畜牛検査簿

検査番号	検査年月日	検査方法	病牛ノ別	種類	名	牝牡別	用途	生年月	毛色	特徴	處分事項	所有者 氏名	住所

畜牛検査簿(隔離及撲殺)通知書

様式第四號

畜牛検査簿

検査番号	検査年月日	検査方法	病牛ノ別	種類	名	牝牡別	用途	生年月	毛色	特徴	處分事項	所有者 氏名	住所

畜牛検査簿(隔離及撲殺)通知書

一、検査ノ際ハ必ず検査場所ハ其記載ノ時期ニ畜牛ヲ牽付ケ
 且其ニ交付シ受ケタル検査員ニ通知スヘシ
 二、畜牛ノ牽付期間ニ要スル飼料等ノ費用ハ所有者又ハ管理者ノ
 負擔ナルヘキヲ以テ検査ノ際ハ防衛防害其ノ他食料ノ準備ヲナ
 ス

畜牛検査簿検査員
 官職 氏名 名印

市町村長宛
 知事宛

注意
 處分事項欄ニハ法第五條ニ依リシモノニアリテハ隔離場所及方法第六條ニ依リシモノニアリテハ更ニ撲殺ノ場所及月日ヲ記入スヘシ

様式第五號

畜牛検査簿

検査番号	病牛ノ別	種類	名	牝牡別	生年月	毛色	特徴	變更月日	變更場所	所有者 氏名	住所

右ノ通隔場所(方法)變更ノ件許可ス

畜牛検査簿検査員
 官職 氏名 名印

様式第六號

畜牛検査簿

検査番号	検査年月日	検査方法	病牛ノ別	種類	名	牝牡別	用途	生年月	毛色	特徴	變更事由	變更月日	變更場所	所有者 氏名	住所

第六編 畜業 第二章 畜産

右ノ通稱變更許可候條此段及報告候也

養畜者長宛
市町村長宛
知事宛

様式第七號

結核病牛屠殺報告書

病牛ノ別	種	類	名	號	牝	牡	別	生	年	月	毛	色	特	徴	前	屠	場	所	屠	殺	日	所	有	者	住	所

年月日

様式第八號

結核病牛屠殺報告書

種	類	名	號	生	年	月	毛	色	牝	牡	別	用	途	所	在	地	所	有	者	住	所	名	同	出	人	住	所	氏	名	備	考

右何月何日届出有之候條此段及報告候也
年月日
知事宛

官職氏

名印

〔長野縣〕

ツベルクリン分與方

明治三十八年七月十一日
長野縣告示第四百十八號

畜牛飼者其他畜牛飼養者ニ於テ畜牛購入等ノ際結核病ノ有無診斷ノ爲「ツベルクリン」ヲ要スル場合ハ當該ニ於テ分與ニヘキニ依リ左ノ事項ニ從ヒ其必要量ヲ請求スヘシ

一 請求書ニハ畜牛ノ種類、用途、年齢及注射者ノ資格注射ヲ要スル事由ヲ記スルコト

一 「ツベルクリン」ハ獸醫ヲシテ之ヲ注射セシムルコト

一 注射成績ハ注射ヲ行ヒタル獸醫ヲシテ大正三年四月本縣令第十九號畜牛結核病預防法施行規則第六條ニヨリ成績表ヲ作ラシメ十日以内ニ相違ナク届出ルコト

一 分與シタル「ツベルクリン」ハ所轄警察官署區域外ニ於テ使用セザルコト

一 分與シタル「ツベルクリン」ヲ使用セザルトキ又ハ使用ノ殘餘アルトキハ總カニ返納スルコト

ツベルクリン分與報告方

明治三十八年六月十五日
農務第七八號農務局長通牒

畜牛飼者其他畜牛飼養者ニ於テ畜牛購入等ノ際結核病ノ有無診斷ノ爲「ツベルクリン」ヲ要スル場合ニハ豫テ検査施行用トシテ配付シタル「ツベルクリン」ヲ分與スルモ差支無之候ニ付自今左記取替事項ニ依リ物分與相成可然候此段及物通候也

一 畜牛ノ種類、用途、年齢及注射者ノ資格注射ヲ要スル事由等ヲ附記シ相違ナク届出ルコトキハ遺テ定メ進ニ分與シ必要以外ノ量ヲ分與セザルコト

畜牛結核病検査員

官職氏

名印

官職氏

名印

〔長野縣〕

分與シタル「ツベルクリン」ハ獸醫ヲシテ之ヲ注射セシムルコト

一 注射成績ハ注射ヲ行ヒタル獸醫ヲシテ其成績表ヲ作ラシメ十日以内ニ畜牛結核病預防法施行規則第二十五條ニ依リ畜主ヨリ相違ナク届出シタルコト

一 「ツベルクリン」ハ所轄警察官署區域外ニ於テ使用セシメザルコト

一 分與シタル「ツベルクリン」ヲ使用セザルトキ又ハ使用ノ殘餘ハ返納セシムルコト

一 注射成績ハ左記様式ニ依リ明治三十八年六月以後三ヶ月毎ニ本省へ報告セラルルコト

明治何年度分與「ツベルクリン」注射成績表 廳府縣

種類	年	用	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注	注

備考 本欄ニハ「ツベルクリン」ノ請求量分與量及注射ニ關スル概況ヲ記セラルルヘシ

獸畜養場取締規則

大正八年八月三十日
長野縣令第三十九號

第一條 本則ニ於テ獸畜養場ト稱スルハ牛馬羊豚ノ飼養又ハ營業トシテ之ヲ兼宿スル場所ヲ謂フ但シ許可ヲ受ケタル哺乳所ノ牛羊又ハ自家使用ノ二頭以下ノ牛馬若ハ羊豚ノ飼養場ヲ除ク

知事ニ於テ必要アリト認メタルトキハ前項頭數以下ノ獸畜ヲ飼養スル場所ニ對シ本則ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトアルヘシ

第二條 養場ヲ設置セムトスル者ハ住所氏名生年月日ヲ又法入ニ在リテ

第三節 一回(停止期間満了ニ先チ行フ)

初回ノ消毒ハ三%クレソール石鹼液(加温八十度以上ノモノ)ヲ使用ス汚物ノ附着セル部分ハ本液ヲ以テ充分洗滌スルコト

第一月第二月ノ前項ト同斷第三月以降ハ三十日毎ニ異なり消毒ニテ消毒スルコト

●牛ノ傳染性流産豫防取締ニ關スル件指示

本月二十五日下水内郡飯山町ニ於テ牛ノ傳染性流産發生候處本病牛ハ流産後久シク病弱ヲ保有スルヲ以テ病弱ハ不知不識ノ中ニ各地ニ散置セラレ

防取ヲ施行セラルヘシ

一、流産牛ハ流産月日ヨリ起算シ二ヶ月間他ノ健康牛ト別令ニ隔離スル事

三、病汚染物件ハ石炭酸水、クレソール水、クレキリン水、クローレル石灰、石灰乳等ヲ用ヒ消毒スル事

第三章 森林

●森林法施行規程

森林法施行規程左ノ通り定ム

(長野縣)

ハ農業要領ノ編成ヲ命セラレタルトキハ其命令ヲ受ケタル日ヨリ六ヶ月以内ニ之ヲ編成シ第一號乃至第六號様式ニ依リ郡町ニ申請スルベシ

●森林法及同施行細則取扱手續ノ義ニ付指示

明治三十四年五月六日
警發第二二五號

森林法第三十六條及同施行細則第十一條ニ依リ取扱手續左ノ通長野大林区署長ト協議決定候條此旨心得ヘシ

一、森林法第三十六條ニ依リ火災又ハ虫害ノ申告ヲ受ケタル場合ハ國有林部分林ニ關シテハ所管小林区署ハ公有林社寺及私有林ニ關シテハ所管警察官署ニ通報スルモノトス

一、關則第十一條ノ火入ハ國有林部分林ニ關シテハ所管小林区署ニ於テ之ヲ許可シ公有林社寺及私有林ニ關シテハ所管警察官署ニ於テ之ヲ許可スルモノトス

一、小林区署ニ於テ國有林若クハ部分林ニ直接火入ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ事業擔當吏員ヨリ其ノ日時場所ヲ所管警察官署ニ通報スルモノトス

一、警察官署ニ於テ國有林野ニ接續スル公有林社寺及私有林ニ火入ノ許可ヲ爲シタルトキハ速ニ所管小林区署ニ其ノ日時場所並ニ火入人ノ住所氏名ヲ通報スルモノトス

●保安林標柱保護取締方ノ義ニ付指示

大正九年九月三日
甲教第九九〇二號

保安林標柱保護取締方ノ義ニ付指示

保安林標柱保護取締方ノ義ニ付指示

保安林標柱保護取締方ノ義ニ付指示

●森林原野山岳又ハ荒蕪地火入及焚火取締規則

明治四十四年八月二十二日
長野縣令第二十三號

追テ本件ニ關シテハ本月十三日付内務部長ヨリモ各郡市長ニ對シ同一旨旨ヲ以テ通達セラル候條此旨心得ラレヘシ

第一條 森林法第七十八條第一項ニ依リ森林、原野、山岳又ハ荒蕪地ニ對スル火入ハ左ノ場合ニ於テ必要ト認ムルモノ、外之ヲ禁止ス

一、造林地時

二、防火線ノ地切

三、害蟲並ニ病害驅除

四、燒畑

五、開墾準備ノ爲メノ燒畑

第二條 森林法施行規則第四十三條第一項ニ依リ火入ノ許可ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ノ事項ヲ具シ隣接森林、原野、山岳又ハ荒蕪地ノ所有者若クハ管理者ノ連署又ハ承諾書ヲ添付シ著手七日前迄ニ之ヲ提出スヘシ

一、火入個所ノ町村字、地番、地目、面積

二、火入ノ目的

三、火入ノ方法

四、防火ノ設備

五、火入ノ期日及其時間

六、香人ノ住所氏名年齡

七、火入個所ノ實況圖(四圍ノ土地地番、地目並ニ其現況及所有者ヲ明記スルモノトス)

〔長野警〕

●國有林野火入取扱手續

大正元年十月二十二日
長野縣告示第四百二十五號

國有林野火入取扱手續

國有林野火入取扱手續

國有林野火入取扱手續

第一條 林區署所管ノ土地ニ對スル火入ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載セシメ且四至ノ境界ヲ劃シ隣接地ノ字地目及所有者ヲ記入シタル略圖ヲ添附セシムヘシ(第一號様式)

一、火入個所ノ地番、地目及面積

二、火入ノ目的

三、火入ノ日時

四、防火設備ノ方法及香人ノ員數

第二條 防火設備ノ方法ハ周圍ニ道路河川其ノ他防火ノ用ヲ爲スニ適當ナル地物アル場合ノ外左記各號ノ一ニ準據セシムヘシ

一、刈拂其ノ他ノ方法ニ依リ幅三間以上一切ノ可燃物ヲ除去スルコト

二、土堤又ハ溝ヲ設ケルコト

第三條 第一條ノ申請書受理シタルトキハ小林区署長ハ申請ノ事實、實地ノ狀況及森林法第七十八條第一項ノ土地ニ付テハ地方長官ノ指定シタル場合ニ該當スルヤ否ヲ調査シ林業上ノ支障及危害ノ虞ナキモノニ限リ之ヲ許可スヘシ

第四條 小林区署長火入ヲ許可シ又ハ第六條第二項ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ大林区署長ニ報告スヘシ(第二號様式)

●河川、道路、方位ヲ記載スヘシ

一、隣接森林、原野、山岳又ハ荒蕪地トノ境界ニ防火線ヲ設ケルコト但防火線ハ幅三間以上トシ一切ノ可燃物ヲ除去スルコト

二、火入面積ノ大小ニ依リ相當員數ノ香人ヲ配置スルコト

三、火入防火上必要ノ貯水又ハ器具ノ設備ヲ爲スコト

第四條 第二條許可證ヲ受ケ火入ヲナサントスルトキハ著手三日前迄ニ之ヲ隣接森林原野、山岳又ハ荒蕪地ノ所有者若クハ管理者ニ通知シ尙ホ警察官署ノ立會ヲ得テ著手スヘシ

第五條 火入中ハ左記事項ヲ遵守スヘシ

一、火入著手ヨリ終了後火氣全ク消滅スルニ至ル迄ハ香人ヲ現場ヨリ退去セシメサルコト

二、風勢強カテラサルカ又ハ日没後ニ至リタルトキハ中止スルコト

三、香人退去後ト雖モ風勢強カテラサルトキハ更ニ現場ヲ巡視スルコト

第六條 森林、原野、山岳又ハ荒蕪地ニ於テハ遺リニ焚火ヲ爲シ若クハ炬火ヲ攜帶スルコトヲ得ス但已ムテ得サル場合ニ於テ焚火ヲナシタルトキハ火氣全ク消滅シタル後退去スルコトヲ要ス

第七條 森林、原野、山岳又ハ荒蕪地ニ於テ灰燒若クハ木炭製造等ノ目的ヲ以テ焚火ヲ爲サントスル者ハ相當ノ防火設備ヲ爲シ並ニ警察官署ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第六條但書ノ規定ニ遵フヘシ

第八條 第三條乃至第七條ニ違背シタル者ハ式拾圓未満ノ科料ニ處ス

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 火入個所カ帝室林野管理局所管又ハ其ノ他ノ土地ニ接近スルトキハ許可ノ場合ハ即日、直接火入ヲ施行スル場合ハ成ルヘク期...

第六條 小林區署長必要アリト認ムルトキハ保護區詰員ヲシテ火入許可ニ關スル取扱ヲ爲サシムルコトヲ得...

第七條 火入ノ期日ニハ小林區署長又ハ保護區詰員現場ニ立會シ之ヲ監視スルハシ林區署所管地ニ接近スル土地ノ火入ニ付通知ヲ受ケタルトキ亦同...

第八條 前條監視ノ場合ハ左ノ事項ニ注意スヘシ 一、申請書ニ基キ防火ノ設備ヲ爲シ且適當ニ香人ヲ配置シタル後ニアラ...

第九條 雨天又ハ強風等ノ爲火入ヲ行フ能ハサルトキハ順次期日ヲ繰延ヘ...

第十條 火入着手後風勢ノ變動等ニ因リ延焼其ノ他危害ノ虞アリト認メタルトキハ速方ニ火入ヲ差止め更ニ火入ノ方法又ハ期日ノ變更其ノ他相當ノ處置ヲ命スヘシ...

第一號様式 火入願 何村何大字何字何番何有林(又ハ何々) 一、火入箇所何給町步

〔長野警〕

目的 造林地等(又ハ何々) 火入ノ日時 何月何日 但午前何時著手...

防火設備 何々 何人 右火入御許可相成度別紙圖面添附此段相願候也...

年 月 日 何小林區署御中 住 所 氏 名

第二號様式 火入許可報告 何月何日左記ノ通火入許可候條此段及報告候也...

年 月 日 長野大林區署長 官 氏 名 宛 何小林區署長 官 氏 名

Table with 6 columns: 郡村大字字, 地番地目, 面積, 火入ノ火入ノ, 申請者, 住所氏名

第三號様式 帝室林野管理局森林(官定ニ通知スル場合) 用スヘキモノニ有之候條右ニ依リ相當取締セラルヘシ...

〔長野警〕

甲 長野縣知事殿 照會 明治四十四年八月縣令第二十三號森林原野山岳又ハ荒蕪地火入焚火取締規...

乙 帝室林野管理局木曾支局長殿 照會 明治四十四年八月縣令第二十三號森林原野山岳又ハ荒蕪地火入焚火取締規...

Table with 6 columns: 郡村大字字, 地番地目, 面積, 火入ノ火入ノ, 申請者, 住所氏名

火入許可通知 貴處所管地ニ接近スル個所ニ於テ左記ノ通火入許可候條此段及通知候也...

年 月 日 何小林區署 何小林區署

林野山岳又ハ荒蕪地焚火取締方ノ義ニ付指示 大正七年十月四日 收第一〇六三五號...

御料林地内ニ於ケル焚火取締方ニ付帝室林野管理局木曾支局長ヨリ左記甲...

本業第八二二ノ二號(大正七年五月十八日) 帝室林野管理局本會支局長

長野縣知事 照會

本月十四日收第一〇六三五號ヲ以テ森林原野山岳又ハ荒蕪地火入焚取...

帝室林野管理局本會支局長 同答

昨月十八日付本業第八二二ノ二號御照會ノ件了承本縣令森林原野山岳又ハ...

御料林内火入ノ義ニ付指示

明治三十一年四月十一日 警收第四三二七號 上野郡 伊那 赤松 聯合 高橋...

林野火入許可ニ關スル件

明治四十四年九月二十日 警收第一七六三八號

- 一 火入箇所及面積
二 火入ノ目的
三 火入日時
四 火入者ノ住所氏名

林野火入取締方ノ件

明治四十一年二月十八日 警收第一〇八六號

炭竈築造ニ關スル取扱方ノ件

大正九年十一月三日 甲收第一二一三四號

林野ニ於ケル炭竈ノ築造ハ從來森林法第三條ニヨリ開墾トシテ取扱ヒ來リ...

土石採掘取締規則

明治三十八年八月四日 長野縣令第二十九號

第一條 民有山林原野ニ於テ土石ヲ採掘セントスルモノハ左ノ各號ヲ具シ...

農商務大臣(地方長官)宛

第三編 獵區設置認可申請書ニ添付スヘキモノニ準シ調製スルコト
表式第二號

獵區設定認可申請書

- 一、獵區ノ名稱 何縣何郡(市)何村(町)獵區
- 二、事務所ノ位置 何縣何郡(市)何村(町)大字何何番地
- 三、獵區ノ區域 何縣何郡(市)何村(町)ノ一部
- 四、獵區ノ面積 山林 何町何段何畝何歩
- 五、獵區ノ面積 原野 何町何段何畝何歩
- 六、獵區ノ面積 池、沼 何町何段何畝何歩
- 七、獵區ノ面積 計 何町何段何畝何歩
- 五、獵區存續期間 自何年何月何日至何年何月何日
- 六、狩獵法施行規則第二十二條承認料額一人一日何圓
- 七、鳥獸ノ保護期限ニ關スル方法
- 八、獵區内ニ於ケル鳥獸棲息ノ狀況

狩獵法施行手續

農商務大臣宛

〔長野縣〕

大正八年十月十三日
長野縣令第六十號

警察官(警務分署)

狩獵法施行手續左ノ通定

- 第一條 狩獵法施行規則第五條第二項ノ事項並願書ニ貼付セル印紙ヲ調査シ支障ナシト認メタル場合ニ限リ狩獵免狀ヲ下付スヘシ
- 第二條 狩獵法第八條ノ免狀額算定標準ハ左ノ各號ニ據ルヘシ
- 一、戶主カ所得額ヲ納メ其ノ家族ノ納メタル場合ニ於テハ家族ノ納ムヘキ免狀額ハ戶主ノ納額ニ依ル
- 二、戶主及家族カ所得額ヲ納ムル場合ニシテ家族ノ納税額カ戶主ノ納税額ヨリ少キトキハ家族ノ納ムヘキ免狀額ハ戶主ノ納税額ニ依ルヘク家族ノ納税額カ戶主ノ納税額ヨリ多キトキハ戶主ノ納ムヘキ免狀額ハ戶主ノ納税額ニ依リ家族ノ納ムヘキ免狀額ハ其ノ納税額ニ依ル
- 第三條 消印ハ打抜印ヲ用ヒ印紙毎ニ消印スヘシ
- 第四條 御獵場、御料林野、御料牧場、國有林野其ノ他國ノ管理スル土地ニ於テ有吾鳥獸ヲ驅除スル場合ハ當該管理官廳ニ於テ所屬公務員ニ狩獵法施行規則第七條ニ依リ鳥獸捕獲許可證ニ準シテ代價ヲ交付ス
- 第五條 狩獵法第三條ニ依リ獵具ノ使用以外ノ方法ヲ以テスル狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁止スルハ制限スルノ必要アリト認ムルトキハ其獵具ノ種類、名稱、製造元、價格、使用法及意見ヲ具シ現品ヲ添ヘ申報スヘシ
- 第六條 狩獵法第九條ニ依リ禁獵區ヲ設ケルノ必要アリト認ムルトキハ其

何縣何郡(市)何村(町)長 何

某團

〔長野縣〕

場所、區域、面積、期間及理由ヲ具シ圖面ヲ添ヘ申報スヘシ
土地所有者ヨリ禁獵區設置ノ出願アリタルトキハ必要ノ有無ヲ調査シ意見ヲ具シテ進達スヘシ

第七條 危險預防其ノ他ノ事由ニヨリ統制禁止區域ヲ設ケルノ必要アリト認ムルトキハ前條第一項ニ準シ調査ヲ進テ申報スヘシ

第八條 狩獵法第十三條但書ニ依リ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥獸ノ別々捕獲又ハ收受ノ出願ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ許可スルコトヲ得

一、飼養鳥獸ヲ養育セシメタル者其ノ養育シタル鳥獸又ハ産卵シタル鳥類ノ卵ヲ譲渡スル場合

二、飼養鳥獸ニシテ營利ノ目的トセザル場合

三、公共團體カ有害鳥獸驅除ノ許可ヲ得テ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥類ノ卵ニシテ營利ノ目的トセザル且弊害ナシト認ムル場合

前項以外ノ場合ニ在リテハ意見ヲ具シテ進達スヘシ

第九條 狩獵法施行規則第七條ノ出願アリタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ進達スヘシ

第十條 狩獵法施行規則第八條第一項ニ依リ住所異動ノ届出アリタルトキハ狩獵免狀ヲ受ケタル者ニ付テハ届出人ノ新住所所轄警察官署ニ其ノ氏名生年月日新住所、狩獵免狀ノ種類、等級及番號ヲ通報シ其ノ他ノ場合ニ在リテハ其届出事項ヲ申報スヘシ

第十一條 狩獵免狀ノ收支ハ様式第二號ニ依リ毎年五月十五日迄ニ報告シ成績ハ署長ニ於テ保管スヘシ

第十二條 狩獵法施行規則第九條ノ届出アリタルトキハ事實ヲ調査シ様式第三號ニ依リ報告スヘシ

第十三條 狩獵法施行規則第十一條ニ依リ返納シタル狩獵免狀ハ警察官署

第六編 產業 第四章 狩獵、成獣

第六編 產業 第四章 狩獵、成獣

第六編 產業 第四章 狩獵、成獣

第六編 產業 第四章 狩獵、成獣

第六編 產業 第四章 狩獵、成獣

第六編 產業 第四章 狩獵、成獣

第六編 產業 第四章 狩獵、成獣

第六編 產業 第四章 狩獵、成獣

第六編 產業 第四章 狩獵、成獣

第六編 產業 第四章 狩獵、成獣

第六編 產業 第四章 狩獵、成獣

ニ於テ取捕ノ上切斷シ鳥獸捕獲許可證ハ返還スヘシ

第十條 獵區設定認可申請書ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ進達スヘシ狩獵法施行規則第二十六條及第二十七條ノ申請書ヲ受理シタルトキ亦同シ

第十五條 狩獵法施行規則第三十四條ニ依リ命令又ハ處分ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ事實ヲ具シ申報スヘシ

第十六條 毎年九月十四日ヲ限度トシ其ノ前一年間ノ禁獵區内ニ於ケル鳥獸捕獲ノ狀況其ノ他ノ成績ヲ調査シ九月二十日迄ニ申報スヘシ

第十七條 農商務大臣又ハ知事ノ設定シタル禁獵區ノ木柵又ハ圍柵ニシテ亡失毀損若ハ文字不明ニ至リ又ハ位置ノ變更ヲ要スト認ムルトキハ其狀況ヲ申報スヘシ

第十八條 警察官署ハ様式第四號ノ飼養鳥獸捕獲シ其ノ異動ヲ整理スヘシ

第十九條 明治三十四年八月閣令第八十六號狩獵法ニ關スル取捕心算ノ之ヲ廢止ス

附則

狩獵免狀原簿

表式第一號

免狀種類

免狀等級

下付年月日

住所職業氏名生年月日

備考

一〇七

第六編 農業 第四章 狩獵、成獣

鳥類ノ害種ハ此ノ禁獵期中ニ在ルヲ以テ此ノ禁獵期中ニ於テ狩獵ヲ爲ス者アリハ相當處分ヲ行ハサルヘカラス申稱狩獵者ハ從前ノ慣習ニ照シテ或ハ違犯者アルヤモ計ラレサルヲ以テ特ニ留意ヲ要ス

- 一 禁獵區ヲ設定スルコト
- 一 既ニ狩獵期ニ制限アルモ現今ノ如ク到ル所狩獵ヲ得ルニ於テハ鳥獸ハ安逸ニ棲息スル土地ナク其ノ害種ヲ害スルヲ以テ鳥獸ノ害種ニ連スル地ヲ相シ禁獵區ヲ設定スルコト必要ナリ改正法律ニハ此ノ規定アルヲ以テ適宜禁獵區ヲ設定セラレシムルコトヲ望ム
- 一 鳥獸捕獲ノ特許ハ種ニ許サレル事
- 一 學術研究又ハ有害鳥獸驅除其ノ他特別ノ理由ニ依リ保護鳥獸其他ノ鳥獸捕獲ノ特許ハ種ト調査ヲ遂ク實際必要ト認メタルモノ、外許可セザルヲ要ス從來學校教員等ニ於テ鳥獸ノ標本ノ蒐集ヲ名トシ鳥獸捕獲ノ特許ヲ受ケ免許狀ヲ納メシ特許ヲ爲ス者アルヤノ間ニアリ此ノ如キ者ニハ宜シク許可ヲ與フヘカラス
- 一 保護鳥獸ノ捕獲及賣買ヲ取締ル事
- 一 已ニ述べタル如ク有益鳥類ハ農林業上至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ特ニ保護鳥ノ捕獲及賣買ハ嚴重ニ取締ルヲ要ス此ノ有益ナル保護鳥ヲ射殺又ハ半割製トシ海外ニ輸出スル者アリ歐米諸國ニ於テハ鳥獸害種ノ保護ハ行政官廳及私人ニ於テ最モ重要ナル保護鳥獸賣買ノ取締ノ如キモ亦助行セラレサルハナシ本邦ニ於テハ賣買禁止期間ニ於テ往々保護鳥獸ヲ店頭ニ懸ケ販賣スル者アルヲ見ル是等ハ自今嚴重ニ取締アラシムコトヲ望ム
- 一 危險ナル獵具獵法ヲ嚴重ニ取締ル事
- 一 近來危險ナル罟、陷阱、爆發物、毒藥及劇藥ヲ用キテ鳥獸ヲ捕獲スル者アリ此等ハ人ノ生命身體ニ危險ヲ及ホスヲ以テ十分取締アラシム

〔長野書〕

●狩獵免狀取扱方ノ義ニ付指示

大正八年十月三十日
甲保部收第二八七號

〔關係分署長〕
帝國ニ駐在スル外國大使、公使、領事官等ノ狩獵免許狀納付ニ關シ別紙寫ノ通其筋ヨリ内閣有之候條此旨心得ラルヘシ

〔別紙〕
農第一一八六八號

〔府 縣〕
帝國ニ駐在スル外國大使、公使、領事官及其ノ隨從員ノ外國官定ハ一般外國人ト同シク免許狀ヲ納付シテ狩獵免狀ヲ受ケヘキモノトシテ取扱フヘ右内閣ス

大正八年十月十八日
農商務大臣 山本達雄

●有害鳥獸捕獲許可證ノ義ニ付指示

大正九年一月十日
甲收第九四號

〔關係分署長〕
御料地内ノ有害鳥獸驅除ニ從事スヘキ帝室林野管理局職員ニ對シテハ狩獵法施行規則第七條ニ依リ鳥獸捕獲許可證ニ準シタル左記雛形ノ證書ヲ交付スル旨内閣長ヨリ通達有之候條此旨心得ラルヘシ

第六編 農業 第四章 狩獵、成獣

コトヲ望ム

●狩獵取締方ノ義ニ付指示

明治三十九年十月二十三日
警發第三六七號

〔關係分署長〕
狩獵ノ取締方ニ付テハ種々指示シタルコト一再ニ止マラスト雖今ニ尙密獵ノ弊ヲ絶タストノ報アルハ甚ク遺憾ニ堪ヘサル所ナリ尙モ密獵者ノ多クハ狩獵期前ニ於テ密カニ深山ニ入込ミ已ニ多數ノ鳥類ヲ捕獲シ之ヲ土中ニ埋没シテ其腐敗ヲ防止シ置キ獵期ニ入ルト同時ニ之ヲ市ニ帶キ或ハ獵期前種々ノ口實ノ下ニ轉賣其他ノ鳥類ヲ割烹シテ公然食用ニ供シ若ハ免狀ヲ受ケタル者ニシテ免狀紛失ノ旨届出テ更ニ數枚ノ免狀ヲ受ケテ之ヲ數人ニ使用セシメ又或ハ他人ヲシテ密カニ獵具ヲ深山ニ運ハシメ單身旅行ヲ行テ密獵ニ從事スル等其方法甚ク巧ミニシテ單純ナル取締ハ到底實ヲ穿テ密獵ニ惡手段ヲ行フ者日チ追フテ多キチ加ントストノ間ヘアリ就テハ此際ハ勿論及期限外ト雖密獵ノ弊ヲ防遏スルニ努ムルト同時ニ又他ノ一面ニ於テハ已ニ販賣セル鳥類及料理店力使用セル鳥類ニ付テモ其ノ出所ヲ調査シテ密獵ナルヤ否ヲ確ムル等一層取締ヲ嚴ニシ密獵ニ餘地ヲ與ヘサルヲ期スヘ

●有害鳥獸驅除ニ關スル願書取扱方ノ義ニ付通牒

大正八年五月九日
發第一三七號

〔關係分署長〕
狩獵法施行規則第四條ニ依リ有害鳥獸ノ驅除ニ關スル願書ニ付付スベキ事

左記

第 號 有效期間 大正 年 月 日

有害鳥獸捕獲許可證

帝室林野管理局

鳥獸名	區 域	方 法	目 的	生年月日	官職氏名	所屬官署

三寸三分

分三寸二

111

鹿捕獲禁止區域

大正十二年二月十三日 農商務省告示第三十三號

鹿捕獲禁止區域

狩獵法第一條第三項ニ依リ左ノ通款類ノ捕獲ヲ禁止ス

狩獵免許出願者身元調査ノ義ニ付指示

大正十二年十一月二日 甲收第一三〇六八號

雷鳥其ノ他密獵取締ノ義ニ付指示

大正十二年十二月五日 甲收第一四八二九號

傳書鳩捕獲防止ニ關スル義ニ付指示

大正十三年九月十八日 甲收第一五七九號

飼養鳥捕獲ニ關スル義ニ付指示

大正十四年五月三十日 甲收第二五九號

大正九年七月九日 甲收第一八五號

飼養鳥捕獲ニ關スル義ニ付指示

狩獵法施行規則第七條ニ依リ飼養ノ目的ヲ以テ非獵鳥ノ捕獲出願者ニ對シ

狩獵法令違反及銃器使用ニ依ル

狩獵ニ因リ生シタル過失殺傷調

狩獵關係統計調査上必要有之候條列表様式ニヨリ前年四月十六日ヨリ其ノ

Table with columns for '違反檢査' (Violation Check), '檢査局' (Inspection Office), '決' (Decision), and '備考' (Remarks). It includes a section for '銃器使用ニ依ル狩獵ニ因リ生シタル過失殺傷事件調' (Investigation of Accidents Caused by Gun Use in Hunting).

注意 各事件一件毎ニ記載スヘシ
一、大正十四年六月九日甲發第二七〇號ハ之ヲ廢止ス

●威銃取締規則

明治三十四年十二月十七日
長野縣令第六十三號

第五 明治十四年一月〇月縣令第五二號、大正九年一月第九號
威銃取締規則左ノ通相定ム

威銃取締規則

- 第一條 農産物ヲ管スル鳥獸驅除ノ爲威銃ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シテ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケルヘシ
 - 一 族籍、住所、氏名、年齢、法人、團體ニ在リテハ其ノ事務所ノ所在地及首長ノ住所、氏名、一部若共同ニ在リテハ代表者ヲ定メ其ノ代表者ノ住所、氏名、年齢及共同者ノ氏名
 - 二 狩獲物ノ名稱及狀況、有否鳥獸ノ種類
 - 三 區域(地目、地名)及其ノ範圍
 - 四 威銃ノ種類、名稱
 - 五 期日及時間
- 法人、團體又ハ一部若共同ニ於テ共同威銃ヲ爲サントスルトキハ前項ノ申請書ニ威銃ニ從事スル者ノ住所、氏名、年齢ヲ指定スヘシ
- 前二項ヲ變更セントスルトキハ許可證ノ書換ヲ申請スヘシ
- 第二條 威銃ハ十六歳以上ノ男子ニアラザレハ從事スルコトヲ得ス
- 第三條 威銃ニ從事スル者ヲ指定シ其ノ許可ヲ受ケタルトキハ様式ニ依リ威銃從事ノ證ヲ製シ被指定者ニ交付スヘシ
- 第四條 警察官署ハ公安ニ資アリト認メ又ハ威銃ニ從事スル者ニシテ不適任ト認ムルトキハ許可ヲ取消シ又ハ停止スルコトアルヘシ

〔長野警〕

第五條 威銃ノ許可ヲ受ケタル者又ハ威銃ニ從事スル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 威銃ニ實際其ノ他ノ固形物ヲ込メ發砲セザルコト
- 二 從事中ハ許可又ハ從事ノ證ヲ携帯スルコト
- 三 火藥其ノ他發火實物ノ置揚又ハ人家人ノ方位ニ向ヒ發砲セザルコト
- 四 許可證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ書換又ハ再發ヲ申請スルコト
- 五 從事ノ證ヲ亡失シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出テヘキコト
- 六 第四條ニ依リ許可ヲ取消サレタルトキ又ハ滿期ノトキハ五日以内ニ許可證ヲ返納スルコト
- 第六條 第一條ノ許可證ヲ受ケス又ハ第四條ニ違背シテ威銃ヲ爲シタル者若ハ第五條ニ違背シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓以下ノ科料ニ處ス
- 第七條 法人、團體ハ其ノ首長、一部若共同威銃ハ其ノ代表者ニ前條ノ規則ヲ適用ス

第八條 明治十七年布達甲第三十六號威銃取締規則ハ之ヲ廢止ス
(様式)

威銃從事之證

被指定人 何 某

至明治何年何月何日

至明治何年何月何日

寸二

〔長野警〕

明治何年何月何日交付

何々會又ハ(何々區)、、團

(何町村何新地又ハ組織代某團)

一 木製又ハ厚紙製ト爲ヌテ要ス

●威銃許可證様式

明治三十四年十二月二十日
長野縣令第六十三號

警察官署 (警察分署)

威銃取締規則第一條ノ許可證ハ左記様式ニ據リ警察官署ニ於テ製スヘシ
但シ明治二十六年十二月訓令第七十九號ハ之ヲ廢止ス
(様式) 西ノ内八ツ切

威銃許可證			
許可ヲ受ケタル者	氏名	住所	何收第
至明治	年	月	日
至明治	年	月	日
午前何時	午後何時	午後何時	マテ

注意

- 一 威銃ニ實際其ノ他固形物ヲ込メ發砲セザルコト
- 一 從事中ハ許可證又ハ從事ノ證ヲ携帯スルコト
- 一 火藥其ノ他發火實物ノ置揚又ハ人家人ノ方位ニ向ヒ發砲セザルコト
- 一 許可證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ書換又ハ再發ヲ申請スルコト
- 一 從事ノ證ヲ亡失シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出テヘキコト
- 一 許可ヲ取消サレ又ハ滿期ノトキハ許可證ヲ五日以内ニ返納スルコト

長野縣警察分署

●威銃取扱ニ關スル指示

明治三十四年八月三十一日
警收第一一一二九號

警察官署 (警察分署)

威銃免狀記入方ニ關シ小諸警察分署長ノ稟請ニ對シ別紙ノ通指示候條此旨心得ヘシ

(別紙)

小發第二二〇號

威銃免狀ノ義ニ付稟請
部内川邊村民ハ本牧警察分署部内南御牧村及北御牧村地籍字御牧原ヲ開墾田畑ヲ所得スルモノ多ク自村ニ於ケル所有地モ之レト接續セルヲ以テ目下

作物成熟ノ期ニ際シ或ハ成熟ニ至ラズニテ右ノ村ニ時々ノ字ヲモ記入ノ向有
之類其地上田警察署及本署管内ニ接近セル村落ニテ是等ノ類例モ可有之
ト思料候右ノ其地所管轄スル警察官署ハ出願候方當然ト思料候得共便宜
ノ爲兩管轄ニ關スル場合ハ個人住居地ノ警察官署ニ於テ他管轄ニ屬スル地
籍ヲモ免狀ヘ記入許可而シテ其地所管轄ノ警察官署ヘ通報ノ事ニ致シ候得
ハ取上テ支無之ト思料候得ハ農民ノ便ヲ圖リ新ク取扱不苦候後進歩リマ
ル職モ有之候條至登何分ノ仰御垂訓候也
明治三十四年八月三十一日

小諸分署長

警部 松高三郎

長野縣警部長 平井光長殿

警部第一一二九號

小諸警察分署長

成統許可ニ關スル指示

小發第二二〇號成統許可ニ關スル稟請ノ件許可ノ權能ハ他ノ警察官署ノ所
轄ニ及フヘキモノニアラザルニ付他所轄ニ屬スル地籍ハ免狀ニ記入スヘカ
ラザル處ト心得ヘシ

明治三十四年八月二十八日

長野縣警部長 平井光長

〔長野警〕

第五章 漁業

●長野縣漁業取締規則

大正十二年二月二十五日
長野縣令第九號

第一章 總則

第一條 漁業ニ關シ出願申請又ハ届出ヲ爲サントスルトキハ漁場ヲ管轄ス
ル市町村役場ヲ經由スヘシ
但シ漁場ノ管轄カニ市町村以上ニ互ルトキ又ハ不明ナルトキハ住所地ノ
市町村役場ヲ經由スヘシ

第二條 工作物ノ施設ヲ必要トスル漁業ノ免許若ハ許可ヲ出願セムトスル
トキハ願書ニ工作物ノ施設方法設計書ヲ添付スヘシ

第三條 漁業法施行規則第四十三條ニ依リ警察官署長ニ許可ヲ出願セムト
スル者ニシテ漁業ノ免許ヲ受ケタル者ハ漁業免許指合書ヲ添付スヘシ
郡長又ハ警察官署長漁業法施行規則第四十三條ノ出願ヲ許可シタルトキ
ハ願書ノ寫ヲ添ヘ送附ナク之ヲ知事ニ報告スヘシ

第四條 漁場ニ定置シタル漁具及之ニ附帶セル工作物ハ漁業時期終了後若
ハ免許期間満了後返還ナク除去スヘシ免許ヲ取消シ又ハ制限シタルトキ
亦同シ

第二章 漁業許可

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル漁業ヲ爲サムトスル者ハ一漁業毎ニ如事
ノ許可ヲ受ケヘシ
但シ專用漁業權ニ依リ之カ漁業ヲ爲サムトスルモノハ此ノ限ニ在ラス

一、魚塚漁業(方言「マヤ」ヲ含ム)
二、瀬付漁業

〔長野警〕

三、石塚漁業(方言「カイツケ」)

四、水堀目漁業

前項ノ漁業ヲ許可シタルトキハ免狀ヲ下付ス

第六條 前條漁業ノ許可ヲ出願セムトスルトキハ願書ニ左ノ事項ヲ記載ス
ヘシ

- 一、漁業ノ名稱
- 二、漁業ノ場所
- 三、漁業物ノ種類
- 四、漁業ノ時期
- 五、許可期間

第七條 許可漁業ノ期間ハ五箇年以内トス

第八條 第五條ノ漁業者漁業ヲナストキ免狀ヲ携帯スヘシ

第九條 免狀ハ之ヲ相續貸付買入又ハ譲渡ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 許可ヲ受ケタル漁業者廢業シ又ハ其許可期間満了シ若ハ許可ノ故
力消滅シタルトキハ十日以内ニ免狀ヲ添付シ其旨届出ツヘシ

漁業者死亡シタルトキハ戸籍法ニ依リ届出義務者前項ニ準シ其ノ旨届出
ツヘシ

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事由ヲ具シ免狀ノ再下附ヲ
申請スヘシ此ノ場合ニ於テハ現ニ有スル免狀ヲ同時ニ返納スヘシ

一、免狀ヲ失シタルトキ

二、免狀ヲ毀損シ又ハ記載文字不明トナリタルトキ

住所氏名其他免狀ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ免
狀ヲ添ヘ書換テ申請スヘシ

第十二條 許可期間更新ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ更新期間ヲ定メ期間満
了ノ月ヨリ少ク共一箇月前ニ申請スヘシ

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可シタル漁業ヲ制限シ停止シ
又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一、水産動植物ノ繁殖保護又ハ公益上必要アリト認メタルトキ

二、漁業者本則其他漁業ニ關スル法令ニ違反シタル行為アリト認メタル
トキ

三、漁業者引續キ一年以上休業シタルトキ

第三章 禁止制限

第十四條 左ノ各號ノ漁具漁法ヲ用キテ水産動植物ノ採捕ヲナスコトヲ得
ス

一、ヤツコ又ハ鹿菜ヲ沈メテ爲スモノ

二、水引

三、ズリ引

四、三分目以下ノ網籠ヲ以テ網ノ獲取ヲナスモノ

五、石コシ

六、電流ノ使用

第十五條 木崎湖中湖青木湖並之等ノ湖水ニ流入スル河川ニ於テ目合三
分目下ノ量ヲ使用シテ水産動植物ヲ採捕スル事ヲ得ス

第十六條 諏訪湖ニ流入スル河川ニ於テハ築及瀬堰堰ヲ設置シテ水産動物
ヲ採捕スルコトヲ得ス

第十七條 漁業者ニ非サルモノハ左ニ掲タル以外ノ漁具漁法ヲ用キテ水産
動物ヲ採捕スルコトヲ得ス

一、竿釣

二、投網

三、又手網

第十八條 漁業法第三十九條ノ水面ニ於テハ爆發物又ハ水産動植物ヲ殺害

又ハ他種モシムヘキ有毒物ヲ使用シテ水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ス
 第二十九條 一月一日ヨリ六月三十日ニ至ル間ハ採捕スルヲ得ス
 但シ天龍川及其支流ニ於テハ一月一日ヨリ五月三十一日迄トス
 第三十條 諏訪湖内宇河原及「道ノエゴ」ニ禁漁區ヲ設置シ水産動物ノ採捕
 ヲ禁ズ
 前項ノ區域ハ豊田村宇河原六、六四五番ノロノ九第一號不動標識杭ヨ
 リ同村宇河原二、二四九番イ號ニ第二不動標識杭一直線見通シ以内ノ水
 域トス
 毎年三月一日ヨリ七月三十一日迄前項ノ區域内ニ於テ水産動物ノ採取ヲ
 禁止ス
 第三十一條 野尻湖ニ於テハ六月一日ヨリ七月三十一日迄採捕スルコ
 トヲ得ス
 第三十二條 左ニ掲ケル水面ヲ禁漁區トシ水産動物ノ採捕ヲ禁ズ
 一、南安郡安曇村島々各字ニ於ケル梓川支流島々各南澤北澤合流
 處第一號不動標識ト第二號不動標識トノ見通シ線ヨリ上流
 一、南安郡安曇村宇河原ニ於ケル梓川支流水尻川流域中梓川本流トノ
 合流點第一號不動標識ト第二號不動標識トノ見通シ線ヨリ上流
 一、南安郡安曇村上高地明神池
 一、西筑摩郡日義村野々尻ニ於ケル株式会社電氣製鋼所設置ノ第一取水
 口堰堤ヨリ上流六十間下流六十間ノ區域
 一、西筑摩郡高町字中平ニ於ケル株式会社電氣製鋼所設置ノ第二取水
 口堰堤ヨリ上流六十間下流六十間ノ區域
 一、西筑摩郡大桑村大字須原字和村ニ於ケル大同電力株式会社須原發電
 所設置ノ堰堤ヨリ上流六十間下流六十間ノ區域
 一、西筑摩郡大桑村大字須原和村ニ於ケル大同電力株式会社大桑發電所

設置ノ堰堤ヨリ上流六十間ノ區域
 一、西筑摩郡吾妻村字芽ヶ澤ニ於ケル大同電力株式会社大桑發電所設置ノ
 堰堤ヨリ上流六十間下流六十間ノ區域
 第二十三條 湖河魚類ノ通路ヲ遮断シテ魚類ノ採捕ヲ爲ストキハ河川流幅
 ノ五分ノ一以上ノ魚道ヲ開通スヘシ
 第二十四條 湖沼河川ニ遺棄又ハ放流スル物質ニシテ水産動物ニ有毒ナ
 リト認ムルトキハ知事ハ之ヲ制限若ハ禁止シ又ハ期間ヲ指示シテ除害ニ
 必要ナル設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ
 第二十五條 養殖、學術研究其他特別ノ理由ニ依リ漁業法施行規則第四十
 五條ノ許可ヲ出願セムトスルモノハ知事ニ左記事項ヲ記載シ知事ノ許可
 ヲ受クヘシ
 一、目的
 二、採捕セムトスル水産動物ノ種類
 三、採捕ノ場所
 四、採捕ノ時期
 五、採捕ノ方法
 第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處
 ス
 一、許可ヲ受ケズシテ第五條第一項ノ漁業ヲナシタルモノ
 二、第十四條第十五條第十六條第十八條第十九條第二十一條ニ違反シタ
 ルモノ
 三、第十三條ノ制限又ハ停止ニ違反シテ漁業ヲ爲シタルモノ
 前項ノ場合ニ於テハ魚獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ之カ全部若ハ一部ヲ
 沒收スルコトハサレハ其ノ價格ヲ没收ス

〔長野縣〕

第二十七條 第四條第八條第九條第十條第十一條第十七條ノ規定ニ違反シ
 タルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十八條 本則ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第二十九條 大正九年縣令第五十號漁業取締規則ハ之ヲ廢止ス
 第三十條 漁業ノ免許又ハ許可ヲ出願セントスルトキハ願書ニ公有水面使
 用ノ免許ニ關スル事項ヲ併記シ出願スルコトヲ得
 第三十一條 本則施行前ヨリ第五條ノ漁業ヲ爲ス者ニシテ引續キ之ヲ營マ
 ントスル者ハ本則施行後三十日以内ニ許可ヲ出願スヘシ
 前項ノ出願ヲ爲シタル者ハ許可ノ處分ヲ受クモ此ノ間仍舊前ノ例ニ依リ
 漁業ヲ爲スコトヲ得

●長野縣漁業取締規則ニ依ル出願

申請書式ノ件

大正十二年二月二十五日 長野縣告示第百六號

長野縣告示第百六號

大正十二年二月長野縣令第九號長野縣漁業取締規則ニ依ル出願申請及届出
 書式並許可漁業標札及漁場標識ノ雛形左ノ通定ス

(定置漁業免許願ニ水面占用(使用)願ヲ併記スル場合様式)

収入 印紙

- 一、漁場ノ位置及區域面積 別紙漁場圖ノ通リ
- 一、漁業ノ種類及名稱 何々漁業

第六編 漁業 第五章 漁業

何々

一、漁獲物ノ種類
 一、占用(使用)料金
 一、漁業ノ時期
 一、漁業權存續期間
 前記ノ通り定置(圍網)漁業並ニ水面占用(使用)免許相受處漁場圖及關係
 書類相添ヘ此處相願候也
 一、年月日

知事宛

附屬書類ノ表示

附屬書類正副二通

(漁業法施行規則第二十四條及明治四十四年三月農商省告示第

二百十三號漁場圍網製心得參照以下同之)

一、何々

一、漁業工作設計書

(注意)

- 1、附屬書類ノ原本ヲ提出スル場合ニ於テハ其本書ヲ添付スヘシ但公正
 謄本ヲ提出スル場合ハ此限ニアラス以下之ニ依リ
- 2、二人以上共同出願ノ場合ニ於テ代表者ノ届出ヲナシタル時ハ其願書
 ニ代表者姓名捺印シ別ニ届出ヲナスシテ願書ニ代表者ヲ記載セント
 スルトキハ左ノ例ニ依ルヘシ

住所

出願者 甲氏

名

三二一

第六編 產業 第五章 漁業

- 水生動物採捕願
- 一、採捕ノ目的 何々
 - 二、採捕水生動物種類 何々
 - 三、採捕ノ場所 何々
 - 四、採捕ノ時期 自何月何日、至何月何日
 - 五、採捕ノ方法 何々
 - 六、許可期間 自何年何月何日、至何年何月何日
- 前記ノ通り採捕ノ御許可相成度別紙事由書(及關係書類相添)此段相願候也
- 年月日
- 住所 氏 名

(注意) 本縣漁業取締規則第二十五條第二十六條及第二十七條參照
第九號様式

- 許可漁業鑑札書換申請書
- 許可書號 第何號
- 許可年月日 大正何年何月何日
- 一、漁業ノ場所ノ變更 何々何々何々ニ 別紙圖面ノ通り
- (一)、漁獲物ノ種類ノ變更何々何々何々ニ
- (二)、漁業ノ時期ノ變更 自何月何日、至何月何日
- 前記ノ通り變更ノ許可相成度鑑札相添此段及申請候也
- 年月日
- 住所 氏 名

(注意) 知事宛
本縣漁業取締規則第十條第二十七條參照
第十二號様式 (紙製)

注意 (鑑札鑑形)

折目

第 號

漁業許可鑑札

大正 年 月 日

長野 縣

横 五 寸

注意

漁業許可者ノ住所氏名 長野縣何那何村 何 某

許可期間 自大正 年 月 日 至大正 年 月 日

漁場 長野縣何那何村 何字何大字 何川通

條件又ハ制限

折目

第六編 產業 第五章 漁業

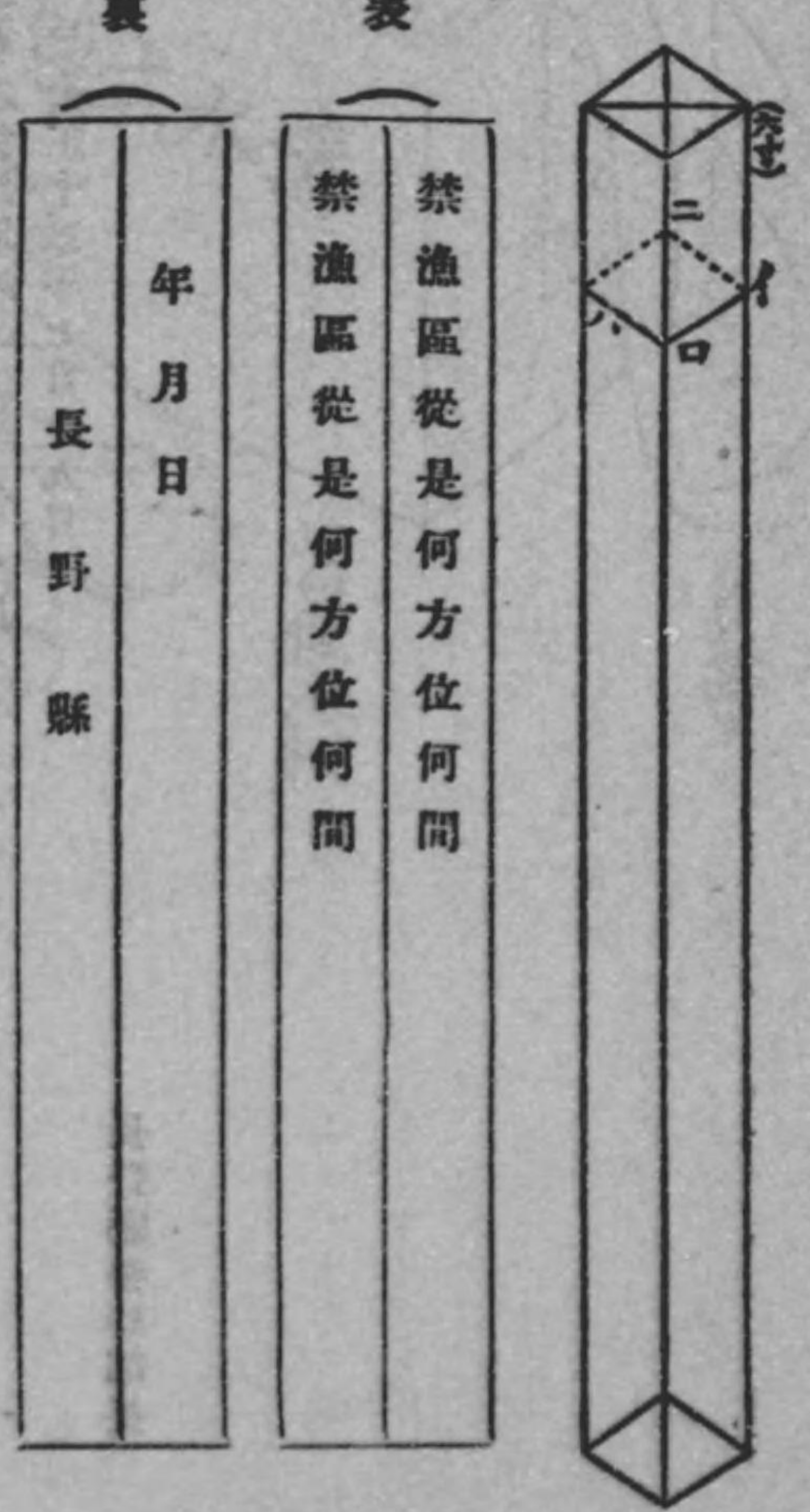
一二四

- (注意) 知事宛
本縣漁業取締規則第十一條及第二十七條參照
第十號様式
- 許可漁業鑑札再下付申請書
- 一、許可書號 第何號
- 一、許可年月日 大正何年何月何日
- 前記漁業鑑札亡失(毀損)致候ニ付再下付相成度(毀損鑑札相添)此段及申請候也
- 年月日
- 住所 氏 名

(注意) 知事宛
本縣漁業取締規則第十一條第二十七條參照
第十一號様式

- 許可漁業鑑札返納屆
- 一、許可書號 第何號
- 二、許可年月日 大正何年何月何日
- 前記何年何月何日漁業鑑札止(何々)爲許可效力満了)
- (鑑札所有者何某死亡)ニ付鑑札及返納候也
- 年月日
- 住所 氏 名

(長野縣)
第十三號様式



- 表
- 1、四寸角以上ニシテ地上又ハ水面ヨリ高五戸以上
 - 2、イ、ロ、ハ、ニ線以上ヲ赤色ニテ塗ル
 - 3、種類ヲ定メタルモノハ何禁漁區トシ漁期ヲ定メタルモノハ禁漁區ノ字ノ下ニ其ノ時期ヲ記載ス

●魚堰漁業ニ關スル義ニ付指示

大正十二年九月二十二日
甲收第一一九八一號

本縣漁業取締規則第五條ニ依リ漁業許可中魚堰漁業ニ關シ今般別紙ノ通内務部長ヨリ關係郡市長其他ニ通牒ヲ發シタル趣ヲ以テ照會越ノ次第モ有之候條各署亦之方取締上萬遺憾ナキヲ期セラルヘ

別紙

商乙發第六九號(大正十二年九月十九日)

内務部長

各工區主幹股

川千漁業ト稱シ土石竹木ヲ以テ河川ヲ締切リ下流ニ貫テ網ヲ立テ魚類ノ
巡歩ヲ遮リ區域内ニ残留セル魚類ヲ捕獲スル漁業ハ雷魚置獲ニ陥リ爲ニ水
産動物ノ繁殖保護上ヨリ見ルモ遺憾ニ不堪候ニ付爾今右漁業ハ長野縣漁業
取締規則第五條第一項第一號ノ魚獲漁業中ニ含まシムルモノトシ本縣知事
ノ許可ヲ要スルモノトシテ取扱可致候條右貴管下當業者其他ニ周知方合
御取計相成度此段及通牒候也

●電氣應用捕魚機ニ關スル件

大正十五年七月十九日
甲收第一一五三〇號

電氣應用捕魚機ニ關スル義ニ付指示

首題ノ件ニ關シ別紙甲號舊赤穂警察分署長稟請ニ對シ乙號ノ通指示シ置候
條取締上参考ニ表セラルヘシ

別紙

甲號

發第二六〇號(大正十五年六月二十六日)

赤穂警察分署長

長野縣警察部長

捕魚機購入使用ニ關スル件稟請

東京市淺草區墨船町二八番地

東京既橋清水蓄電池製作所

右製作ニ係ル別紙添付ノ型錄ノ如キ捕魚機ハ近時縣内各地ニ販賣者アル趣
キ部内赤穂村倉田周太郎ナル者モ同機取次販賣中ナルヲ發見調査スルニ四

〔長野警〕

ホルト乃至十二ホルトノ電流ヲ水中ニ圖示ノ如キ裝置ニテ差入魚族ノ感電
ニヨリ疲憊水上ニ浮ヒ上ルヲ捕獲スルモノニシテ右ハ大正十二年二月本縣
令第九號漁業取締規則第十四條第一項第六號ニ該當シ禁止セラレ居ルモノ
ニシテ使用相成ラサルモノト思料候モ右縣令趣旨ハ如何ナル弱電流ノモノ
ヲモ禁止セラレ居ル趣旨ニ候キ取締上聊カ疑義有之候條至急何分ノ御指示
相成度及稟請候也

伊那警察署長

電氣應用捕魚機ニ關スル義ニ付指示

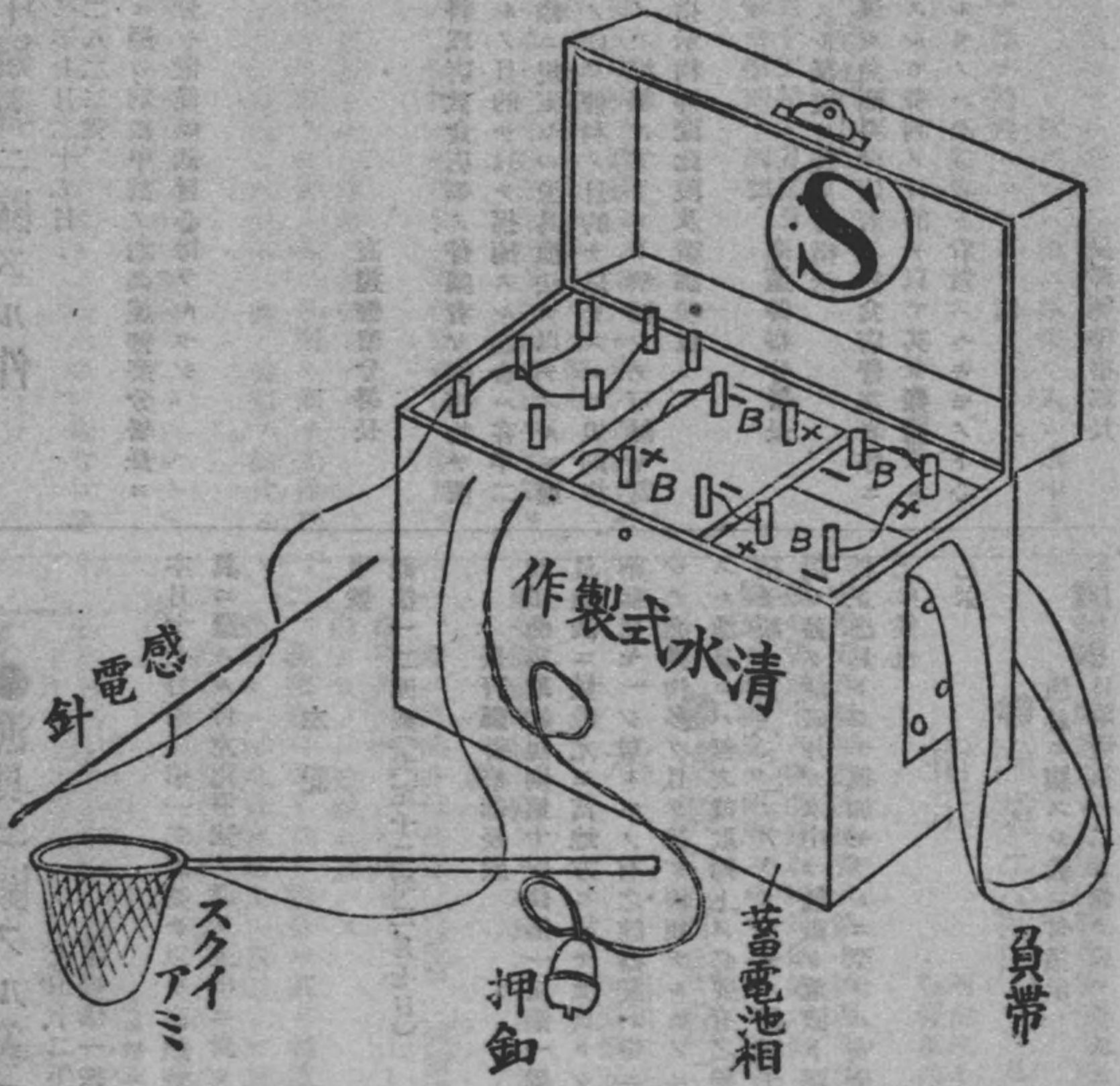
六月二十六日發第二六〇號ヲ以テ稟請ニ係ル標記ノ件ハ如何ナル弱電流ト
雖モ荷電流ヲ使用シ水産動物ニ感電セシメテ採捕セントスルモノナル以
上ハ漁業取締規則第十四條第六號ニ該當シ其ノ使用ヲ禁止セラレアルモノ
ニ有之候條取締上遺算ナキ時期セラルヘシ

長野縣警察部長

大正十五年七月十九日

(別紙)

- 一 感電針ヲ水中ニ入レ押卸ヲ押ス
- トキハ電流水中ニ傳ハリ魚族ニ
- 感電シ浮キ上ルヲスクイアミニ
- テ採捕スルモノナリ



〔長野警〕

法第何條違反	
罰則	
規則	
.....	
合計	

許可番號	第	許可年月日	昭和	年	月	日
漁業者ノ住所氏名	郡	町大字	字	番地		
漁場ノ位置	郡	町大字	字	番地籍		
漁業ノ種類						
及名稱						
漁獲物ノ種類						
漁業ノ時期	自昭和	年	月	日		
續漁業ノ時期	自昭和	年	月	日		
條件						

〔長野警〕

許可番號	第	許可年月日	昭和	年	月	日
漁業者ノ住所氏名	郡	町大字	字	番地		
漁場ノ位置	郡	町大字	字	番地籍		
漁業ノ種類						
及名稱						
漁獲物ノ種類						
漁業ノ時期	自昭和	年	月	日		
續漁業ノ時期	自昭和	年	月	日		
條件						

第六章 取引所、市場

●取引所法改正ニ關シ取締方注意

ノ件 大正三年十月十五日 甲收第一四一五八號

〔長野警〕

先般法律第三十三號ヲ以テ公布相成タル取引所法中改正ノ件ハ九月一日ヨリ施行ノ處右ニ從來ニ於ケル弊害ヲ矯正スルノ目的ヲ以テ必要ナル變更ヲ加ヘラレタルモノモ多シトモ殊ニ仲買人ノ支店出張所ノ禁止(第十一條)定期取引委託ノ代理媒介又ハ取次ノ營業禁止(第十一條)取引所ノ相場ニ依ル賭博ノ取締(第三十二條)等其ノ主要ナル點ニシテ其ノ結果取引所所在地ニ於テハ其ノ所在地在仲買人ノ本店アルノミトナリ又取引所ナキ地ニ於テハ定期取引ノ媒介、又ハ取次等ヲ營業トスルコト能ハサルニ至レリ而シテ現在縣内ニハ取引所ナキモ効力ニ定期取引ノ媒介、取次ヲ爲ス者又ハ取引所ノ相場ニ依リテ差金ノ授受ヲ目的トスル所謂合百薄取、空米、ガス其ノ他之ニ類スル賭博行為ヲ爲ス者アルヤノ開ヘアリ此際等取引所ニ關連シテ賭博致セラレタル輕浮ナル投機心ノ瀰漫及賭博行為ヲ制遏シ以テ弊害ヲ一掃セムトス各署ハ宜ク此ノ意ヲ體シ當ニ周到ナル注意ヲ拂ヒ苟モ是等違反行為ヲ爲スヘシト認メラレル者ニ對シテハ豫メ警告ヲ與ヘ其ノ改善ヲ促シ然モ尙違反行為ニ出ツル者ハ假借ナク刑事訴訟ニ附スル等取締ノ勳行ニ努ムヘク又仲買人カ取引所ニ於テ買付買付受渡ヲ爲サスシテ之ヲ爲シタルト同一又ハ類似ノ計算ヲ以テ委託者ニ決済ヲ爲スモノ所謂存行爲ニ對シテハ主トシテ取引所法第二十五條及取引所法第十七條ヲ以テ之ヲ禁遏スルノ趣旨ナルモ其ノ詐欺取財罪等若ハ横領罪等ヲ構成スル場合ニ於テハ固ヨリ刑事上ノ制裁ヲ科スヘキモノニ有之候故法規改正ノ精神ニ鑑ミ取締上

第六編 産業 第六章 取引所、市場

違算ナキナ期セラルヘシ

●家畜市場法施行細則

明治四十四年四月二十一日 長野縣令第十七號

第一條 家畜市場法施行細則第二條第一項ニ依リ願書又ハ之レニ添付スル書面ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 定期家畜市場及臨時家畜市場ニ於ケル検査所、賣場、屠場、屠場及尿溜ハ雨雪ヲ避ケルニ足ルヘキ設備ヲナスヘシ

但屠場ニ限リ土地ノ狀況ニ依リ特ニ知事ノ認可ヲ得テ本條ニ依ラサルコトヲ得

一箇年ノ開催日數三十日以上ニ達スル定期家畜市場ニ於テハ前項ニ依リノ外尙左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス但土地ノ狀況ニヨリ知事ノ認可ヲ經テ本項ニ依ラサルコトヲ得

一、賣場、屠場、屠場ハ厚板又ハ不滲透質ノ材料(コンクリート、漆喰等)ヲ以テ地盤ヲ作り適當ノ勾配ヲ附スヘシ

二、尿溜ハ覆蓋ヲ設ケ雨雪ヲ防クニ足ル設備ヲナスヘシ

第三條 市場ノ設備落成シタルトキハ知事ニ届出検査ヲ受クヘシ其ノ構造設備不適當ト認ムルトキハ改築若クハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 家畜市場法施行規則第九條ノ獸醫ヲ定メタルトキハ直チニ其ノ住所氏名ヲ知事ニ届出ツヘシ之レヲ變更シタルトキ亦同シ

第五條 家畜市場ノ仲立業者ハ其ノ業務ニ從事中認可證ヲ携帯スヘシ

第六條 家畜市場法施行規則第七條ノ臺帳ハ第一號様式ニ依ルヘシ

第七條 家畜市場開設者ハ市場閉鎖後十日以内ニ第二號様式ニ依リ其ノ成績ヲ知事ニ届出ツヘシ

第八條 家畜市場法第七條第一項但書ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由

本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第九節 本則第三條乃至第五條及第七條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス
附則
本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第一號様式

種別	性	産地	飼養地	毛色特徴	高ハ又ハ重ハ又ハ	生年月日	用途	買取年月日	買取		賣取	
									買取	賣取	買取	賣取
								金料		穀		
								格		換		
								買主		賣主		
								住		住		
								氏名		氏名		

備考 牛馬羊豚毎ニ別製スヘシ
第二號様式
何々市場成績報告

種別	性	頭数	入場	頭数	買取	最高	最低	平均	交換	追金
何々市場成績報告										

〔長野書〕

計	（ホルスタイン種）			（エアシヤ種）			（何々種）		
	計	牝	牡	計	牝	牡	計	牝	牡

附記
市場ノ景況販賣先ノ主ナル府縣其他參考トナルヘキ事項ヲ附記スヘシ
右及報告儀也
何々何村
何々家畜市場開設者
氏名

明治年月日
知事宛
備考
本表ハ牛馬羊豚毎ニ別表トスヘシ
牛馬ハ當才、二才、三才以上ノ各種ニ分チ別製スヘシ

第七章 無盡

●無盡業法施行手續

大正四年十一月二十七日
長野縣令第二十七號

- 第一條 無盡業ノ免許ヲ申請セムトスル者ハ無盡業法及無盡業法施行細則ニ依ルモノノ外營業者發起人又ハ重役ノ身分能力職業納稅額並犯罪及家資分數ニ關スル所轄市町村長ノ證明書ヲ添附スヘシ但シ戶籍簿本添附ノ場合ハ身分證明書ヲ要セス
- 第二條 會社ニ非スシテ新ニ無盡業ヲ營マムトスル者ノ資本金ハ五千圓以上ナルコトヲ要ス
- 第三條 前項ノ資本金ハ他ノ營業事業ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第四條 無盡業ヲ營マムトスル會社ノ金銭ヲ以テスル拂込ミ資本金又ハ出資ニ付テハ之ヲ證明シ得ヘキ證據書類ヲ添附スヘシ會社ニ非スシテ無盡業ヲ營マムトスル者亦同シ
- 第五條 事業方法書ニ記載スヘキ各種無盡ノ豫定收支計算其ノ他左記ニ準シ別製スヘシ
 - (イ) 豫定收支計算ハ別記様式ニ依ルコト
 - (ロ) 無盡業者ノ利益ニ組入ルヘキ金額ノ算出方法ニハ無盡ノ給付金ト掛金トノ差額ニシテ無盡業者ノ利益ニ組入ルヘキ金額及時期並無盡契約解約ノ場合ニ於テ無盡業者ノ收入ト爲ルヘキ金額入札差金中營業者ノ利益トシテ控除スル金額其ノ他手数料等ノ名義ヲ以テ收入スル金額ハ總テ之ヲ記載スルコト
 - (ハ) 入札ノ場合ニ於ケル最低手取金額ハ七割ヲ下ラサルコト

〔長野書〕

●無盡業取締ニ關スル件

大正七年五月二日
保認收第六九號

- (一) 入札差金中營業者ノ利益トシテ其ノ幾分ヲ控除スル場合ハ入札差金ノ二割ヲ超ヘサルコト
 - (二) 營業者ノ利益ニ組入ルル金額ハ總給付高ニ對シ一割五分ヲ超ヘサルコト但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ二割迄組入ルルコトヲ得
 - 第五條 無盡業法並無盡業法施行細則ニ依リ提出スヘキ書類ハ總テ本店所在地ノ郡市役所ヲ經由スヘシ
 - 第六條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 附則
(様式略ス)
- 無盡業ノ取締ニ關シテハ從來各署ニ於テモ充分注意シ遺憾ナキ時期シツ、アリトハ信スルモ近來個人ニシテ名ヲ種々ナル非營業無盡ニ藉リ巧ニ業法ノ支配ヲ施シ居ル者等尠カラサルニ之ニ對スル取締ハ各地區々ニ別レ居ルノ狀況ニシテ此ハ畢竟無盡業法ノ解釋異ナルニ起因スル所尠カラストノ故ニ以テ大藏省銀行局長ヨリ通牒ノ次第モ有之候條業法第一條及第二條ノ營業無盡ノ見解ニ付テハ大要左記ニ依リ判定シ取締上遺漏ナキ時期セラルヘシ
- 追テ營業ニ關セサル無盡取締ニ關シテハ不日規則制定セラルヘキモ其ノ發起ノ事情、發起人等ノ狀態方法ノ如何其ノ他ニ付種々ナル弊害ヲ釀生セサル様充分注意取締ヲ爲シ以テ無盡業法ノ趣旨ヲ貫徹スルニ努メララルヘシ

無業法第一條ハ事ニ無業ナルモノノ定義ヲ示シタルモノニシテ之ヲ純然
タル無業ト類似無業トニ大別スルコトヲ得而シテ更ニ此ノ兩者ノ異點ヲ
見レニ

一、純然タル無業ハ

イ、一定ノ口數ト給付金額トヲ定メ

ロ、定期ニ掛金ヲ拂込マシメ

ハ、一口毎ニ金銭ノ給付ヲ爲シ

ニ、給付ノ方法ヲ抽籤入札ナルカ又抽籤入札ニ類似ノ方法タルコト
ノ要件ヲ具備スルコトヲ要シ

二、類似無業ハ

イ、右ノイ、乃至ニ、ノ類似方法ニ依リ

ロ、金銭又ハ有價證券ノ給付ヲ爲スコト

ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス

無業カ一及ニノ要件ヲ具備シタリトテ直チニ之ヲ以テ業法ノ支配ヲ受ケヘ
キモノト斷スヘキニ非ス此等ノ無業業法ノ支配ヲ受ケルニ至ルハ業トシ
テ業ナル、場合即チ管利ヲ加味スルニ至リテ初メ業法上ノ支配ヲ受ケル
ニ至ルモノナリ以上ハ純然タル無業無業ヲ謂ヘルモ業法ハ業トシテ無業
ノ管理ヲ爲スモ均シク之ヲ無業業ト看做ス旨ヲ規定ス故ニ結局無業業ト
シテ業法上ノ支配ヲ受ケヘキモノトシテ之ニ歸著スヘシ

一、純然タル無業無業

二、管理タル無業無業

然ラハ右兩者ノ無業無業ト然ラサル無業即チ非無業無業トハ如何ナル點ニ
於テ之ヲ區別スヘキモノナリトテ百十ハ一言ニテ掩ヘハ其ノ無業行爲又ハ無
業ヲ管理スル行爲ノ目的ヲ管利ニ在リトテ百十二依リテ定マルモノナリ尙之
ヲ左ニ述ヘムニ

〔長野野〕

〔長野野〕

テ無業ハ成立セラル、カ爲メナリ故ニ各加入者ハ他ノ加入者ノ意思

ニ關係ナク單ニ無業ノ主體トノ契約ニヨリテ加入セハ足ル

右ヲ以テセハ無業無業ト非無業無業トノ區別ハ一見列明ナルカ如キ

ニ力成立セラル、外形ノ狀態ニ於テハ其ノ區別頗ル困難ニシテ殊

ニ個人ノ無業ニ於テ然ルヲ見ル即チ無業無業ト雖其ノ表面ニ於テハ

恰モ非無業無業ナルカ如ク之ヲ裝ヒ其ノ營業者ハ自ら講元幹事又ハ

理事世話人等ト稱シ其ノ成立無業ニ付テモ種々ナル非管利の名稱ヲ

附シ居ルヲ常トス又彼等カ加入者ヲ糾合スル狀態ニ至リテハ更ニ兩

者ノ區別困難ヲ感セサルヲ得ス即チ非無業無業ト雖之カ成立ニ當リ

テハ偶然豫定ノ多數人員方同時ニ相寄リ意思合致スルモノニアラス

必スヤ加入者ノ或者カ初メ之ヲ主唱シ同志ヲ相求メ茲ニ糾合成立ヲ

見ルニ至ルモノナリ故ニ此等ノ狀態ニ至リテハ殆ント無業無業ト何

等ノ差異ヲ認ムルコト能ハサルモノナリ然リト雖前項無業ノ主體及

法律關係並大項ノ管利關係等ヨリ之ヲ觀察スルトキハ其ノ無業無業

ト然ラサルモノトハ自ら明白ナルヲ得ヘシ

次ニ無業ノ目的上ヨリ其ノ無業ナルカ非無業ナルカヲ觀察スルコト

モ亦必要ナルヘシ茲ニ無業ノ目的トハ無業主體ノ目的ヲ意味シ加入

者カ無業ニ加入スル各自ノ目的ヲ謂フニアラス今無業無業ヲ見ルニ

其ノ目的ハ無業ノ主體即チ營業者カ管利ヲ計ル外他ニ其ノ無業ノ目

的ナルモノ存スルコトナシ何トナレハ加入者各自ノ目的如何ニ關係

ナク其ノ無業ノ管利ノ目的ノ下ニ無業主體ノ意思ニ依リ成立スレハ

ナリ反之非無業無業ニアリテハ其ノ無業團體即チ主體ノ目的ハ多種

多様ナリト雖何等ノ管利ヲ加味セサルモノナリ例ヘハ神社佛閣ノ建

立寄進又ハ公益慈善ノ爲メ或ハ相互救済其ノ他各自ノ金銀等加入者

カ共同又ハ同一ノ目的ニヨリ或ハ各自ノ或目的ノ下ニ同志相寄リ其

甲、純然タル無業無業

一、無業ノ主體及法律關係 非無業無業ニアリテハ無業團體其ノモ
カ無業ノ主體ニシテ無業團體ヲ離レテ他ニ無業主體ノ存在ヲ想像ス
ルコト能ハス而シテ之カ權利義務ノ關係ハ其ノ加入者相互間ニ發生
ス左レト無業無業ニアリテハ然ラス無業ノ主體ハ加入者ヲ離レテ他
ニ存在スレ即チ營業者ナリ隨テ其ノ加入者ニヨリテ組成セラレタ
ル所謂無業團體ナルモノハ決シテ無業ノ主體ニアラス而シテ之カ權
利義務モ加入者相互間ニハ何等ノ關係發生スルコトナク唯加入者
各個ト營業者トノ間ニ於テノミ發生スルモノナリ

例ヘハ非無業無業ニ在リテハ或加入者ノ掛金延滞ハ直チニ他ノ加入
者全員ニ直接影響シ他ノ加入者全員ハ其ノ掛金延滞ノ加入者ニ對シ
債務履行ヲ迫リ得ルモ無業無業ニ在リテハ然ラス即チ加入者カ個
令掛金ヲ延滞スルモ夫ハ他ノ加入者ノ取テ關スル所ニアラス唯營業
者カ其ノ掛金延滞者ニ對シ債權ヲ執行シ得ルノミ又契約金給付
ニ付テモ非無業無業ニ在リテハ其ノ給付ヲ受ケタル加入者ハ他ノ加
入者全員ニ對シ債務ヲ負フノ關係ニ立ツニ係ラス無業無業ニ在リテ
ハ其ノ給付ヲ受ケタル加入者ハ他ノ加入者ニ何等ノ關係ナク唯營業
業者ニ對シテノミ債務ヲ負フニ至ルモノナリ斯クノ如キ債權債務ノ
關係狀態ハ之レ無業無業ニ於テ最モ其ノ特徵トスル點ナリトス

二、無業成立ノ狀態及目的 無業成立ノ狀態ヲ見ルニ非無業無業ニア
リテハ加入者相互ノ意思ノ合致ヲ必要トス即チ加入者間ニ於テ無業
ヲ成立セシムルコトノ契約ニヨリテ初メテ其ノ成立ヲ見ルニ至ルカ
爲メナリ反之非無業無業ニアリテハ其ノ成立ニ何等加入者相互ノ意思
ノ合致ヲ必要トセス之レ無業無業ニアリテハ加入者相互ノ契約ニヨ
リテ其ノ無業力成立スルニアラスシテ無業ノ主體即チ營業者ニヨリ

ノ意思ノ合致ニ依リ茲ニ一ノ無業團體成立シタリトスルモ其無業團
體ノ目的ハ事ニ其ノ成立ノ目的ヲ遂行スルニ在リテ其間何等管利ノ
加味スルコトヲ想像シ得サレハナリ

三、管利 無業カ營業無業ナリトテ百十ハ之ヲ管利ノ方面ヨリ見ルコト
最モ必要ナリ若シ非無業無業ナリセハ前項ニ於テ述ヘタルカ如ク其
ノ無業團體即チ主體ノ目的ハ事ニ加入者各自又ハ同一或ハ共同ノ目
的ヲ達セムトスルニ在リテ此ノ目的カ管利ノ觀念ヲ加味スルモノナ
リト解スルコトハ到底不可能ナリ然ルニ無業無業ニアリテハ無業ノ
主體タル營業者ノ目的ハ管利ニアリ營業者カ無業ヲ成立セシメ之ニ
關スル總テノ行爲ハ之ノ目的ヲ達セムトスルニアリ若シ之ニヨリ何
等利益ヲ獲得スル所ナシトモハ彼等ハ無業ヲ成立セシメサルヘシ何
トナレハ其ノ目的ト矛盾スレハナリ而シテ彼等營業者ノ目的タル其
ノ獲得ノ利益ハ表面世話料、謝禮、手當、席料等ト稱シ巧ニ之ヲ管
利ニアラサルカ如ク裝ヒ居レリ隨テ一見其ノ營業無業ナルカ非營業
無業ナルカノ斷定ニ苦シムト雖非無業無業ニ於ケル講元、世話人等
ノ無業ニ關スル行爲ハ無業團體ノ利益ノ爲メニ好意的又ハ義務的意
味ヲ有シ其ノ無業團體ヨリ偶々受ケル所ノ或報酬アリトスルモノ初メ
ヨリ其ノ報酬ヲ獲得セムコトヲ目的トシテ之カ講元又ハ世話人タル
モノニアラス此ノ點ニ於テ兩者ハ自ら異ルモノナリ

要スルニ加入者各自又ハ同一或ハ共同ノ目的ヲ達セムカ爲メ同志相
寄リ加入者相互ノ意思ノ合致ニ依リ成立シタル無業ナリセハ其ノ團
體カ即チ無業ノ主體ニシテ其ノ目的ハ事ニ加入者各自ノ目的ヲ達セム
トスルニ在リテ何等管利觀念ヲ加味セサルニ依リ無業無業ニアラス
ト謂ヒ得ヘシ反之其ノ無業ノ成立カ加入者相互ノ意思ノ合致ニ關係
ナク或者カ茲ニ介在シ其ノ者ニ依リテ無業力成立セラレ之ニヨリ其

ノ者カ或利益ノ獲得ヲ計ル場合ハ之レノ權利觀念ヲ加味シ其ノ者カ無盡ノ主體タルト同時ニ亦營業無盡ニ屬ス...

如何ナル行爲カ管理タル營業無盡トナルヤ之レ無盡業法第二條第二項ニ於テ定義ヲ明カニスル所ナリ...

〔長野警〕

業ナリト看做シ之ヲ取締ルニ至リシ所以ナリ。然ラハ無盡ノ管理トハ如何ナル意義ヲ有ス...

或會社カ無盡ヲ成立セシメ之ニ關スル行爲ノ狀態ト或個人カ無盡ヲ成立セシメ之ニ關スル行爲ノ狀態トハ何等ノ差異アルコトナシ...

〔長野警〕

ニスル一種ノ好意的行爲ニ過キス決シテ其ノ者カ成立無盡ノ主體タル意思ヲ以テスルモノニアラス...

第八章 度量衡

●長野縣度量衡取締規則

第一條 本則ニ於テ營業者ト稱スルハ度量衡器又ハ計量器ノ製作、修葺若...

第六編 産業 第八章 度量衡

ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者ヲ謂ヒ使用者ト稱スルハ取引又ハ證明ノ用ニ供スル度量衡器又ハ計量器ヲ使用シ若ハ所持スル者ヲ謂フ...

第六編 産業 第八章 度量衡

縣外ノ卸賣ニ在リテハ卸賣先ノ道府縣名ヲ備考トシテ記載スヘシ
 様式第五號

自大正 年 月 日 計量器販賣高届
 至大正 年 月 日

種別	卸		賣		小	賣	合	計
	個	價	個	價				
計量器								
秤								
浮								
寒暖計								
體溫計								
檢尺器								
檢位衡								
體積分割								
乳脂肪計								
合計								

右及御届候也
 年月日

營業所
 計量器製作(販賣)者 氏

名印

知事宛

注意
 縣外ノ卸賣ニ在リテハ其重ナル卸賣先ノ道府縣名ヲ備考トシテ記載ス

〔長野縣〕

様式第六號

自大正 年 月 日 度量衡器又ハ計量器修葺高届
 至大正 年 月 日

種別	個	數	修	葺	料
度量衡器					
計量器					
秤					
浮					
寒暖計					
體溫計					
檢尺器					
檢位衡					
體積分割					
乳脂肪計					
合計					

右及報告候也

大正 年 月 日

知事宛

何々修葺者住所氏名印

(注意)

種別欄ハ必要ノモノノミテ記載スヘシ

●長野縣度量衡取締規則施行手續

大正十年九月三十日
 長野縣訓令第三十六號

- 第一條 警察官署長ハ毎年一回以上第二種取締及度量衡ノ計量ノ取締ヲ執行シ且第一種取締執行ノ補助ヲ爲スヘシ
- 第二條 市町村長ハ毎年一回以上第二種取締及度量衡ノ計量ノ取締ヲ爲シ且常ニ違反者ナカラシムル爲メ指導スヘシ
- 第三條 警察官署長ハ毎月一回以上營業者ニ就キ度量衡取締規則第六條第一項ノ取締ヲ檢閲スヘシ
- 第四條 警察官署長ハ前年度ニ於ケル第二種取締ノ狀況ヲ詳記シ様式第一

〔長野縣〕

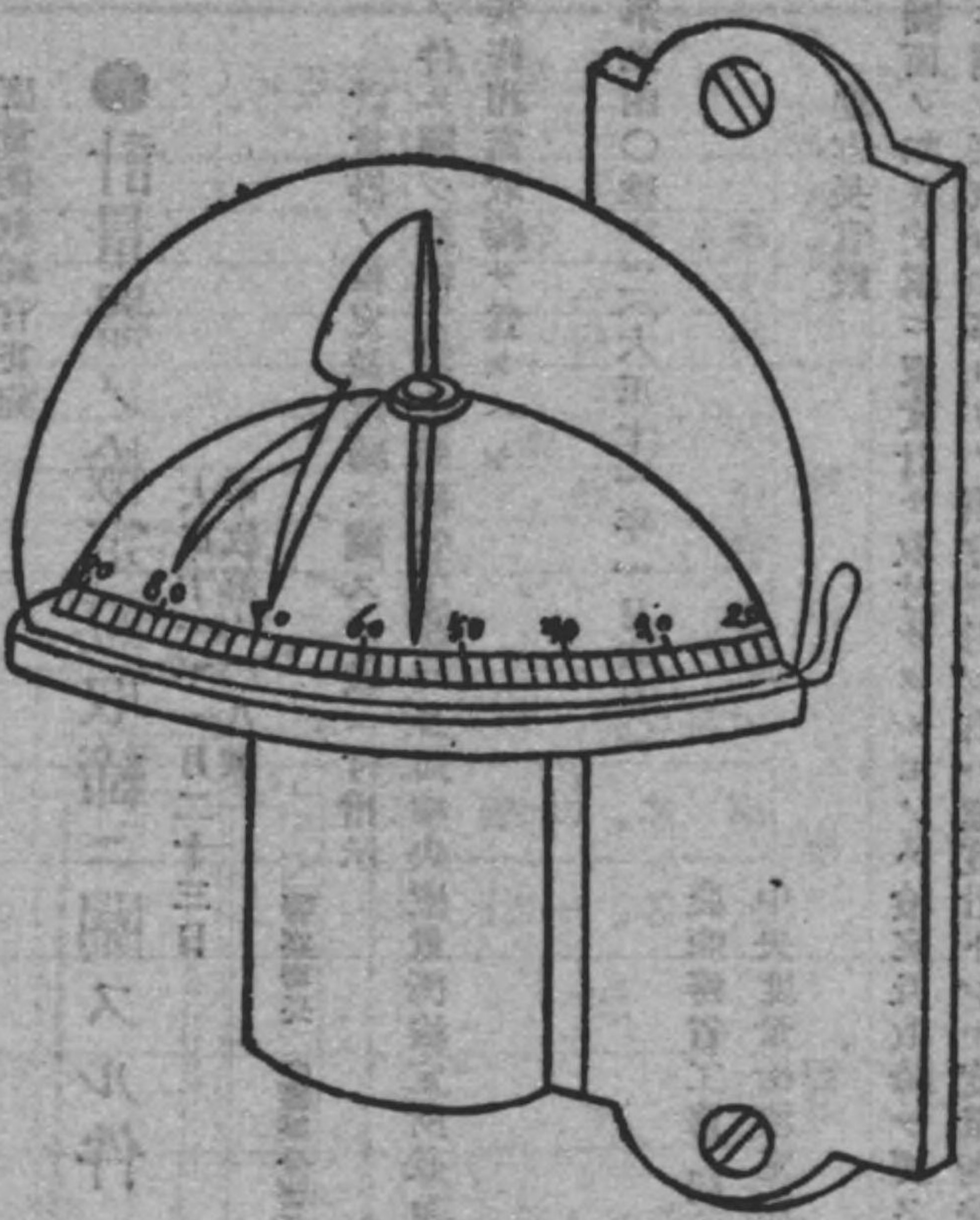
大正何年度度量衡器計量器第二種取締成績一覽表

市町村名	取締執行ノ戸數	取締執行ノ數	檢閲シタル器檢數	不正器物ノ箇數	計量器計	計量器計	計量器計	計量器計	計量器計	違反法條		人員	犯則ニ係ル箇數
										處分	人員		
市										刑法第何條違反	告發		
町										度量衡法第何條違反	告發		
村										度量衡法施行細則第何條違反	告發		
計										度量衡取締規則第何條違反	告發		
何々											告發		
計											告發		

第六編 産業 第八章 度量衡

様式第一號

- 第一條 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
 - 第二條 度量衡法第十四條ノ刑ニ處セラレタルトキ
 - 第三條 破産又ハ家産分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ
 - 第四條 死亡又ハ隱居シタルトキ
- 第二條ニ依ル一覽表ヲ添ヘ毎年四月十五日迄ニ知事ニ報告スヘシ
 指導セシ事實ヲ詳記シ様式第一號ニ依ル一覽表ヲ添ヘ且前年度ニ於ケル度量衡ノ計量ノ取締ノ狀況ヲ様式第二號ニ依リ毎年四月十五日迄ニ知事ニ報告スヘシ
- 第六條 町村長ハ前年度ニ於ケル度量衡ノ計量ノ取締狀況ヲ様式第二號ニ依リ毎年四月十五日迄ニ知事ニ報告スヘシ
- 第七條 警察官署長ハ度量衡法違反ノ事實ニ關シ即決處分ヲナシ又ハ事件送致ヲナシタルトキハ様式第三號ニ依リ前月分ヲ取纏メ毎月十日迄ニ其ノ結果ヲ知事ニ報告スヘシ
- 第八條 市町村長ハ第一種取締ノ告示アリタルトキハ普ク使用者ニ就キ受檢スヘキ器物ノ數ヲ調査シ様式第四號調査器檢數ニ記入シ乙號ハ使用者ニ交付シテ器物ノ提出受檢ヲ促シ甲號ハ當日受付ノ用ニ供スヘシ
- 第九條 市町村長ハ第一種取締檢査場ノ設備ヲ爲シ且檢査執行ニ際シテハ受檢器物ノ受渡其ノ他檢査事務ノ補助ヲナスヘシ
- 第十條 市町村長ハ第一種取締執行當日檢査終了後未提出者アリタルトキハ様式第五號ニ依リ報告書ヲ當該官吏ニ提出スヘシ
- 第十一條 警察官署長ハ其ノ管内ニ主ナル營業所ヲ有スル營業者又ハ其ノ法定代理人ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ運滯ナク知事ニ報告スヘシ



計量器販賣ニ關スル取締方ノ件

大正十一年一月二十三日
甲收第九一七號

計量器ヲ他ノ器具機械ニ附屬セシメテ販賣スル行爲ニ付農商務省工務局長
ヨリ通牒ノ次第モ有之候條官業者ニ示達スルト共ニ取締上通牒ナキテ期セ
ラルヘシ

(長野省)

工局第一三四〇號ノ二(大正十年十月二十九日)

地方長官殿

計量器ヲ他ノ器具機械ニ附屬セシメテ販賣スル行爲ハ販賣ノ業ヲ營ム者ト
シテ取扱フヘキヤ否ヤニ關シ長野縣知事ヨリ照會ニ對シ右ハ汽機又ハ壓
搾機等ニ於ケル計量器又ハ溫度計ノ如ク器具機械ノ使用上必要條クハカウ
ナルカ爲設備シタルモ其ノ器具機械ノ一部ニ外ナラザラハ之ヲ販賣ス
ルモ計量器ノ販賣行爲ト認ムヘキニ非ス然レトモ診察機械一組中ニ温度器
ヲ含ムカ如ク使用者又ハ販賣上便宜ノ爲他ノ商品中ニ組ミ合セ販賣スルカ
如キハ計量器ノ販賣ヲ爲ス者トシテ取扱ハレ可然思料候旨同答致置候條此
段及通牒候也

農商務省工務局長

計量器檢定ニ關シ取締方ノ件

大正十一年二月十七日
甲收第一二〇四號

計量器檢定ニ關シ取締方指示
標記檢定ニ關シ農商務省工務局長ヨリ別紙通牒有之候ニ付取締上通牒ナキ
テ期セラルヘシ

地方長官殿

農商務省工務局長

別紙圖面ノ如ク標記標ニ度ノハ盛リナシタルモノヲ附屬セシメタルモノ
ハ大正六年六月商第二八〇八號通知取扱例(イ)文房具内ニ包含スルモノト
シテ取扱兼支ナキヤニ關シ神奈川縣ヨリ事ヨリ照會ニ對シ右ハ意見ノ通文

(長野省)

房具トシテ取扱可然旨同答致置候條此段及通牒候也



但シ此標記標ヨリ取外ス
ノ標引カトスルニ
即チ此標記標ニ沿ハシ或長
以テ此標記標ヲ移動ス
其ノ箱ニ於ケルニ
ナル標記標ヲ取外スル
ハ

商第八二〇八號(大正六年六月六日)

農商務省商工務局長 岡 實

長野縣知事殿

器具機械類ニ度量衡ノ目盛又ハ表示アルモノノ檢定取締ニ關シテハ明治四十二年工第一二九六號ヲ以テ及通牒候次第モ有之候處其ノ後數年ヲ經過シタル今日ニ於テハ例示ノ種類ヲ追加スル必要モ有之且地方ニ依リ多少取扱上ノ統一ヲ缺キツツアルノ弊モ有之候ニ付今從ハ別記例示ニ依リ取扱相成度依命此段及通牒候也

追テ測量用標竿(「ポール」)及皮ノ目盛ヲ附シタル三角定規ハ從來檢定ヲ受ケシメ居リ候處右ノ前記例示ノ趣旨ニ依リ測量用器具又ハ文房具トシテ取扱ヒテ爲スコトトシ尙此ノ他前記例示ニ依リ檢定ヲ受ケスシテ販賣差支ナキモノニ付從來檢定ヲ與ヘ居候モノモ有之候ハ、併セテ來レ七月一日ヨリ其ノ檢定ヲ廢止セラルヘク此段申添候也

器具機械類ニ度量衡ノ目盛又ハ表示アルモノノ檢定又ハ取締ニ關スル取扱例

- 一、度量衡ノ目盛又ハ表示アル器具機械類ニシテ左ノ各條ノ一ニ該當スルモノハ檢定ヲ受ケスシテ之ヲ販賣シ又ハ免許ヲ受ケサル者力之ヲ製作修繕若ハ販賣スルモ差支ナキモノトシテ取扱ヒテ爲スコト
- (イ) 文房具(筆、文鎮、製圖板、分度量、定規、角度量、計算尺等ノ類)
- (ロ) 理化學器械(「スヘロメートル」「アトウシマシ」三角「コルペン」沈澱器「ピクノメートル」等ノ類)
- (ハ) 醫藥器械(注射器、注入器、骨盤計、蛋白計等ノ類)
- (ニ) 測量用器械(「アリゲート」「ボール」「クワイノメートル」等ノ類)
- (ホ) 工業用器械(「マイクログラフ」「スタンダード」「シリンダ」「ドリカ」「ゲ」

〔長野縣〕

シ」等ノ「ケー」シ」類旋盤カラス切、盤等ノ類) 日用器具(矢立、ナイフ、俵等ノ類)

(ト)(ハ) 商品材料其ノ他品質又ハ特徴等ノ鑑別用器具(「セメント」切斷器材料試驗器、檢位衡檢尺器、稱目檢査器、齒探別器、茶色試驗器等ノ類) 度量衡以外ノ計量用具(晴雨計、壓力計「ダイナモメートル」比重計等ノ類)

一、度量衡ノ計量ハ他ノ用途トノ主關係ノ明ナラサルモノニ付テハ器物ノ實使用範圍又ハ弊害ノ多寡等ヲ斟酌シテ決定スルモノトス(例ハハ測量用箱尺疊尺ニ三角衡ノ目盛ヲ附シタル計算尺等ハ從來ノ通牒檢定取締ヲ爲シ量水標檢潮標等ハ度量衡法ヲ適用セサル取扱ト爲スカ如シ)尙此ノ他取扱上弊害ニ涉ルモノハ其ノ都度現品又ハ圖面ニ用途ノ調査ヲ添ヘ當省ヘ打合セテ爲スコト

計量器檢定取締ニ關スル件

大正十一年二月二十三日 甲辰第一九八三號

農務省長 〔事務分署長〕

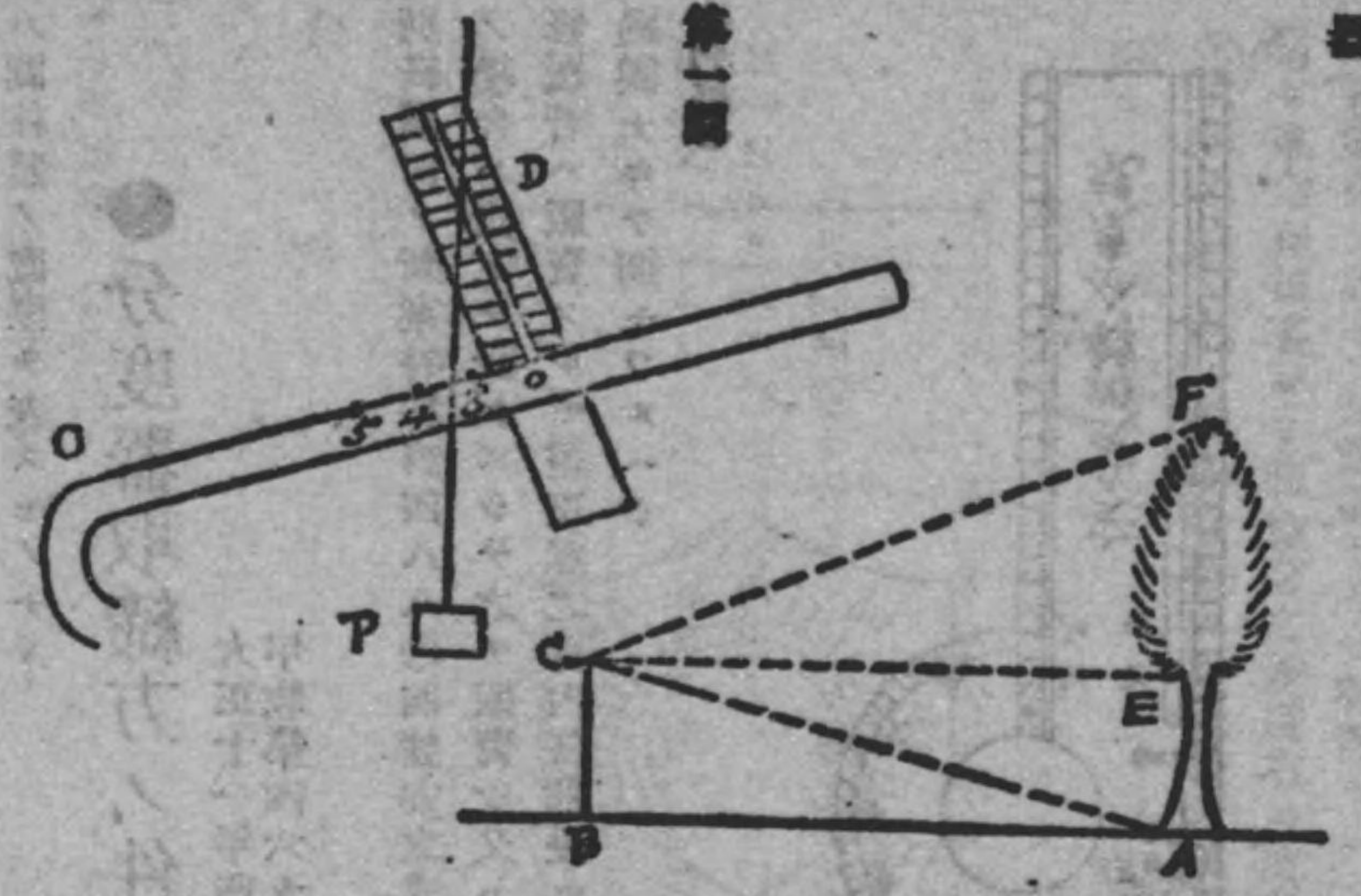
計量器檢定取締ニ關スル儀ニ付指示 標記檢定取締ニ關シ農商務省工務局長ヨリ別紙通牒有之候ニ付取締上邊誤ナキヲ期セラルヘシ (別紙) 工局第五號ノ二(大正十一年二月六日)

農商務省工務局長

地方長官殿 別記圖面ノ如ク度量衡ニ非サル目盛アル測高器付測徑器又ハ其ノ器具ノ側面ニ度ノ目盛又ハ其ノ代リニ點ヲ附シタルモノハ取締ヲ要スヘキモノナルヲ示シ東京府知事ヨリ照會ニ對シ前段ノモノハ勿論後段ノモノト

測高器

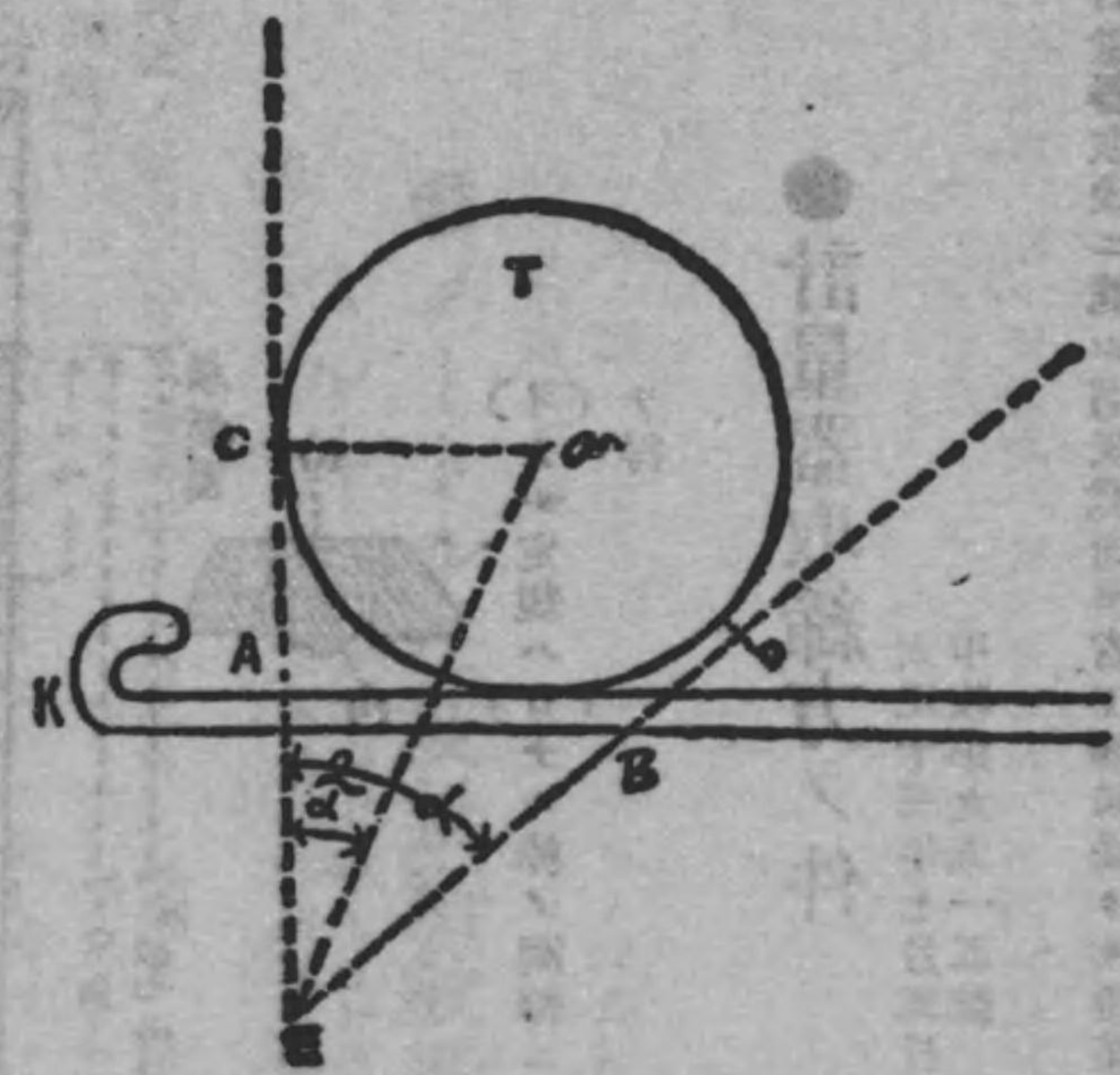
大正六年六月商第八二〇八號通牒別記取扱例第(二)號測量用器械ト認メ取扱フヘキ旨同答致候條此段及通牒候也



本器ハ「ライゼー」氏ノ測高器ト同様ノ目盛ヲナシ其ノ測定ノ方法モ亦同一ナリ 今樹木ノ高サヲ測ラントスルニハ樹木ノ最下端Aヨリ任意ノ處B迄後退シ其ノ距離ヲ測リテ之ヲ二十尺トセバ「ステツキ」ニ直角ニ挿入セラレタル度目杆Cヲ數字二十マテ挿入シ「ステツキ」ノ背面ヲ通シテ第二圖ノ如クC點ヨリ樹木ノ頂點Fヲ視視シツ、度目杆ノ頂點ヨリ重下セラレタル振り子Pノ停止スル所ノ度目ヲ讀ムヘシ 然シテ35ノ度目ナレバBノ高サハ三十五尺ナルコトヲ知ル又同一ノ方法ニテC點ヨリA點ヲ視視シテBノ高サヲ測リ之ヲ前ノ高サニ加ヘAFヲ以テ樹木ノ全體ノ高サトス

〔長野縣〕

測徑器ニテ圓柱體ノ直徑ヲ測ル圖



本器ニテ圓柱體ノ直徑ヲ測定スルニハ右手ヲ以テ測徑器ヲ圓柱體ニ接シ水平ニ保チ右眼(又ハ左眼)ニテ測徑器ノ目盛零點Aヲ通シ圓柱體ヲ切線ニ見透シ此ノ時測徑器ABハ此ノ見透線(即チECニ直角ノ位置ニ置ケテ要ス次ニ同位置ニ於テ右眼(又ハ左眼)ヨリ圓柱體ノ他ノ一方ノ切線ECヲ見透ストキハ此ノ切線

カ測徑器ト交ル點Bハ此ノ圓柱體ノ直徑ヲ表ス兼ニ目盛ヲ次ノ算式ヨリ算出シテ「ステツキ」ノ背面ニ刻ミタルモノナリ

tgθ = EO / R = R + AE

tgθ x = AB / AE

前式ニ於テAEノ長サヲ一定スルトキハ圓柱體ノ種々ノ半徑Rニ對スル角入ヲ算出スルコトヲ得

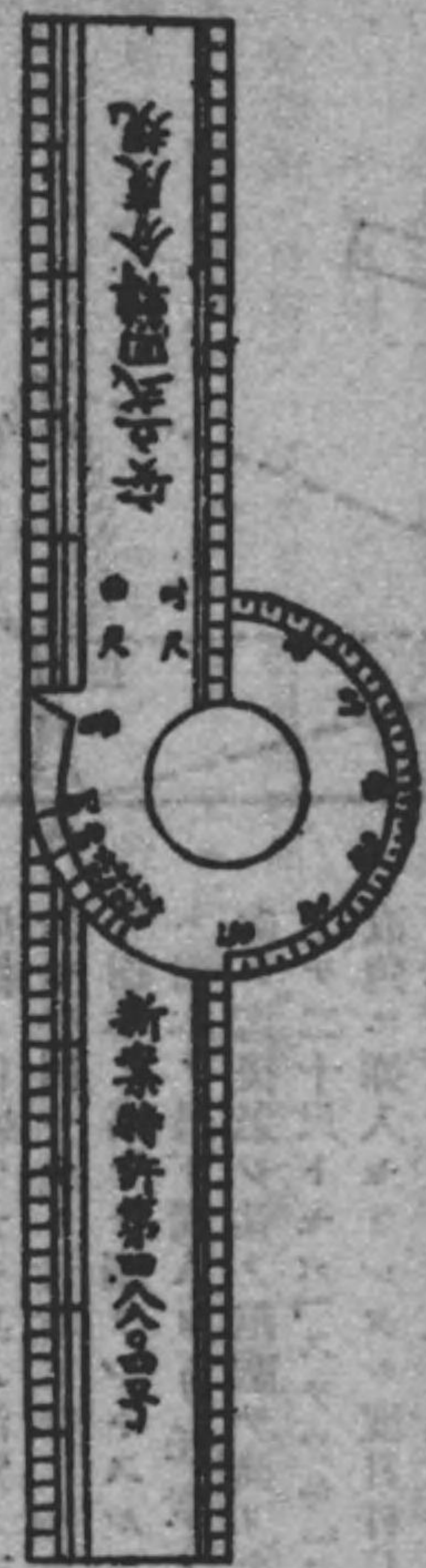
ナルヲ以テA Bノ長サヲ一定スルトキハA Bノ長サヲ知ルコトヲ得A Bノ長サヲ算出シテ之ニ刻ミ其ノ各點ニ半徑ノ二倍ノ數字ヲ刻ムトキハ其數字ハ圓柱體ノ直徑ヲ表スモノナリ

分度器取締方ノ件

大正十一年四月二十六日
甲收第四六九二號

別紙圖面ノ新案特許第四八八〇四號安立式同轉分度器ハ文具トシテ使用ノ場合ハ檢定ヲ受クズシテ之ヲ販賣シ又ハ既許ヲ受ケサル者ガ之ヲ製作、修理若ハ販賣スルモ差支無之旨内務部長ヨリ申越ノ次第モ有之候條取締上退限ナキナリ期セラルヘシ

(別紙)



簿記定規ニ度ノ目盛ヲ附シタルモノ取締方ノ件

大正十一年五月十五日
甲收第五四九三號

(長野警)

別紙圖面ノ如キ簿記定規ニ度ノ目盛ヲ附シタルモノハ檢査ヲ受クズシテ之ヲ販賣シ又ハ既許ヲ受ケサル者ガ之ヲ製作修理若ハ販賣スルモ差支ナキ旨其筋ヨリ通牒有之候條取締上退限ナキナリ期セラルヘシ

(別紙)



(イ) ナル定規ハ(ロ)ナル棒ノ同轉ニ依リ輕易ニ移動スルコトヲ得

計量器取締方ノ件

大正十三年七月五日
甲收第九五一五號

計量器取扱ニ關シ別紙農商務省工務局長ヨリ通牒有之候條此旨心得置カレ

(長野警)

(別紙)

工局第一一五五號(大正十三年六月二十六日)

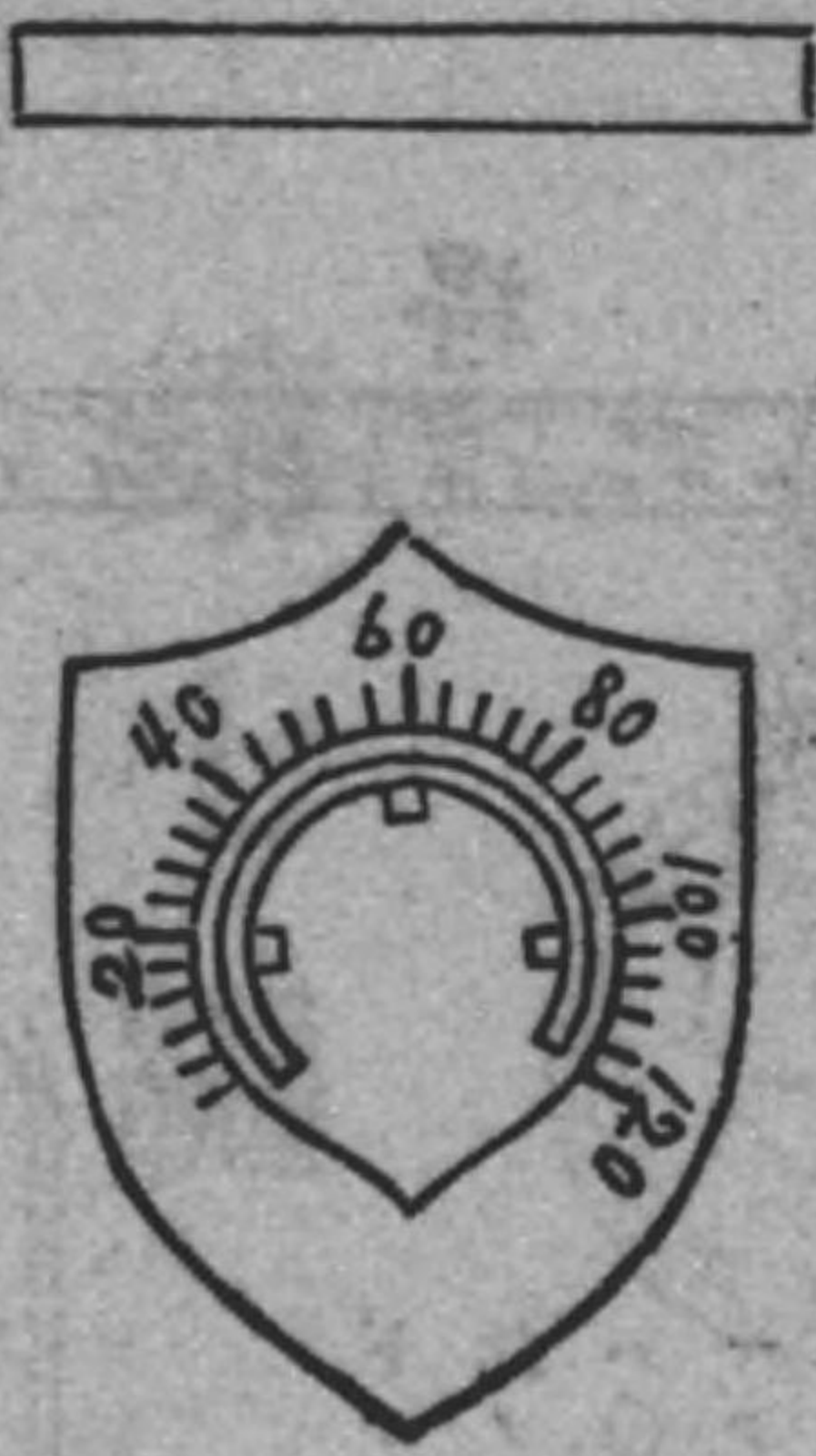
農商務省工務局長

各地方長官殿

左記圖面ノ如キ「裝飾品トシテ製作セル」メトル用溫度計ノ檢定及取締ニ關シ東京府知事ヨリ照會有之候處右ハ度量衡法ノ適用ヲ受ケサルモノトシテ取扱相成可餘旨同答致候ニ付此段及通牒候也

左記

厚サ



實物大

メートル法度量衡教授用具ニ關スル件

大正十四年八月十二日
甲收第一〇四二九號

農務省長 (農務分署長)

別紙ノ通商工省工務局長ヨリ通牒有之候條其ノ旨心得ラルヘシ

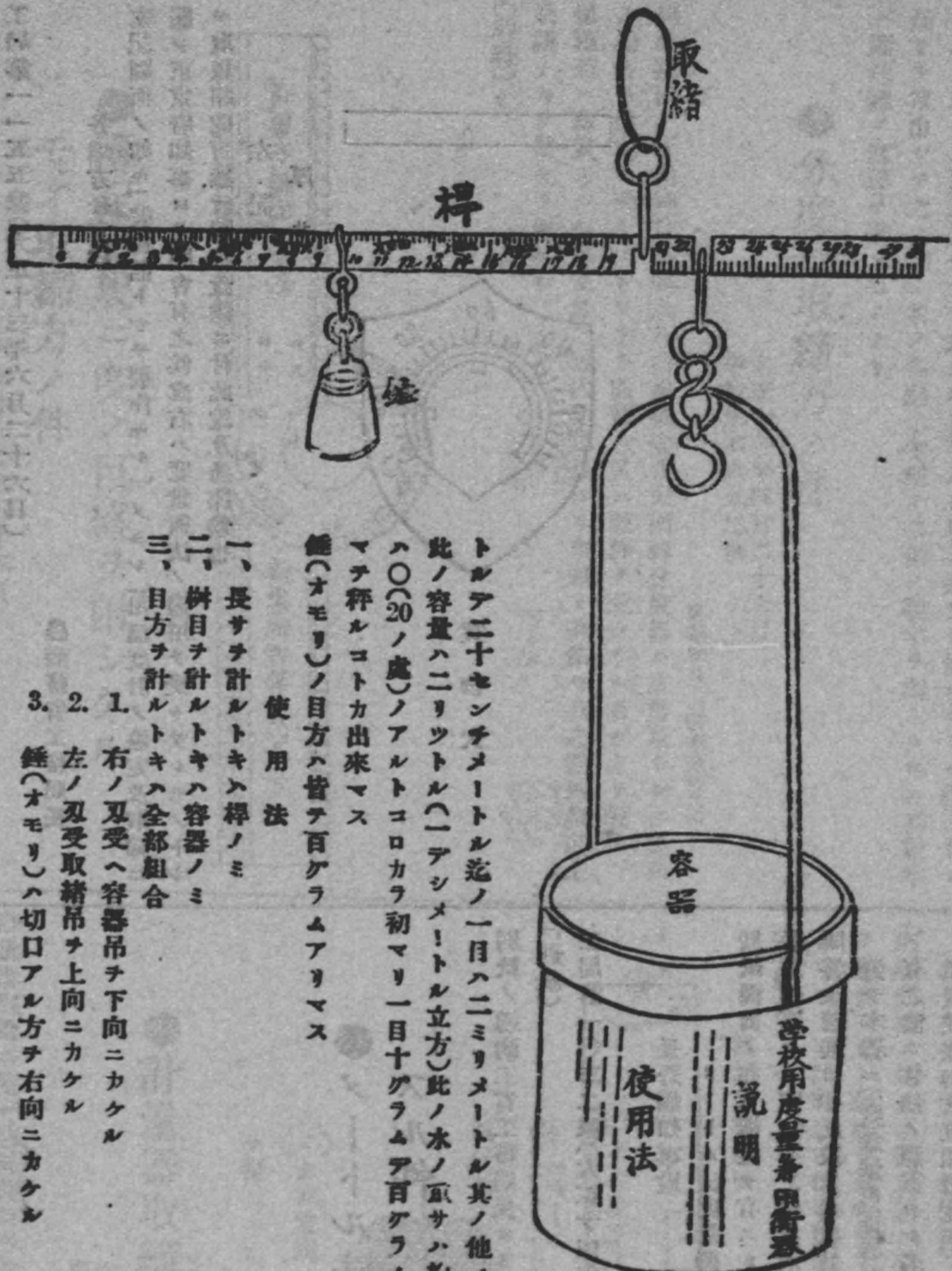
商工省工務局長

長野縣知事殿

メートル法度量衡教授用具ニ關スル件

別紙圖面ノ如キ構造ヲ有スルメートル法度量衡教授用具ノ取扱方ニ關シ青森縣知事ヨリ照會有之候處右ハ度量衡法ノ適用ヲ受ケサルモノト被認候旨同答致候ニ付此段及通牒候也

追テ本器ニ「度量衡用衡器」ナル名稱ヲ付スルニ於テハ誤解ヲ生スル虞モ有之候ニ付他ノ適當ナル名稱ニ變更セシメラレ度旨同縣知事宛併セテ申添置候條御含置相成度候



学校用度量衡
用法

トリア二十センチメートル迄ノ一目ハ二ミリメートル其ノ他ノ一目ハ一ミリメートルトリアアリマス
此ノ容量ハ二リットル(一デシメートル立方)此ノ水ノ重サハ約一キログラム(千グラム)アリマス秤ノ目盛
ハ〇(20ノ處)ノアルトコロカラ初マリ一目十グラムヲ百グラム二百グラムト順次左ノ方ヘ一疋(千グラム)
マテ秤ルコトカ出来マス
錘(オモリ)ノ目方ハ皆テ百グラムアリマス

使用法

- 一、長サヲ計ルトキハ秤ノミ
- 二、斜目ヲ計ルトキハ容器ノミ
- 三、目方ヲ計ルトキハ全部組合
 1. 右ノ刃受ヘ容器吊テ下向ニカケル
 2. 左ノ刃受取締吊テ上向ニカケル
 3. 錘(オモリ)ハ切口アル方ヲ右向ニカケル

〔長野警〕

本器ノ材料ハ本製取締ヲ除キ全部金属ナ
リ尙度ノ目盛ニ於テ二十センチメートル
迄秤ノ一目盛間ノ距離二ミリメートルヲ
其ノ一目盛トナシ二十センチメートル
ヨリ三十センチメートル迄ハ秤ノ目盛ト全
然關係ナク別ニ目盛ヲ施シタルモノトス
又容器ノ外側ニ左ノ通り表記シアリ

説明

秤ニアル目盛ノ總長サハ三十センチメー
ルニアル目盛ノ總長サハ三十センチメー
ルニアル目盛ノ總長サハ三十センチメー
ルニアル目盛ノ總長サハ三十センチメー

第七編 工場

第七編 工場

●工場法施行細則

大正十五年八月二十三日
縣令第五百五號

第一條 工場法ノ適用ヲ受ケサル工場ニシテ其ノ適用ヲ受ケルニ至リタルトキ又ハ新ニ事業ヲ開始シタル工場ニシテ工場法ノ適用ヲ受ケルトキハ工業主ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ工場法ノ適用ヲ受ケルニ至リタル日又ハ事業開始ノ日ヨリ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ

- 一 工場所在地
- 二 工場名
- 三 工業主ノ住所、氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱、主たる事務所ノ所在地及代表者ノ氏名、定款ノ寫）
- 四 業務ノ種類
- 五 年齢別（十二歳以上十四歳未満）及男女別ニ依ル職工數
- 六 工場法施行規則第一條ニ掲ケル原動機ヲ使用スル場合ニ在リテハ其ノ種類、個數及其ノ實馬力
- 七 職工ノ始業及終業ノ時刻並休憩時間及休日ノ配置
- 八 寄宿舎ヲ有スル工場ニ在リテハ其ノ棟數（各棟ニ付平家建、二階建等ノ別、各階ノ室數、疊數及收容定人員）

前項第一號乃至第四號ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ

工場法ノ適用ヲ受ケル工場ニシテ其ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキハ工業主ハ其ノ事由ヲ具シ遅滞ナク之ヲ知事ニ届出ツヘシ

第七編 工場

〔長野管〕

第二條 工場法適用工場ノ工業主ニ異動ヲ生シタルトキハ相續ノ場合ハ戸籍抄本ヲ添付シ讓渡又ハ借受ノ場合ハ當事者ノ連署ヲ以テ十日以内ニ之ヲ知事ニ届出ツヘシ

第三條 工業主第一條第一項第七號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ前ノ知事ニ届出ツヘシ

工場法施行規則第十二條第二項ノ揭示ハ縱五十五機、横八十機以上ノ黒塗板ヲ用ヒ各作業場入口ニ之ヲ爲スヘシ

休憩時間中ハ動力ノ運轉ヲ停止スヘシ

第四條 工業主工場法第四條但書ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスル時ハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ

- 一 工場所在地
- 二 工場名
- 三 業務ノ種類
- 四 延長ヲ必要トスル事由及其ノ期間
- 五 就業時間及休憩時間ノ配置
- 六 職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十一時迄就業セシムトスルトキハ各組ニ屬スル男女別ニ依ル人員及就業時間ノ轉換方法

第五條 職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ各組ノ職工數並各組ニ屬スル十六歳未満ノ者及女子ノ氏名ヲ組別ニ明記シタル帳簿ヲ作業場毎ニ作成シ工場ニ備付クヘシ

第六條 工業主工場法第七條第二項但書ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ

- 一 工場所在地
- 二 工場名
- 三 業務ノ種類

第七編 工場

- 四 一齊ニ休憩時間ヲ設ケルコト能ハサル事由
- 五 組数並各組ノ人員及休憩時間ノ配置
- 第七條 工業主工場法第七條第三項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ
 - 一 工場所在地
 - 二 工場名
 - 三 業務ノ種類
 - 四 年齢別(十六歳未満)及男女別ニ依ル職工數
 - 五 許可ヲ受ケムトスル期間
 - 六 現行ノ就業時間(自午前時分)及延長後ノ就業時間(自午前時分)
 - 七 現行ノ休憩時間ノ配置並増サムトスル休憩時間及其ノ配置
- 前項ノ場合ニ於テハ左ノ要件ヲ具備スヘシ
 - 一 許可ヲ受ケムトスル期間ハ七月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル期間内ニ之ヲ設ケルコト
 - 二 増サムトスル休憩時間ハ正午ヨリ午後三時ニ至ル時間内ニ之ヲ設ケルコト
- 第八條 工業主工場法第八條第二項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ
 - 一 工場所在地
 - 二 工場名
 - 三 業務ノ種類
 - 四 避ケヘカラサル事由
 - 五 就業時間ヲ延長セムトスル場合ハ其ノ延長セムトスル就業時間及延長期間

〔長野書〕

二

- 六 工場法第四條ノ規定ニ拘ラス十六歳以上ノ女子ヲ就業セシメムトスル場合ハ就業時間ノ配置及其ノ期間
- 七 休日ヲ廢止セムトスル場合ハ其ノ廢止セムトスル休日
- 八 休憩時間ノ配置
- 九 使用スヘキ職工ノ年齢別(十六歳未満)及男女別ニ依ル職工數
- 十 賃金割増ニ關スル事項
- 第十一條 工場法施行規則第四條ノ規定ニ依ル届出ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス
- 第十二條 工業主工場法第八條第三項ノ規定ニ依ル就業時間ノ延長ヲササムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ其ノ都度並メ知事ニ届出ツヘシ
 - 一 工場所在地
 - 二 工場名
 - 三 業務ノ種類
 - 四 臨時必要トスル事由
 - 五 臨時延長セムトスル就業時間及延長期間
 - 六 延長時間内ニ於ケル作業ノ種類
 - 七 年齢別(十六歳未満)及男女別ニ依ル職工數
 - 八 賃金割増ニ關スル事項
- 第十三條 工業主工場法第八條第四項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ
 - 一 工場所在地
 - 二 工場名
 - 三 業務ノ種類
 - 四 年齢別(十六歳未満)及男女別ニ依ル職工數
 - 五 季節ニ依ル繁忙ナル事由
 - 六 認可ヲ受ケムトスル一定ノ期間

〔長野書〕

- 七 就業時間ヲ延長セムトスル日ノ配置
- 八 延長セムトスル就業時間
- 九 賃金割増ニ關スル事項
- 第十四條 工業主工場法第十五條ノ規定ニ依ル扶助ニ付其ノ有無ニ拘ラズ様式第一號ニ依リ其ノ月分ヲ翌月二十日迄ニ知事ニ届出ツヘシ
 - 一 工業主ハ工場毎ニ様式第二號ニ依ル扶助簿ヲ備付ク工場法第十五條ノ規定ニ依ル扶助ヲナシタルトキハ其ノ都度所定ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 二 工場法第十五條ノ規定ニ依ラサル扶助ヲナシタル場合又ハ職工健康保險法ノ規定ニ依ル保險給付ヲ受ケタル場合ハ前二項ノ規定ニ準ス
- 第十五條 工業主工場法施行令第七條ノ二ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケムトスルトキハ醫師ノ診断書ヲ添ヘ左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スヘシ
 - 一 職工ノ氏名、年齢及從事セシ業務
 - 二 負傷又ハ疾病ノ月日及其ノ原因
 - 三 疾病又ハ負傷ノ種類程度
 - 四 扶助ノ種類及之ヲ爲ササル事由
 - 五 扶助規則ニ依ル扶助料額
- 第十六條 工業主工場法施行令第十三條第二項但書ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ
 - 一 障害扶助料ノ場合ハ職工ノ住所、氏名、年齢、遺族扶助料ノ場合ハ支給ヲ受ケヘキ者ノ住所、氏名、年齢及職工トノ續柄並職工ノ氏名、年齢
 - 二 扶助料支給ノ原因
 - 三 扶助ノ種類及其ノ金額
 - 四 分割セムトスル回数及支給ノ期日並毎回支給ノ金額
 - 五 分割セムトスル事由

第七編 工場

三

- 第十七條 工業主工場法施行令第九條第二項但書ノ規定ニ依リ産後四週日ヲ経過シタル者ヲシテ就業セシメタルトキハ醫師ノ意見書ヲ添ヘ左ノ事項ヲ具シ三日以内ニ之ヲ知事ニ届出ツヘシ
 - 一 産婦ノ氏名及年齢
 - 二 出産年月日及経過日數
 - 三 就業セシメタル作業ノ種類
- 第十八條 工業主工場法施行令第十條ノ規定ニ依リ死亡ニ付診断又ハ檢案ヲ爲サシムル爲醫師ヲ定メ其ノ履歴書ヲ添ヘ知事ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第十九條 當時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工業主ハ毎年少クトモ夏季一

第七編 工場

四 職工ノ健康診断ヲ行ヒ様式第四號ノ定ムル所ニ依リ毎年十月末日迄ニ其ノ結果ヲ知事ニ届出スル事

第十九條 工業主ハ工場毎ニ様式第五號ノ患者名簿ヲ備付テ工場法施行規則第十四條ニ依リ診断又ハ検査ヲ爲サシメタル結果ヲ記入スル事

第二十條 工業主工場法施行令第二十四條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ區別ニ依リ各該箇ノ事項ヲ具シ知事ニ届出スル事

一 職工ニ貯蓄ヲ爲サシムル場合

イ 貯蓄ヲ爲サシムル職工ノ範圍

ロ 一岡ノ貯蓄金額又ハ其ノ賞金ニ對スル割合

ハ 貯蓄ノ方法

ニ 貯蓄ヲ爲サシムル期間

ホ 貯蓄ヲ必要トスル事由

二 賞金ノ一部ニ代ヘ他ノ給料ヲ爲ス場合ニ在リテハ其ノ事由及職工ノ範圍並給付スル物ノ種類、給付ノ時期及給付ノ見積金額

三 工場法施行令第二十四條第二號ノ場合ニ在リテハ職工ノ責ニ歸スル事由ノ種類

第二十一條 工業主工場法施行令第二十五條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケムトスルトキハ貯蓄金ノ管理ヲ必要トスル事由ヲ具シ左ノ事項ヲ定ムル事

一 貯蓄ヲナス職工ノ範圍

二 管理期間

三 管理ノ方法(貯蓄貯金、銀行預金以外ノ場合ハ利息計算方法)

四 貯蓄金返還ニ關スル事項

五 工場法施行令第二十四條但書ノ規定ニ依リ貯蓄金ニ關スル許可ヲ受ケムルトキハ其ノ内容

〔長野省〕

六 貯蓄金返還様式(貯蓄貯金、銀行預金ノ場合ハ別)

第二十二條 工業主工場法施行令第二十五條ノ規定ニ依リ貯蓄金管理ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ工場毎ニ様式第六號ノ貯蓄金返還簿ヲ備付テ知事ニ届出スル事

工業主職工ニ貯蓄ヲ爲サシムル許可又ハ職工ノ貯蓄金ヲ管理スルノ認可ヲ受ケムルトキハ許可又ハ認可ノ年月日及指令番號ヲ附記シタル貯蓄金管理規則(貯蓄ヲ爲サシムルノ許可ノミヲ受ケムルトキハ其ノ内容)

工場ノ休憩室又ハ食堂内ノ見舞キ場所ニ標示スル事

第二十三條 工業主工場法施行令第二十七條ノ規定ニ依リ貯蓄金返還簿ヲ支給シタル場合ニ於テハ様式第七號ニ依リ其ノ月分ヲ翌月二十日迄知事ニ届出スル事

工場法施行令第二十七條ノ規定ニ依ラザル貯蓄金返還簿ヲ支給シタル場合ニ於テハ

第二十條 工業主工場法施行令第二十七條ノ二ノ規定ニ依リ職工ヲ解雇シタルトキハ解雇ノ日ヨリ五日以内ニ左ノ事項ヲ具シ知事ニ届出スル事

一 職工ノ氏名、年齢及作業ノ種類

二 一日ノ賃金額

三 解雇期間(自 月 日)又ハ解雇手當額

四 解雇ノ事由

五 按察期間(自 月 日)及按察ノ事由

第二十五條 工業主工場法施行令第二十七條ノ三ノ第三項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ届出スル事

一 職工ノ氏名、生年月日並就業セシムル作業ノ種類

二 一日ノ給料額

〔長野省〕

三 許可ヲ受ケムトスル事由

第二十六條 工業主ハ職工ニ給與スル賞金算出ノ方法ヲ定ムル事

前項届出ニカ、賞金算出方法ハ平易ニ記述シ工場ノ休憩室又ハ食堂内ノ見舞キ場所ニ標示スル事

第二十七條 工業主職工ニ對シ賞與金又ハ獎勵金支給方法ヲ定ムルトキハ之ヲ知事ニ届出スル事

前項届出事項ハ工場ノ休憩室又ハ食堂内ノ見舞キ場所ニ標示スル事

第二十八條 工業主ハ工場法施行令第二十二條乃至第二十五條ノ規定ニ依リ賞金ノ支拂及貯蓄金ノ管理ニ關スル事項ヲ明カニスル様式第八號ニ依リ精算書職工工場毎ニ備付テ毎月所定ノ事項ヲ選擇ナク之ヲ記載スル事

前項ノ精算書様式ハ様式所定事項ノ外便宜他ノ事項ヲ附加シ得ル事

第二十九條 工業主ハ扶助規則及就業規則ヲ工場ノ休憩室又ハ食堂内ノ見舞キ場所ニ標示スル事

第三十條 女工ノ雇傭契約期間ハ一年以内トス但シ養成女工ニ就テハ三年以内タルヲ妨ケス

第三十一條 工業主ハ縣内ノ工場法適用工場ニ於ケル雇傭契約期間中ノ職工ヲ募集シ又ハ募集セシムルコトヲ得ス

職工ヲ雇フトスル者又ハ其ノ法定代理人、夫若シ本人ヲ保護スル者ハ二人以上ノ募集主ニ對シ就業期間ノ重複スル雇傭契約ヲナシ又ハ之ニ同意ヲ許可若ハ承諾ヲ與フルコトヲ得ス

第三十二條 職工又ハ職工ヲ雇フ者就業場ニ到着スル爲メ又ハ歸郷ニ要スル一切ノ費用ハ工業主之責負擔スル事

第七編 工場

第三十三條 工業主工場法第十八條第三項ノ規定ニ依リ工場管理人選任ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ工場管理人ヲ雇フ者ノ履歴書及選任契約書等ヲ添ヘ知事ニ届出スル事

第三十四條 左ノ各條ノ一ニ該當スル者前條ノ工場管理人タルコトヲ得ス

一 未成年者、禁治産者又ハ準禁治産者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノニシテ刑ノ執行ヲ受ケルコトナキニ至リタル日ヨリ五年ヲ経過セザル者

三 工場法若ハ工場法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ發スル處分ニ違反シ刑ニ處セラレタル日ヨリ五年ヲ経過セザル者

四 本條第三項ノ規定ニ依リ選任ノ認可ヲ取消サレタル日ヨリ五年ヲ経過セザル者

五 破産又ハ家産分敗ノ宣告ヲ受ケ復權セザル者

六 工場ノ管理ニ付實權ヲ有セスト認ムル者

七 性行又ハ経歴上工場管理人タルニ適セスト認ムル者

前項第二號及第三號ニ該當スル者ニシテ改役ノ情願者ナリト認ムルトキハ特ニ認可ヲ爲スコトアル事

選任ノ認可ヲ受ケムル後ニ於テ工場管理人前項第一號乃至第三號又ハ第五號乃至第七號ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ認可ヲ取消スコトアル事

第三十五條 工業主ハ様式第九號ニ依リ工場監督簿ヲ製シ所轄警察署ノ按印ヲ受ケ工場毎ニ備付テハシ

當該官吏ノ工場監督簿ニ記入シタル事項ハ抹殺又ハ變更スルコトヲ得ス

三

第七編 工場

氏名	年齢	性別	職業	病名	傷類
通動ノ別	男女	男女	男女	男女	男女
作業別	負傷種類	病名又ハ	位置	性質	種類

職工健康診断記載心得

一 診断醫師二人以上ナルトキハ連名記載スヘシ

患者名簿

氏名	年齢	性別	職業	病名	傷類	治療	結果	氏名	生年月日	通動及作業別
検査ノ日	検査ノ日	検査ノ日	検査ノ日	検査ノ日	検査ノ日	検査ノ日	検査ノ日	検査ノ日	検査ノ日	検査ノ日

患者名簿記載心得

一 休業セザル患者ト雖モ記載スヘシ
二 「作業別」欄及「位置」欄ノ記載ハ様式第四號ノ記載心得第三及第四ノ記載心得ニ依ルヘシ

貯蓄金査帳

〔長野書〕

- 二 全員ノ健康診断施行期間ハ一ヶ月以上ニ至ルヘカラス
- 三 「作業別、男女別」欄ニハ例ヘバ製絲工場ニ於テハ製絲女工、掃運女工、選別女工等ニ準シ記載スヘシ
- 四 「位置」欄ニハ自宅、通院又ハ入院治療ノ大要、治療決定日数及傳染病預防ノ方法等ヲ記載スヘシ
- 五 「病傷者」性質種類「欄」ニハ性質ヲ強壯、普通、薄弱ニ種別シ個人別ニ分チテ記載スヘシ

種別	年月日	要	取人	取印	現在高	金利	高	身長	高	収入	高
種別	年月日	要	取人	取印	現在高	金利	高	身長	高	収入	高

貯蓄金査帳記載心得

- 一 貯蓄金査帳ハ職工毎ニ少クトモ用紙一枚ヲ備ヘ其ノ性質ハ「カード」式其ノ他ノ方式ニ依リ工業主ノ便宜ニ從ヒ之ヲ定ムヘシ
- 二 工業主ノ都合ニ依リ本様式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ各欄内ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設ケルコトヲ訪クス各欄ノ位置ハ本様式ニ指テル順序ニ依ルヘシ
- 三 貯蓄金査帳ハ強弱及任意ニ區別シ記載スヘシ

様式第七號

第七編 工場

貯蓄金査帳支給用

日 数	特別教育年末調査記載心得						所在地及工場名
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年	
全 科							
日 数							

- 一 兩學年以上ヲ合シタル學級アル場合ハ學年別ニ記載スヘシ
- 二 「全學年出(缺)席兒童總數」ニハ毎日ノ出(缺)席兒童數ノ全學年累計ヲ記載スヘシ
- 三 「日出(缺)席平均數」ノ欄ニハ授業日數ヲ以テ全學年出(缺)席總數ヲ除シタル數ヲ記載スヘシ
- 四 「年末在籍百ニ對スル日々出席平均數」ノ欄ニハ年末在籍兒童數ヲ以テ日々出席平均數ヲ除シタル數ノ百倍ヲ記載スヘシ
- 五 日々出席平均數以下三欄ハ小數二位迄ヲ算出スヘシ

工場法令取扱手續

大正十五年八月二十三日
訓令第五十九號

第一條 工場法令ニ依ル圖書ヲ受理シタルトキハ所定事項ヲ具備スルヤ否
ヤ其ノ記載事項事實ト相違ナキヤ否ヤ(圖書記載ノ事由等許否決定上主
要ナル事項ニシキテハ特ニ詳稱)ヲ調査シ意見ヲ具シ遲滞ナク進達スヘ
シ

工場法令ニ依ル圖書ヲ受理シタルトキハ所定ノ事項ヲ具備スルヤ否ヤ其
ノ記載事項事實ト相違ナキヤ否ヤヲ調査シ特ニ意見アルモノハ之ヲ具シ
遲滞ナク進達スヘシ

工場法施行細則(以下單ニ細則ト稱ス)第一條第一項ニ依ル圖書ヲ受理シ
タルトキハ前項ニ依ルノ外様式第一號ニ依ル調査表ヲ作成シ當該事項記
入ノ上遲滞ナク上申スヘシ

第一項及第二項ノ圖書ニシテ特ニ急進ヲ要スルモノニ付テハ直チニ其

〔長野管〕

〔長野管〕

ノ概要ヲ電話ニテ豫メ上申スヘシ

第二條 工場法第八條第三項ノ規定ニ依ル臨時必要アル場合トハ左ノ各條
ノ一ニ該當スル場合及之ニ準スヘキ場合ヲ謂フ

- 一 暴風生赫製造工場ニ於テ生絲先賣ノ約定ヲ爲シタル場合ニ前ノ解付
良好ナラサル等ノ事由ニ依リ豫定ノ數量ヲ製造スルコト能ハサルト
キ
- 二 調解良好ニシテ豫定以上ニ生絲工程増進シ爲ニ生絲運送工場ニ於
テ小神等シテ停滯シタルトキ
- 三 動力又ハ機械ノ故障ニ依リ豫定數量ノ製品ヲ製造シ能ハサルトキ

- 第三條 細則第十三條ノ圖書ヲ受理シタルトキハ第一條ニ依ルノ外左ノ各
號ノ事項ヲ詳稱調査スヘシ
- 一 工場主ノ姓名及信用ノ程度
- 二 工場主ノ資産及負債額
- 三 障害扶助料又ハ遺族扶助料ヲ受テヘキ者ノ生活狀態及其ノ分割ニ對
スル意圖

第四條 工場法施行令第十九條ノ規定ニ依リ届出シヘキ扶助規則ハ準則第
一號ヲ標準トシテ作成セシムヘシ

第五條 細則第二十條ニ依ル圖書ヲ受理シタルトキハ第一條ニ依ルノ外特
ニ職工ノ不利益トナルヘキ事項ナキヤ否ヤヲ調査スヘシ

第六條 細則第二十一條ニ依ル圖書ヲ受理シタルトキハ第一條ニ依ルノ外
左ノ各號ノ事項ヲ調査スヘシ

- 一 工場主、工場管理人及保證人ノ姓名、經歷及信用ノ程度
- 二 工場主、工場管理人及保證人ノ資産及負債額
- 三 管理方法ノ確否

細則第二十一條ノ規定ニ依ル貯蓄金管理規程ハ準則第二號ヲ標準トシテ

第七編 工場

一七

作成セシムヘシ

第七條 細則第三十三條ニ依ル圖書ヲ受理シタルトキハ第一條ニ依ルノ外
細則第三十四條各號ノ事項ニ該當ノ有無ヲ調査スヘシ

第八條 工場法施行令第二十七條ノ四ノ規定ニ依リ届出シヘキ就業規則ハ
準則第三號ヲ標準トシテ作成セシムヘシ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ其ノ事實ヲ詳稱ニ記載シ意見ヲ具
シ上申スヘシ

- 一 工場管理人ニシテ細則第三十四條第一項第一號乃至第三號又ハ第五
號乃至第七號ニ該當スルニ至リ其ノ認可ヲ取消スノ要アルトキ
- 二 工場主又ハ工場管理人細則第三十六條各號ノ一ニ該當スルニ至リ其
ノ許可又ハ認可ヲ制限シ又ハ取消スノ要アルトキ
- 三 工場及附属施設物故設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生風紀其ノ他公益ヲ害
スル虞アリト認めタルトキ
- 四 職工多數一時ニ疾病ニ罹リタルトキ
- 五 工場主ト職工トノ間ニ紛議ヲ醸シ又ハ不穩ノ状態アルトキ
- 六 其ノ他監督上特ニ注意ヲ要スヘキ事項

第十條 細則第四十三條乃至第四十五條ノ認可ヲ爲シタルトキハ工場所在
地ノ市町村長ニ之ヲ通知ス

第十一條 細則第四十六條及第四十七條第三項ノ規定ニ依ル圖書ヲ受理
シタルトキハ一通ハ之ヲ工場所在地市町村長ニ送附スヘシ

第十二條 警察署ニ様式第二號ニ依ル工場監視ヲ備付テ所定事項ヲ記載シ
常ニ整理スヘシ

第十三條 工場法令ニ依リ提出シタル圖書類中副本ハ其ノ署ニ保管スヘ
シ但シ細則第四十六條及第四十七條第三項ノ圖書ハ此ノ限りニ非ス

工場法施行規則第二十五條及第二十六條ノ圖書ハ正副二通共通進達スヘシ

第七編 工場

第十四條 本規程施行ノ際従前ノ貯蓄金管理規程ニ依リ管理スル貯蓄金ハ... 第十五條 本規程ニ依リ之ヲ管理スルモノトス... 第十六條 貯蓄金ノ利率ハ月々五分トス... 第十七條 貯蓄金ニ預入ノ月々利息ノ前月迄ノ利子ヲ附シ毎年六月及十二月ノ二期ニ元加配入スルモノトス... 第十八條 貯蓄者ハ通帳印鑑ニ自己ノ印鑑ヲ捺シ貯蓄金ノ拂戻ヲ受ケ...

〔長野書〕

第十條 貯蓄金ノ拂戻ハ工業主、工場管理人及ハ保證人ニ對シ請求ヲ得ルモノトス... 第十一條 工業主ハ貯蓄者ノ解雇若ハ死亡ノ場合又ハ左ノ各條ノ一ニ該當シ貯蓄者ノ請求アリタル場合ハ返還ナク貯蓄金ヲ返還スルモノトス... 第十二條 本規程ニ依リ管理スル貯蓄金ニ關スル一切ノ責任ハ左記署名者ニ於テ負擔スルモノトス... 第十三條 本規程ハ地方長官ノ認可ヲ得ヨリ之ヲ施行ス

〔長野書〕

第十四條 本規程施行ノ際従前ノ貯蓄金管理規程ニ依リ管理スル貯蓄金ハ... 第十五條 本規程ニ依リ之ヲ管理スルモノトス... 第十六條 貯蓄金ノ利率ハ月々五分トス... 第十七條 貯蓄金ニ預入ノ月々利息ノ前月迄ノ利子ヲ附シ毎年六月及十二月ノ二期ニ元加配入スルモノトス... 第十八條 貯蓄者ハ通帳印鑑ニ自己ノ印鑑ヲ捺シ貯蓄金ノ拂戻ヲ受ケ...

第七編 工場

第十條 貯蓄金ノ拂戻ハ工業主、工場管理人及ハ保證人ニ對シ請求ヲ得ルモノトス... 第十一條 工業主ハ貯蓄者ノ解雇若ハ死亡ノ場合又ハ左ノ各條ノ一ニ該當シ貯蓄者ノ請求アリタル場合ハ返還ナク貯蓄金ヲ返還スルモノトス... 第十二條 本規程ニ依リ管理スル貯蓄金ニ關スル一切ノ責任ハ左記署名者ニ於テ負擔スルモノトス... 第十三條 本規程ハ地方長官ノ認可ヲ得ヨリ之ヲ施行ス

〔長野書〕

署名者ノ姓名、職名、住所、捺印等ノ欄

署名者ノ姓名、職名、住所、捺印等ノ欄

第七編 工場

第十條 貯蓄金ノ拂戻ハ工業主、工場管理人又ハ保人ニ對シテ請求シ得ルモノトス
第十一條 工業主ハ貯蓄者ノ解雇若ハ死亡ノ場合又ハ貯蓄者ノ請求アリタル場合ハ返還ナク貯蓄金ヲ返還スルモノトス
第十二條 本規程ニヨリ管理スル貯蓄金ニ關スル一切ノ責任ハ左記署名者ニ於テ負擔スルモノトス

Table with columns for location (e.g., 市, 町, 村), name (e.g., 工業主, 工場管理人), and signature (e.g., 氏, 氏, 氏).

第十三條 本規程ハ地方長官ノ認可ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第十四條 本規程施行ノ際從前ノ貯蓄金管理規程ニ依リ管理スル貯蓄金ハ本規程ニ依リ管理スルモノトス
第十五條 本規程ニ依リ管理スル貯蓄金ハ、本規程ニ規定スル用途ニ限リ之ヲ用スルモノトス

〔長野省〕

二編

第三條 本規程改正ニ關スルモノハ、本規程ニ規定スル職工ノ意見ヲ聴取スルニ依リ之ヲ決定スルモノトス
第四條 職工ノ扶助規則、貯蓄金管理規則及賞與規則ハ別ニ之ヲ定ム
第五條 職工ノ福利ニ關スル事項ハ本規程ニ規定スルモノトス

第六條 職工ノ資格ヲ定ムルコト左ノ如シ
一、〇〇〇 二、〇〇〇 三、〇〇〇
第七條 職工ノ任用、昇進又ハ本職工、養成(見習)工ノ如シ
第八條 職工ノ解雇及解雇
第九條 職工ノ解雇及解雇
第十條 天災事變ニ基キ事業ノ繼續不可能トナリタル場合ノ外雇傭契約期間中ノ職工ヲ解雇スルコトナシ雇傭契約期間ノ定ナキ職工ヲ解雇セムトス

〔長野省〕

第十一條 前條第一項及第三項ノ規定ニ拘ラス左ノ各條ノ一ニ該當スル場合ハ少クトモ十四日前ニ報告ヲ爲スカ又ハ賃金十四日分以上ノ手當ヲ支給シ之ヲ解雇スルコトアルヘシ
第十二條 職工ノ秩序又ハ風紀ヲ紊シ改悛ノ見込ナキトキ
第十三條 職工ノ秩序又ハ風紀ヲ紊シ改悛ノ見込ナキトキ
第十四條 職工ノ秩序又ハ風紀ヲ紊シ改悛ノ見込ナキトキ
第十五條 就業時間、休暇及休日
第十六條 就業時間ハ午前五時ヨリ午後七時迄ノ間ニ於テ十一時間以内トス

第七編 工場

第十七條 職工ニ二組以上ニ分チ交替就業制ヲ執ルモノハ其ノ旨ヲ記載スルコト
第十八條 休日ハ左ノ如ク但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ變更スルコトアルヘシ
第十九條 大祭日
一 毎月一日、十五日
二 盆休(日數ハ毎年之ヲ定ム)
三 年末、年始(日數ハ毎年之ヲ定ム)
第二十條 食費ハ左ノ時間ニ食費ニ於テ之ヲ爲スモノトス
第二十一條 賃金及貯蓄金
第二十二條 賃金ハ日給及出来高給ノ二種トシ最低賃金ハ就業日數ニ應ジテ一日何十錢以上ニ定ム(見習)職工一日何十錢以上トス
第二十三條 賃金ハ左ノ方法ニヨリ之ヲ算出スルモノトス
(甲) 日給ノ場合(平均日給額ヲ定メ賃金ノ算出ヲナスモノトシ含ム)

〔長野省〕

第三十條 本規則ニ違反シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スルコトヲ得...

第三十一條 本規則ニ違反シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スルコトヲ得...

第三十二條 本規則ニ違反シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スルコトヲ得...

第三十三條 本規則ニ違反シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スルコトヲ得...

第三十四條 本規則ニ違反シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スルコトヲ得...

第三十五條 本規則ニ違反シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スルコトヲ得...

第三十六條 本規則ニ違反シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スルコトヲ得...

第三十七條 本規則ニ違反シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スルコトヲ得...

第三十八條 本規則ニ違反シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スルコトヲ得...

第三十九條 本規則ニ違反シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スルコトヲ得...

第四十條 本規則ニ違反シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スルコトヲ得...

工場及附屬建設物取締規則第六條及第二十四條ノ運用ニ關スル件

大正六年二月八日 甲工場第七號

〔長野警〕

大正五年長野縣令第二十五號工場及附屬建設物取締規則第六條第二十四條ノ解釋ニ關シ...

第一 寄附人員ノ數ヲ增加セザル場合ニ於テ...

第二 寄附人員ノ數ヲ增加セザル場合ニ於テ...

第三 寄附人員ノ數ヲ增加セザル場合ニ於テ...

第四 寄附人員ノ數ヲ增加セザル場合ニ於テ...

第五 寄附人員ノ數ヲ增加セザル場合ニ於テ...

第六 寄附人員ノ數ヲ增加セザル場合ニ於テ...

第七 寄附人員ノ數ヲ增加セザル場合ニ於テ...

第八 寄附人員ノ數ヲ增加セザル場合ニ於テ...

第九 寄附人員ノ數ヲ增加セザル場合ニ於テ...

工場建設取締規則

大正六年十二月二十六日 縣令第四十二號

第一 左ノ各條ノ一ニ該當スル工場ヲ建設セムトスルモノハ本規則ニ依リ...

第二 有テタル瓦斯ヲ發散スル工場...

第三 揚發シ難火性又ハ引火性ノ原料ヲ製造スル工場...

第四 前各條ノ外危險ヲ生ズル虞アル工場...

第五 前項ニ該當セザル既設工場ヲ前項ニ該當スル工場ニ變更セムトスル者又...

第六 前項ニ該當スル工場ノ移轉、増築、改築其ノ他機械換ヲ爲サントスル...

第七 第一項第三號ノ原料ヲ使用スル工場ニハ其ノ狀況ニ依リ本規則ノ全部又ハ...

第八 前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各條ノ事項ヲ具シ知事ニ提出...

第九 本條、住所、生年月日及氏名又ハ名稱...

第十 工場ノ位置及其業務ノ種類...

第十一 工場敷地ノ外廓ヨリ周圍百五十間ニ至ル迄ノ地形及建設物ノ狀態ヲ...

第十二 表示セル圖(縮尺六百分ノ一)...

第十三 危險防止設備ノ詳細ナル説明...

第十四 前項第三號ノ圖面ニハ各建設物ノ種類及其ノ坪數、平家建二階建等ノ別...

第十五 該各建設物相互ノ距離ヲ記入シ第四條ノ圖面ニハ敷地ノ外廓ト敷地外ノ...

職工寄宿舎建築規則

大正五年十二月二十八日 縣令第三十三號

第一 寄附令違反ノ現在地建設(室内廊下ヲ除ク)及大正五年十一月一日ニ...

第二 寄附令違反ノ他機械換ヲ爲サントスル部分ノ廢棄ノ現在地建設...

第三 敷地内ノ建設物ノ指定配置圖(建設物相互間ノ距離ヲ記入スルコト...

第四 増築、改築其ノ他機械換ヲ爲サントスル寄附令ノ違反各階下面間...

第五 各居室内ノ板敷、壁紙ノ區別學數ハ廢棄ノ所積及敷テ明確ニ記入スル...

第六 廊下ヲ要スル及備置圖...

第七編 工場

第七編 工場

第七編 工場

第七編 工場

第七編 工場

第七編 工場

第七編 工場

主要ナル建設物トノ距離ヲ記入スヘシ

第三條 第一條ノ工場左ノ各條ノ一ニ該當スルトキハ工業主又ハ其ノ相續人ハ選擇ナク之ヲ知事ニ届出サヘシ

一、工業主死亡シ又ハ其ノ本籍、氏名若ハ名稱ノ變更アリタルトキ

二、工場ヲ廢止シ、第一條ニ該當セザル工場ニ變更シ又ハ他人ニ讓渡シタルトキ

前項第二條後段ノ場合ニ在リテハ前項ノ外其ノ讓受人ヨリ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 第一條ノ工場ハ學校ノ敷地ヨリ百二十間以上、煤煙若ハ塵埃ヲ發散スル工場ハ六十間以上ノ距離ヲ有スルニ非サルハ之ヲ建設スルコトヲ得ス

但シ特別ノ設備ヲ爲シ又ハ土地ノ状況若ハ事業ノ性質ニ依リ保安又ハ衛生上支障ナシト認ムルトキハ制限距離内ト雖許可スルコトアルヘシ

前項但書ニ依リ許可ノ届出ニ付テハ第二條ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ制限ハ必要ナル場合ニ在リテハ之ヲ延長シ又ハ學校以外ノ建設物若ハ場所トノ距離ニ付テハ適用スルコトアルヘシ

第五條 本則ノ許可ヲ受ケタル建設物ニシテ工事完成シタルトキハ之ヲ知事ニ届出シ其ノ使用用途ノ當該官定又ハ所轄警察官署ノ検査ヲ受ケタルヲ要ス

第六條 本則ニ違反シタルトキハ工場ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止シ又ハ其ノ改築若ハ移轉ヲ命ズルコトアルヘシ

第七條 本則ニ依リ届出又ハ届出ノ所轄警察官署ヲ經由スルハ其ノ費用ハ工業主ノ負擔ニ付ス

第八條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九條 明治三十四年縣令第五十二號ハ之ヲ廢止ス

〔長野警〕

〔長野警〕

警察及衛生ノ行政ハ工場監督ノ行政ト最モ密接ナル關係アルヲ以テ警察官定額ヲ入室員及衛生官定員又ハ定員ハ工場監督官定員ノ間ニ於テ職務上當ニ事務ヲ保テ相互ノ間ニ於テ職務上當ニ職務ヲ保テ相互ノ間ニ於テ必要ノ共同事務スヘキ職ニ付依命登記事項及通牒候也

一、警察官定、衛生官定及定員ヲシテ工場法規ニ通曉セシムルヲ注意スルコト

二、工場法ノ違反ヲ受ケヘキ工場ノ存否、幼年工若クハ女工ノ使用、就業、休日、休憩ニ關スル工場法ノ規定力遵守セラル、十否十二ニ關シテハ各警察署長又ハ分署長ニ於テ管内諸工場ニ對シ常ニ注意ヲ充テス若シ違反者ヲ生スル虞アルトキハ選擇ナク之ヲ本廳ニ報告シ其ノ指揮ヲ俟テ必要ノ處置ヲナスコト

三、前記以外ノ事項ト雖モ其ノ違反者ヲ生スル虞アル時ハ前項ニ準シ之ヲ報告スルコト

四、工場法規ニ關スル認可等ノ申請書類ニシテ警察署又ハ分署ヲ經由スヘキ旨ヲ定メタル場合ニ於テ副本ノ爲工務ト交渉スルノ必要ヲ生スルコトアルモ專門ノ知識ヲ要スル事項ニ涉ルトキハ成ルヘク之ヲ避ケルコト

五、警察署長又ハ分署長ハ工場法ノ施行ニ關シ特ニ委任セラレタル事項ヲ處理スル場合ニ於テモ專門ノ知識ヲ要スル事項ニ涉ルトキハ本廳ノ指揮ヲ請フヘキコト

六、前項ノ外警察官定、衛生官定及定員ハ工場法規ノ施行ニ關シ不斷ノ注意ヲ爲スヘキハ勿論ノ義ナルモ專門ノ知識ヲ要スル事項ニ付テハ當該工場監督官定ニ之ヲ移スルコトヲ本則トスルコト尤モ輕微ナル事件ハ之ヲ協議ノ上適宜處理スルコトヲ妨クサルコト

第七條 工場

第十條 本則施行以前ニ於テ建設シタル工場ニシテ第四條ノ規定ニ適合セ

ス且保安又ハ衛生上支障アリト認ムルトキハ其ノ移轉又ハ必要ナル施設ヲ命ズルコトアルヘシ

●工場法施行事務ニ關スル義ニ付指示

大正五年九月二十七日
甲工務第五一七號

工場法施行ニ付警察行政ト工場監督行政トノ關係ニ就テハ當ニ職務上職務ヲ相互ノ間ニ於テ必要ナル共同事務ヲ爲シ以テ執行上遺憾ナキヲ期スヘキ旨ニ指示スル所アリシカ今般更ニ農商省商工局長、内務省警保局長及同省生局長ヨリ左記ノ通牒ヲ次第モ有之該等ノ將來之ニ準據シ工場法規施行上一層ノ完全ヲ期セラレヘシ

追テ別紙通牒中國ノ場合ニ專門ノ知識ヲ要スル事項ニ涉ル場合ニ限リ可成工務主ト交渉ヲ具合スヘキ點ヲ示シテ之ヲ注意セシメ他ノ事項ニ對スル必要ナル交渉ヲ繼續スルカ加キ事ナキヲ要ス向又ハ八ノ場合ハ本署ニ係ル場合ノ外作業場ノ設備ヲ可成具合スヘキ點ヲ示シテ之ヲ注意セシメ他ノ附屬設備等ニ關スル監督ヲ制限シタルモノニ非サルヲ以テ之等ノ場所ニハ時々監督ヲシテ工場法規施行ノ狀態ヲ監視スヘキ點ト心得ヘシ

左記

第一一九三二號大正五年九月二十二日

農商務省商工局長
内務省警保局長
内務省衛生局長

●工場法ノ規定ニ依ル戸籍證明ニ關スル件

〔長野警〕

七、前數項ニ掲グルモノ、外警察官定衛生官定及定員ト工場監督官定トハ職務上不斷ノ連絡ヲ保ツコトニ留意シ職務ノ進行上相互間ニ於テ必要ナル助力ヲ爲スヘキコト

八、警察官定衛生官定及定員ハ其ノ本務ニ依ル場合ノ外單ニ工場法規ノ施行ニ關スル監督ノ爲メニハ可成作業場ニハ隨檢ヲ爲ササルコト

九、警察官定又ハ衛生官定ニシテ工場監督官定ト兼スルモノハ工場法第十四條ノ規定ヲ遵守シ必要アル場合ニ限リ之ヲ示スコト

大正七年三月十二日
商第八三六五號商工局長通牒

工場法第十六條ノ規定ニ依ル戸籍證明方ニ關シ市町村長ニ於テ左記ノ通取扱フコトニ司法省ト打合濟ニ候條此段及通牒候也

一、申請ハ口頭又ハ書面(往復書封書ニ含ム)ニ差支ナキコト

二、申請ニ不備又ハ誤謬アル場合ニハ便宜訂正補充シ其ノ訂正補充シタル事項ヲ證明スルコト

三、同條ニ依リ證明ヲ求ムル者ヲシテ強テ其ノ資格ヲ證明セシメサルコト

●工場法及之ニ基ク諸規則違反報告方ノ義ニ付指示

大正七年五月二十一日
甲工務第五一六號

三三

三三

工場監督上必要ニ付爾後工場法及工場法ニ基テ諸規則(工場及附屬建設物
採取規則)違反事件アリタルトキハ其ノ違反事實ノ概要ヲ結果ヲ毎月取
録シ翌月十日迄ニ報告セラルヘシ

職工負傷疾病月報記載方法ニ關スル件

大正七年九月三十日
甲工務部第四三號

大正七年十月以後提出ノ職工負傷疾病月報ニハ各職工ニツキ其寄宿スルモ
ノナリ又ハ通勤スルモノナリヲ記入セシメ申進セラルヘシ

工場法施行事務取扱主任者報告方ノ義ニ付指示

大正八年六月二日
甲工務部第四三號

其ノ職ニ於ケル工場法施行事務取扱主任者官氏名至急報告セラルヘシ
今更ニ都道府県ナク報告セラルヘシ

工場法ニ依ル諸願届取扱方ノ件

大正十一年八月十五日
甲工務部第四三號

工場法及附屬法ニ依ル諸願届ニシテ工場管理人ヲ置ケルモノハ法第十九
條ニ依リ工場管理人ニ於テ爲スヘキモノナル處從往々ニシテ工場主ノ名
義以テスルモノアリ斯レハ法律上責任ノ歸屬明カナラザル故アリ取扱上
是實ノ點有之候後爾後願届受理ニ方リテハ之方適否ヲ調査シ上受理セラル
ヘシ

寄宿舎女工ノ待遇ニ關スル取締ノ件

大正十五年三月十八日
甲工務部第三二四三號

工場附屬ノ寄宿舎ニ收容セラルル女工ニ對シ不當ニ外出ヲ制限シ又ハ歸郷
ヲ拒否スルノ等今尙其ノ跡ヲ絶タズ外出ノ制限其ノ他寄宿舎女工ノ待遇ニ關
シ勞働争議ノ生レル事例モ有之候處固ヨリ作樂ノ必要上又ハ本人ノ保護、
工場ノ風紀及規律ノ維持上外出及歸郷ニ適當ナル制限ヲナスハ事實上已
テ得サルヘキモ前貸金アルノ故ヲ以テ外出ニ許シテ制限ヲ加ヘ事實上之ヲ
許ササルカ如キ相當ノ事由ヲ具シテ解雇又ハ歸郷ノ申出ヲ爲スモ之ヲ拒
カシキハ本邦法例ノ精神ト相背レキル所ナルノミナラス已ニ得サル事由
ニ依リ歸郷ヲ必要トスル場合ニ於テ前貸金未済ノ故ヲ以テ歸郷ノ申出ヲ拒
ムハ勞働者專權取締令第十六條ニ反スヘキ(別紙説明参照ノ一)又外出歸
郷ノ制限力一定ノ限度ヲ越ユルニ於テハ監禁刑ヲ科成スル虞モアルヘキヲ
以テ(別紙例参照ノ二)適宜罰則者ニ對シ注意ヲ與ヘ女工ノ自由ヲ不當
ニ制限スルカ如キ弊風ヲ改メシムル機轉ニ取締セラルヘシ

参照ノ一 勞働者專權取締令第十六條
参照ノ二 勞働者專權取締令第十六條
左ノ各條ノ一ニ該當スル場合ニ於テ應奉者ノ請求アリタルトキハ應奉者、
就業場ニ到着前ニ於テハ專權取締令ニ依リ應奉者ヲ採用セザルトキ
ノ爲メ必要ナル措置ヲナスヘシ
一、就業場内又ハ雇傭契約ニ記載シタル事項ト相違シタルトキ
二、専業主、専業従事者又ハ就業場ノ監督者應奉者ヲ虐待シ又ハ侮辱シ
タルトキ
三、考試、身體検査其ノ他専業主ノ都合ニ依リ應奉者ヲ採用セザルトキ
四、其ノ他已ニコトヲ得サル事由ニ依リ歸郷ヲ必要トスルニ至リタルトキ

〔長野書〕

工場監督事務取扱ニ關スル件

大正十四年四月八日
甲工務部第三〇號

近時工場及職工數ノ増加ニ伴ヒ勞務同ノ關係次第ニ備案トナリ工場監督ノ
事務亦益々複雑トナリ之ニ從事スル者ノ職責益々重キヲ加フルニ至リタル
ヲ以テ今同種下級要ノ工場所在地ニ於ケル警察官吏ニ工場監督官補ヲ兼
シメ以テ監督能率ノ増進ト事務ノ刷新ヲ圖ルノ事ニ出テヨリ従來工場法
ノ普及及徹底ニ付テハ各位ノ努力ニ依リ漸次其ノ成績ノ着ルヘキモノアルニ
至ラタリト雖尙未ダ工場設備ノ改善及其ノ職工ノ待遇方法ニ種々遺憾ノ點
尙カラスレバ今後工場ノ取締及監督ノ方面ニ更ニ一段ノ研究ト注意ヲ特
ヒ工場監督官補ヲ有スル警察官吏ニ於テハ勿論其ノ他ノ官署ニ於テモ職
部下ヲ指揮監督シテ他ノ警察事務ト均シク最モ慎重ニ其ノ事務ヲ處理シ其
ノ實績ヲ報ケルコトニ努ムヘシ

而テ今工場監督官補ヲ命ゼラルル者ハ其ノ當然ノ職務トシテ爾後能
ク限リ職責内ノ工場設備ヲ行ヒテ法規ノ履行ヲ計ルヘク監督事務ノ執
行ニ付テハ常ニ本職在勤ノ工場監督官吏ト協力一致シテ監督及取締ノ統
一時期スヘキ其ノ事務取扱ニ付テハ特ニ左記事項ヲ心得ヘシ
一、工場法規違反ニ對スル處分事項ニシテ重要ナルモノハ之ヲ本職ニ
稟議スルコト
二、工場設備監督狀況ニ付テハ左記事項ヲ具シ其ノ月分ヲ翌月十日迄
ニ報告スルコト

臨檢工場名
指示又ハ注意事項
其ノ他重要ナル事項

右ノ説明

本條ハ專業ニ應ジテ工場ニ來ル者カ各職ノ事由ヲ以テ歸郷ヲ申出タル場
合ニ於テハ工場監督官ハ專業従事者、工場到署後ハ専業主タル工業主又ハ
工場管理人カ必要ニ應ジテ旅費ヲ給シ又ハ貸與シ或ハ看護人ヲ附シテ歸郷
セシムル等必要ナル措置ヲ執ルヘキ義務アルコトヲ規定シタルモノトス
參照ノ一 監禁刑ニ關スル刑法ノ規定
刑罰法第二百二十條第一項
不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
右ニ關スル判例(大審院大正四年(二)五五六號同年十一月五日
刑一部末弘裁判長遠藤平野谷野中西各判事判
決)

契約ニ依リテ工場主ノ爲メニ一定ノ勞務ニ服スル職工ノ如キハ其ノ契約期
間中ハ契約ノ趣旨ニ從ヒ勞務ヲ強要セラルヘキモ右勞務ノ進行ヲ妨害セザ
ル限リ一切ノ自由ヲ享ハルヘキニ非サルハ勿論一定ノ時間中不法ニ其ノ居
所ト外部トノ交通ヲ遮断スルカ爲メ出入口ノ月外閉鎖ヲ行ハシムル以外
ヲ禁止シ因リテ職工ノ自由ヲ奪フカ如キハ刑罰法第二〇條第一項ノ不法監
禁刑ヲ科成スト同ハサルヘカラス故ニ接合所前ノ如ク室内ニ相當ノ設備ヲ
備ヘ職工ノ健康保全及慰安娛樂ノ方法ヲ講ジテ之ヲ履行スルモ有モ契約ニ因
リテ職工ノ健康保全及慰安娛樂ノ方法ヲ講ジテ之ヲ履行スルモ有モ契約ニ因
リテ成立テ妨グス原例決ハ被告等カ共謀シテ女工ノ逃亡ヲ防グカ爲メニ不
法ニ女工寄宿所ノ扉出入口ノ月外閉鎖ヲ行ハシムル等外部トノ交通ヲ遮
断シタリト云フニアリテ其ノ行爲ノ不法監禁罪ニ該當スルコト明確ナリ

上管署知○原春奈良地方裁判所○監禁傷害被告事件○被告人中野辰太郎
外四名被告人未田實

工場法第十八條第三項但書ニヨ ル工場管理人選任届出ノ義ニ付 指示

昭和二年三月二十四日
甲工發第四四號

法人ノ理事、會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務執行社員、其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者及支配人ノ中ヨリ選任セラルル工場管理人ハ法律上一定ノ權限ヲ公認セラルル故ニ認
可トスル工場法施行規則第二十二條ニ依リ届出ヲ行フ以テ是レコトト相
成居ルモ是等ノ管理人トシテ工場法第十八條第一項ニ依リ工場管理ニツキ
一切ノ權限ヲ有スルヤ否ハ法人トシテ選任契約ニヨリテ證明セラルル
モノナルヲ以テ爾今選任届出ヲ受理シタル工場ノ管理ニ付一切ノ
權限ヲ附與セラルルコトヲ條件トセル選任契約書(別紙ノ通)寫取願書
(特ニ選任ノ年月日ヲ記載セルモノ)ヲ添附セシムルヲ取扱ハルヘシ
選任契約書寫

一、右甲、ハ工場法第十八條ニ依リ乙、ヲ
工場管理人ニ選任シ同工場ノ管理ニ關スル一切ノ權限ヲ附與ス
二、右乙、ハ第一號ニ依リ右工場管理人トシテ承諾シ工場法規定ニ規定
セル一切ノ責任ヲ任ス
年月日
甲工場主

工場管理人選任ニ關スル件指示

大正十四年五月二十一日
甲工發第四一號

從來製絲工場ノ管理人ハ一人ニシテ數工場ヲ管理スルモノアルヲ以テ完全
ナル管理ヲ期シ難キモノアリ一管理人ノ數工場ヲ兼任シタル工場ハ此類一
工場ノ管理人ニ就テシメ又將來管理人選任出願アリタル場合ハ此類ニ
留意シ併テ事實アリト認ムルモノニ關シ申請セシメ候取計ハルベシ

工場臨檢ニ關スル件

大正十四年六月十二日
甲工發第四九號

大正五年十月二日附甲工發第五一七號指示ニ依リ工場ニ臨檢シタルトキハ
別紙様式ニ依リ臨檢簿ヲ調製シ其ノ要ニ備ヘ付テ置キ臨檢ノ都度相當記入
シ置カレヘシ

工場名	工場主	臨檢年月日	指示、注意其他事項	管理人		備考
				男	女	

備考

- 一、用紙列紙版トス
- 二、「工場」ノ訓ヲ用フ
- 三、「職工數」ハ其ノ年度ニ於ケル最初臨檢時現在數ヲ記入スルコト
- 四、「其ノ他ノ事項」ニハ法規違反、處罰、或者等特ニ必要ト認ムル事
項ヲ記載スルコト
- 五、「結末」ニハ例ヘハ指示事項實行シタルトモ其ノ實行年月日ヲ又
備金、料料等ノ處分ヲ示シタルトモ其旨記載スルコト
- 六、保存期間ハ永年トス

改正工場法施行ニ關スル件

大正十五年八月二十三日
甲工發第七五號

本年七月一日ヨリ施行セラルル改正工場法ハ就業年齡ノ制限ニツキテ
ハ工業労働者最低年齡法ヲ別ニ制定シテ職工ノミナラス一般工業労働者ニ
及ホセル外通用工場及保護職工ノ範圍ノ擴張、就業時間ノ短縮、深夜業ノ
禁止、母性ノ保護其ノ他職工ノ扶助等廣範圍ニ於テ工場労働者ノ爲メノ保
護ハ一層厚キヲ加ヘラレリトシテ之ヲ彼ノ準備國勢會議ニ於テ採擇
シタル條約案及歐米諸國ノ労働立法ニ對比スルハ實ニ労働者保護ノ最低限
度ニシテ我國労働立法ノ一過程ニ過キサルモノナリ然レトモ選任ノ改正ニ
依リテハ就業時間ノ短縮、深夜業ノ禁止等工業主ノ受ケル打撃相當大ナル
モノアルハ要ナキ所ナルヲ以テ此ノ際改正法令ノ周知徹底及其ノ勵行ニ勉
ムルト共ニ一面工業主ヲシテ設備ノ改善、機械力ノ利用等ニヨリ生産能率
増進ノ道ヲ盡シ以テ帝國産業ノ發展ヲ計ラシメ尙モ改正法令ノ發布力延ヒ
テ我國將來ニ於ケル工場發展ノ障礙ト成ルカ知キコトヲカウシムル機努力
セラルヘシ

第七編 工場

職工健康診断執行規定表

工場名	所在地	健康診断執行期日	健康診断執行場所	検査醫師氏名	鑑定受取職工数

注意

- (一) 健康診断執行期日ハ成ル可ク六、七、八ノ三月間ニ於テ職工ノ多数ニ於テ選定セシメ且各工場同時ニ多数行ハスシテ工場監督官又ハ警察官立會ニ便ナラシムルコト
- (二) 職工健康診断ハ前號ノ期間内ニ於テ「ト」ホ「ム」預防法施行規則ニ依ル檢診ト便宜同時ニ行フモ差支ナキコト
- (三) 既ニ報告シタル職工健康診断執行規定表記載事項ニ異動ヲ生ゼタルトキハ其ノ都度報告スルコト但シ健康診断執行期日ハ已ムテ得ザル場合ノ外變更セシメザルコト
- (四) 健康診断執行ノ際ハ出來得ル限リ警察官更テ現場ニ立會ハシムルコト
- 五、工場法施行規則第十八條ニ依ル職工健康診断届ハ報告期間ニ拘ハラス成ル可ク早ク届出セシメラレマシ
- 六、労働者異動報告
大正十二年十二月二十五日付工務發第二三號指示ニ依ル労働者異動報告ハ本年十月分以降ハ常時職工五十人以上ヲ使用スル工場ニ限リ調査報告ヲ爲スヘシ
- 七、左記指示ハ之ヲ廢止ス
(イ) 職工健康診断執行ノ義務ニ付指示
一 大正九年五月三日工務發第一九號
一 大正十年五月二十五日工務發第二二號

〔長野縣〕

歸海スル場合ニ於テハ其ノ傷病カ少ナクモ業務上ニ起因スルトキハ歸海費ヲ支給スル様扶助規則又ハ就業規則中ニ記入セシムル等貴官ニ於テ便宜勸奨相成度

工場災害事故報告ニ關スル件

大正十五年九月二十日
甲工務發第八九號

今般工場法令ノ改正ニ伴ヒ傷病ノ件取扱ニ關スル大正六年長野縣令第三十五號及長野縣令第三十九號ハ本日廢止相成候ニ就テハ右ニ關スル大正六年十一月三日發第九六六號工場災害事故報告ニ關スル件指示ハ自然消滅ト相成候件ニ關シテハ爾今左記ノ通心得万遺憾ナキヲ期セラルヘシ

左記

工場法施行規則第二十五條若ハ第二十六條ニヨリ工業主ニ於テ職工死傷報告若ハ工場災害事故報告ヲ提出スヘキ事件惹起シタル場合ハ規定ノ様式ニ依リ報告書ヲ選擇ナク提出セシムル様取計フト共ニ事重大ナル場合ハ速ニ電話其ノ他ノ方法ニ依リ其ノ概況ヲ報告スヘシ

職工扶助規則ノ取扱ニ關スル件

大正十五年十月一日
甲工務發第九三號

工場法令取扱手續規則第一號ニヨリ職工扶助規則届出ヲ受理シタルトキハ該規則第四條第三號「休業百八十日ヲ超ニタルトキハ其ノ後一日ニ付賃金百分ノ四十以上」トアルモノハ「其ノ後一日ニ付賃金百分ノ四十以上」ト訂正セシメラレ度此ノ旨心得ラルヘシ

生菌ノ意義及範圍ニ關スル件

大正十五年十月五日
甲工務發第七九號

第七編 工場

第七編

(ロ) 職工賃金ノ貯蓄及貯蓄金管理ノ取計ニ關スル義務ニ付指示
一 大正十二年七月十八日工務發第六號

扶助ト健康保險トノ調和ニ關スル件

大正十五年九月十五日
發勞第一〇一號社會局労働部長通牒

工場法又ハ職夫勞務扶助規則ニ基ク扶助規則中ニ賃金ノ百分ノ六十ヲ超ユル休業扶助料又ハ賃金二十日分若ハ二十四日超ユル葬祭料ヲ支給スヘキ旨助テ規定セルモノ多敷有之労働者保護上適切ナル施設ト存候然ルニ右扶助義務ハ工場法施行令第十三條ノ二又ハ職夫勞務扶助規則第二十六條ノ二ノ規定ニ依リ労働者健康保險法ニ依リ傷病手當金ヲ受クヘキトキハ其ノ期間中休業扶助料ノ支給義務ヲ免セラレト相成健康保險ノ給付ヲ受クルカ爲労働者ハ却ツテ其ノ受クヘキ利益ヲ失ヒ且ツ健康保險法ノ被保險者タル者ト然カラザルモノトノ間ニ不均衡ヲ生スル虞有之候ニ就テハ扶助規則ニ上記ノ如キ規定ヲ有スル事業主ニ對シテハ扶助規則中ニ左記主旨ノ一條ヲ挿入産業ノ犧牲者ニ對スル保護ノ精神ヲ貫徹スル様貴官ニ於テ御勸奨相成度

扶助規則第一項第二號ノ規定ヲ除クニ依リ傷病手當金ヲ受クヘキ場合(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依リ傷病手當金ヲ受クヘキ場合ニ於テ本則ノ休業扶助料力傷病手當金ヨリ多キトキハ其ノ期間中本則ノ休業扶助料ト傷病手當金トノ差額ヲ支給ス運葬料ヲ受クヘキトキ葬祭料ノ支給ニ付亦同シ

尙工場法施行令第五條又ハ第六條ニ依リ扶助ヲ受クル職工歸海スルトキハ同第二十七條ニ依リ歸海費ヲ受クルモ健康保險法ノ被保險者トシテ同法ニ依リ療養ヲ受クル場合ニ於テハ健康保險法施行令第七十四條ニ依リ移送料トシテ歸海費ヲ受クル場合アルモ歸海費ヲ受ケザル傷病者

業キニ通知致候大正十六年ヨリ製絲業ヲ工場法第八條第四項ノ季節業トシテ業務ヨリ除外セラルル件ニ關スル例外適用中「生菌ヲ使用スル製絲業務」ノ「生菌」ノ意義及範圍ニ關シ今同社會局ヨリ左記ノ通り通牒アリテ貴會員ヘ一般ノ方周知御配慮相煩度此段及通知候也

左記

一 工場法第八條第四項ノ例外ノ適用ハ嚴正ニ解釋シ必要ナル限度ニ止ムヘキモノ有之且監督上適確ナル識別ノ標準ヲ必要トスル次第ナルヲ以テ生菌トハ殺菌セザル菌ト解釋シ處理相成度又生菌ト使用スルモノト雖モ冷蔵其ノ他ノ方法ニ依リ保存ニ堪ヘ天候又ハ季節ノ影響ヲ受ケザルカ若ハ受ケルコト少ナキモノハ季節業トシテ處理スヘキ限リニ在ラスト御了知相成度

職工貯蓄金管理ニ關スル件

大正十五年十月五日
甲工務發第九七號

職工ノ貯蓄金ニ關スル從來ノ取扱ハ職工ノ賃金及工業主ノ給與金ノ全部ニ對シ強制貯蓄ノ許可ヲ與ヘ右金員ノ外職工ノ任意ニ貯蓄スル金員ヲモ加ヘテ之カ管理ノ認可ヲ爲シ來レモ職工賃金ノ全部ヲ強制貯蓄トナスハ強制貯蓄ノ性質ニ反スルヲ以テ從來ノ貯蓄金管理規程ハ本年限リ之ヲ認メ改正工場法施行ト共ニ職工ノ貯蓄金ヲ強制、任意ニ區別シ尙工場法令取扱手續中ニ準則第二號ヲ以テ強制、任意ノ各貯蓄金管理規程ノ標準ヲ示シ大正十六年一月一日ヨリ之ニ據ラザルコトトセリ而シテ強制貯蓄金ノ額又ハ其ノ賃金ニ對スル割合率率ニ關シテハ社會局ヘ稟何中ノ處左記第一號乃至第三號ノ通り通牒アリタルヲ以テ一般労働者ニ之カ周知徹底ヲ計ルト共ニ從來貯蓄金ニ關シ許可、認可ヲ受ケ居ルモノニ對シテハ左記第四號以下ニヨリ進ニ許可、認可ノ變更、取消ノ手續ヲ取ラザラズ

三九

遺棄事業員ニ添付スヘキ貯蓄金管理規程及扶助規則ハ工場法令取扱手續
中準則ニシテハ就業案内就業規則ノ内容ヲ追加シテ便宜就業規則
ト共通ノモノヲ作成スルモ差支ナキニ付此旨心得ルベシ

- 一、強制貯蓄金ヲ認ムル場合ニ於テハ貯蓄金ノ率ハ一般職工ニ就テハ賃金ノ百分ノ五以下、寄附金ニ在ル女工ニ就テハ賃金ノ一割以下トスルコト
- 二、任意貯蓄金ニ付テハ其ノ都度職工ノ申出タル一定ノ金額又ハ一定ノ割合ニ依ルコトトシ金額又ハ割合ニ制限セザルモ此ノ場合ニハ職工ノ要求アルトキハ何時ニテモ返還セシムルコトトスルコト
- 三、貯蓄金ヲ工業主又ハ工場管理人ニ於テ保管スル場合ニハ其ノ利率ハ強制貯蓄金ニ在リテハ七分以上、任意貯蓄金ニ在リテハ六分以上トスルコト
- 四、従来強制貯蓄ノ許可ヲ受ケ貯蓄額ヲ一職工賃金及工業主ノ給與ニ係ル賃金トナシタル者ハ毎月支拂ヘキ賃金ノ何分ノ何以下及工業主ノ給與金ト變更スルトキハ該許可ノ變更ヲ出願スルコト
- 五、現ニ貯蓄金ノ管理ヲ爲ス者引續キ管理セムトスル者ハ新率則ニ依リ變更許可ノ出願ヲナスコト
- 六、従来強制貯蓄ノ許可並貯蓄金管理ノ認可ヲ受ケタル者今後任意貯蓄ノ管理ノミヲ爲ス者ハ強制貯蓄廢止ノ届出ヲ爲サシムルコト
- 七、貯蓄金管理規程附則ノ本規程施行年月日ハ大正十六年二月一日ヨリトシテ差支ナシ但シ特ニ現在ヨリ本規程ニ依リ管理セムトスル者ニ對シテハ施行期日ヲ認可ノ日ヨリトナスコト

●母性保護ニ關スル件指示

大正十五年十月二十六日
甲工收第一六一三一號

工場法施行規則第九條ノ出産ハ妊娠四ヶ月以上ノ出産（生産、死産ヲ問ハス）ト解釋決定シタル旨社會局労働部長ヨリ通達アリタルヲ以テ妊娠又ハ産婦ニ對スル就業制限ハ妊娠四ヶ月以上ノ者ニ總テ適用サルルニツキ此旨其場部内一般工業主ニ對シ周知セラルベシ

●軍需工業動員法ニ依ル保護工場
臨檢ニ關スル件

大正十四年十月十日
社發一第第八五號社會局第一部長通達

軍需工業動員法第十七條ハ工業的發明ニ係ル物又ハ方法ニ關シテ政府ノ承認ヲ得タル事項又ハ設備ニ付テノ報告、檢査其ノ他從業員ニ對スル實同ヲ禁止致居候處同條ハ同法第十一條乃至第十三條及第十六條ニ依リ工場、事業場等ノ所有者、管理者、從業員等ニ負ハシメタル負擔ノ一部ヲ解除スルモノニ有之工場法第十四條ニ基テ制限ヲ制限スル義ニ無之候得共工場檢ノ實際ノ運用ニ付テハ軍需工業動員法第十七條ノ精神ヲ尊重シ當該發明ノ保護ニ必要ナル限度ニ於テハ工場法施行上必要止ムテ得サル場合ノ外工場法第十四條ノ制限ヲ行使セザル様御留意相成度

〔長野書〕

第八編 労働

第八編 労働

●工業労働者最低年齢法施行状況

報告ニ關スル件

大正十五年七月二十二日
 發勞第七八號社會局長官通牒
 工業労働者最低年齢法施行状況ニ關シ監督ノ方針、成績及時々調査シテ
 事項其ノ他参考トナルヘキ事項ヲ左表ニ依ル違反件數ト共ニ毎年二月末日
 迄ニ前年分ヲ報告相成度

業 務 別	第二條違反	第三條同上	備 考
第一條第一號ノ事業 (鑛業及砂鑛業ヲ除ク)			
第一條第二號ノ事業 (工場法適用工場ヲ除ク)			
第一條第三號ノ事業			
第一條第四號ノ事業			
第一條第五號ノ事業			
計			

●労働爭議調停法ニ依ル費用辨償

ニ關スル件

大正十五年十月十八日
 長野縣令第百二十一號
 労働爭議調停法ニ依ル費用辨償ニ關スル件左ノ通定ス
 第一條 労働爭議調停法第十八條及同法施行令第九條ニ依ル委員及其ノ他

第八編 労働

〔長野縣〕

ノ者ニ支給スヘキ旅費日當及止宿料ハ當分ノ内別表ニ掲ケル所ニ從ヒ定
 額ニ依リ之ヲ支給ス
 第二條 旅費ハ鐵道賃、船賃及車馬賃トス鐵道旅行ニハ鐵道賃、水路旅行
 ニハ船賃陸路旅行ヲ爲スニ當リ軌道ニ依ルコトヲ得ル場合ニ於テハ其ノ區
 間ニ依リ其ノ實費額ヲ支給ス
 第三條 鐵道旅行ヲ爲シ得ル區間ニ付公務ノ爲軌道ニ依リ旅行スルトキハ軌道ノ
 實費額ヲ支給ス
 第四條 會議ノ爲召集セラレ又ハ説明ノ爲出席ヲ求メラレタル場合ニ於テ
 旅費ハ當事者ノ選定シタル委員、當事者又ハ其ノ代表者、其ノ他利害
 關係人ニ付テハ爭議ノ發生シタル作業所、當事者ノ選定ニ係ル委員ニ於
 テ選定シタル委員又ハ參考人ニ付テハ其住居力會議地又ハ會議地ヲ距ル
 三里以内ニ在ルトキハ之ヲ支給セス
 第五條 日當ハ其ノ日數ニ應シテ金額ヲ支給ス
 第六條 止宿料ハ公務ノ都合ニ依リ止宿シタル場合ニ限リ之ヲ支給ス
 第七條 調停委員會ノ期間カ十五日以上ニ延長セラレタルトキハ委員ニ支
 給スヘキ日當及止宿料ハ超過日數ニ付定額ノ二割ヲ減ス
 第八條 前各條ニ規定スルモノヲ除ク外旅費日當及止宿料ノ支給ニ關シテ
 ハ内國旅費規則ノ規定ヲ準用ス

別表

區 分	鐵道賃	車馬賃	一日當	一日止宿料
一	及船賃	一里	當一日	止宿料
二	九十錢	四	五	四

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

高等者又ハ其ノ代表者其ノ
低等者又ハ其ノ代表者其ノ

二 七十五條 二 三
三 七十五條 二 三

● 勞資相談所ニ關スル義ニ付指示

大正十四年六月二十五日
甲工發第五二號

本業主ト労働者間ノ協調ニ其ノ福利増進ヲ計ル爲メ左記勞資相談所規程
同本務取扱手續ニ基キ之カ目的ノ達成ヲ期セラルヘシ
一、甲發第二七九號(大正九年十一月二十二日付)人事相談所ニ關スル
二、付指示ニ關スル件中人事相談所事務取扱規程第三條中ニ掲ケル事
項ニ付勞資相談所ニ關スル事項ハ爾後勞資相談所ノ事務トシテ取扱ハル
ヘシ

左記

勞資相談所規程

- 第一條 勞資相談所ハ勞資ノ協調ヲ圖リ相互ノ福利ヲ増進スルヲ以テ目的トス
- 第二條 勞資相談所ハ警察部工場課内ニ其ノ本部ヲ置キ警察官署内ニ其ノ支部ヲ設ケ
- 第三條 勞資相談所ハ第一條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事項ヲ取扱フモノトス
 - 一、労働者ノ賃金、賞與金、助成金其ノ他給與ニ關スル事項
 - 二、労働者ノ募集、雇入及雇入ニ關スル事項
 - 三、工場、寄宿舎等ノ施設改善ニ關スル事項

〔長野警〕

四、工場ノ管理、監督其他労働者待遇ニ關スル事項
五、勞資間ノ紛議調停ニ關スル事項
六、其ノ他勞資相互間ニ於ケル諸問題

勞資相談所事務取扱手續

- 第一條 勞資相談所ノ事務ハ工場監督官定之ヲ取扱フモノトス但シ所屬工場監督官補配置ナキ警察官署又ハ所屬工場監督官補配置アルモ支障アル場合ニ於テハ署長又ハ工場係主任者之ヲ取扱フモノトス
- 第二條 勞資相談所支部ニ於テ取扱事件中重大ナリト思料シタルモノニ付テハ其ノ都度速カニ之ヲ本部ニ稟議スヘシ
- 第三條 勞資相談所ニハ左ノ簿冊ヲ備ヘ其ノ取扱ヒタル事項ヲ其ノ都度之ニ記載スヘシ
 - 一、勞資相談事件簿(様式第一號)
 - 二、勞資相談書類簿
- 第四條 勞資相談所支部ニ於テ取扱ヒタル事件ハ當分ノ内毎月分ヲ取纏メ様式第二號ニ依リ翌月十日迄ニ警察部長宛之ヲ報告スヘシ
- 第五條 第一號

件名	署長印	取後主 任者印	受付年 月日	大正	年	月	日	午前 午後
	個人住所 氏名年齢	關係者 住所氏名 年齢	年月日	大正	年	月	日	

〔長野警〕

要 概

考 備	勞資相談事件簿用紙
果 結 其 及 過 程 取 扱 事 件	

様式第二號

受付年月日	事件名	事件概要	結果及其月日
計 何件 内 未著者	計 何件 内 未著者	計 何件 内 未著者	計 何件 内 未著者
右及報告候也	大正 年 月 日	何 警 察 署 勞資相談所支部 主任官 何	某 署
警察部長宛			

第九編 司法

第一章 刑事訴訟法關係法規

● 違警罪即決處分手續

大正十三年四月十一日
長野縣令第十一號

明治三十五年長野縣令第八十八號違警罪即決處分手續ヲ左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之レヲ施行ス

第一條 警察官吏拘留、科料ニ該ル罪ノ犯行ヲ認知シタルトキハ其ノ本籍、住所、身分、職業、氏名、年齢、犯罪事實、場所、日時、通條ヲ詳具シ證據ヲ添付シテ所轄署長ニ報告(第八號様式)スヘシ

前項ノ場合他所轄ニ屬スル報告書ハ所屬署長ヲ經由スヘシ
第二條 拘留、科料ニ該ル罪ノ現行犯ニシテ犯人ノ住居若ハ氏名分明ナラサル場合又ハ犯人逃亡スル虞アルトキハ強制力ヲ用ユル事ヲ得ヘシト雖必要ノ程度ヲ超エサルニ注意スヘシ

第三條 違警罪即決例第一條ニ依リ即決ノ旨渡ラ爲シタルトキハ拘留科料處分原簿(第一號様式)ニ登錄スヘシ
其ノ處分結果及取扱要領ハ該原簿相當欄ニ記載スヘシ

第四條 被疑事件ノ狀況ニヨリ缺席ノ後即決ノ旨渡ラ爲ストキハ違警罪即決例第四條ニ據リ作製セル旨渡書(第二號様式)ヲ送達スヘシ
此場合ニ於テハ送達書(第三號様式)ヲ用ユヘシ

第五條 十八歳ニ滿タサル者ニ對シテハ科料ヲ完納セサル場合ニ於ケル勞役場留置ノ旨渡ラ爲スヘカラス
第六條 被疑者其ノ他關係人ヲ召喚スルトキハ報知書(第四號様式)ヲ用ユ

第九編 司法 第一章 刑事訴訟法關係法規

〔長野警〕

第七條 違警罪即決例第九條乃至第十一條ニ該當スル場合ハ命令書(第五號様式)ヲ發スヘシ
前項ノ場合第三條所定ノ拘留科料原簿命令書欄ニ登錄スヘシ

第八條 科料金ハ違警罪即決例第九條ニ依ルモノノ外刑法第十八條ニ據ルヘシ
第九條 犯人所轄内ニ在ラサルトキハ所轄警察官署ニ旨渡書ノ送達及執行ヲ囑託スルコトヲ得

第十條 科料金ノ徵收及拘留又ハ勞役場留置ノ囑託ヲ受ケタルトキハ受託科料留置事件簿(第六號様式)ニ登錄スヘシ

第十一條 拘留ニ處シタル者ハ執行囑託書(第七號様式)ニ旨渡書ノ原本ヲ添ヘ附近刑務所又ハ刑務支所ニ送致スヘシ、但シ時宜ニ依リ其ノ署ノ留置場ニ於テ執行スルコトヲ得

第十二條 從前ノ訓令及指示ニシテ本令ニ抵觸スルモノハ之ヲ廢止ス
附則
第一號様式 (用紙美濃紙)

決	即
(犯罪ノ年月日時場所事實證據及法令ノ適條刑名刑期等ヲ記載スルコト)	(本籍 住所 身分 職業) (氏 名) (年齢)
(此旨渡確定後十日内ニ完納スルコトヲ囑ハサルトキハ(何日)間勞役場ニ留置ス)	

何警察(分)署長 官氏 名印

違警罪即決處分手續ノ義ニ付指

大正十三年四月二十五日 甲收第三六四號

違警罪即決處分手續改正相成候ニ付テハ該訓令施行ノ日ヨリ左ノ標準ニ據リ處理セラルヘシ

- 一、他所轄ニ於ケル拘留科トシテ該犯罪ノ報告ヲ所屬署長ニ於テ受理シタルトキハ速ニ所屬署長ニ同送スヘシ
二、前項ノ場合所屬署長ヲ經由スル暇ナキトキハ直接所屬署長ニ報告スルコトヲ得但シ事後其ノ狀況ヲ通達シテ所屬署長ニ申報スヘシ
三、即決處分ハ可成對面ノ方針ヲ採リ直接署長ニ依リテ事實ノ眞實ヲ究メ處分ノ正當ヲ得ルト同時ニ一面犯人ニ對シ違反行爲ニ出ツルコトナキニ注意シテ該犯ヲ加フルノ取扱ニ出ララルヘシ
四、對面言渡ヲ爲ス場合ハ可成迅速ニ取扱ヒ無用ノ煩累ト時間トヲ費ササルニ注意スヘシ
五、執行ノ爲ニ召喚スル場合ハ手續第六條ニ準スヘシ
六、該處分ヲ以テ科料ノ言渡ヲナス場合ハ言渡書(手續第二條格式)ニ此ノ旨ヲ記載シテ十日以内ニ完納スルコトヲ命ジハサルトキハ何日間勞務留置場ニ留置スルコトヲ對面言渡ノ場合ハ此ノ旨ヲ指示スヘシ

〔長野署〕

四六八號、大正六年發第一二〇號、大正十二年甲發第二三四號警察部長指示及大正八年發第二九號保安課長通牒ハ之ヲ廢止ス

違警罪即決例適用ニ關スル取扱

大正八年十月十三日 甲收第一二三八號

違警罪即決例適用ニ關スル取扱方ノ義ニ付指示
一、違警罪即決例第十條ニ基キ留置ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ留置中保證金ヲ差出シタルモノニ對スル日數ノ計算方法同條ニ依リ拘留ノ言渡ヲ爲シタル時刑罰ニ相當スル金額ヲ保證トシテ差出シタル者刑ノ言渡確定シタル後直ニ出廷シテ其ノ執行ヲ受ケサル場合ニ於ケル取扱方各府縣區々ニ差出タル點有之候處今後左記ニ依リ御處理相成度候
追テ本件ハ司法省ト打合濟ニ付申添候

内務省發第一一九號(大正八年十月四日)

違警罪即決例適用ニ關スル件依命通牒
一、違警罪即決例第十條ニ基キ留置ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ留置中保證金ヲ其ノ以後ニ保證金ヲ差出シタルトキハ例令差出ノ日カ一日ニ滿タサル場合ト雖モ之ヲ一日ニ計算スルコト
二、同條ニ依リ拘留ノ言渡ヲ爲シタル時刑罰ニ相當スル金額ヲ保證トシテ差出シタル者刑ノ言渡確定シタル後直ニ出廷シタル者刑ノ言渡確定シタル後直ニ出廷シテ其ノ執行ヲ受ケサル場合ト雖モ之ヲ一日ニ計算スルコト

- 七、對面言渡ノ場合正式裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限ノ言渡ヲ受ケララルニ注意スヘシ
八、手續第七條第一項ノ命令ヲ對面ニテ言渡ヲ爲シ同條第二項ノ原簿ニ登錄シタルトキハ命令書ノ發行ヲ省略スルコトヲ得
九、言渡書(原本、正本、謄本)及手續第七條ノ命令書ハ其ノ事件毎ニ作製スヘシ
一〇、科料金換刑ノ爲刑務所又ハ刑務支所ニ送致スル場合ノ執行囑託書ハ手續第十條ニ準シ命令書謄本ヲ添附スヘシ
一一、科料金納入ノ取扱ハ明治三十九年縣訓令第一一號ノ手續ニ依ルヘキハ勿論貼布シタル收入印紙ハ打抜ノ消印ヲ用ユル等不都合ナキヲ期スヘシ
一二、即決處分ヲ爲スノ權限アル警察官署長ニ於テ拘留科料ニ該犯罪ノ犯行ヲ認メタルトキハ別ニ報告等ノ形式ヲ要セス其ノ犯罪事實ヲ調査ニ作製シ相當處置スル權限取扱ハルヘシ
一三、軍人、軍屬ニ對シ拘留科料ノ即決處分ヲ爲シタルトキハ其ノ結果ヲ直ニ所屬ノ長官若ハ隊長(艦船團長ヲ含ム)ニ通報スヘシ、但シ軍兵(分)隊ノ所在地ニ於テ其ノ犯行ヲ認メタルトキハ直接處分スルコトナク速ニ所屬連長(分)隊ニ移送スヘシ
一四、軍人、軍屬入隊前ノ犯行ニ對シ即決ノ言渡ヲ爲シ入隊後執行ノ必要ヲ生シタル場合ハ所屬ノ長官若ハ隊長(艦船團長ヲ含ム)又ハ所屬連長(分)隊ニ之レガ囑託ヲ爲シ得ヘシト雖可成入隊前ニ處置スル權限取扱ハルヘシ
一五、十八歳未満ノ者ニ對シテハ已ムヲ得サル場合ノ外可成科料ノ言渡ヲ爲サス限其ノ他適當ノ方法ヲ講スル權限取扱ハルヘシ
明治三十五年發第一四八號、明治四十三年發第一四六七號、同年發第一

〔長野署〕

キハ此等ノ者ニ對シ拘留執行ヲ強制スルノ方法ヲ講スルコトヲ第十一條ニ依リ保證金ヲ没入シ本刑ニ換フルコト

少年法第十三條ノ勞務留置ト

大正十二年十一月一日 甲收第一三三六五號

違警罪即決例ニ依ル科料金ノ納附ヲ爲ス能ハサル場合勞務留置ト置ニ關スル件
本件ニ關シ別紙甲發局長事務照會ニ對シ乙號ノ通り回答計ラヒタル旨内務省發第一二七三號(大正十二年五月十八日) 甲收

内務省發第一二七三號(大正十二年五月十八日)

違警罪即決ニ關スル件
大正十一年法律第四二號少年法第十三條並明治十八年九月第三十一號布告違警罪即決例第十條ノ取扱ニ關シ左ノ通り疑義有之候條何分ノ御意見承知致シ度ク此段及照會候也

金收入ヲ強制スヘキ方法如ス此場合ニ處スル方法トシテハ如何ナル取
扱ヒヲ爲スベキモノナルヤ
二、違警罪即決例第二條一項ニ依リ拘留四日ノ旨渡ラシメ同例第十條ニ依
リ保證金ヲ差出シ命シタルモ其コトナキ爲メ即日留置シタルニ同例第五
條ノ期間内タル刑期満了ノ當日(巳ニ當日幾分ノ執行ヲ了ス)ニ至リ被告
ガ保證金ヲ差出シ放還ヲ求ムル場合ニ於テモ明治四十四年十二月内務
省第四三六九號及大正八年十月内務省第一一九號御通牒ノ趣旨ニ依リ取
扱フベキモノナルヤ果シテ然ラハ本間ノ場合ニ於テハ當日既ニ幾分ノ執
行ヲ爲シ居ルヲ以テ當日ノ執行ハ之ヲ一日ニ計算スルヲ至當トスルニ付
キ保證金ヲ差出シ命ハザル結果ヲ生ス然ルニ雖且ツ被告ヲ放還セザルヘ
カラサルヤ或ヒハ又即決例第八條ニ依リ必要ト認メタル理由トシ該保
證金ヲ受理セシテ被告ヲ放還セザルコトヲ得ヘキモノト解スベキカ
乙號

警務乙特第二五號(大正十二年十月 日)

警務局長

長崎縣知事宛

少年法第十三條ノ勞務場留置ト違警罪即決例ニ依リ科料金ノ納附
ヲ爲ス能ハサル場合勞務場留置ニ關スル件其ノ他ニ付回答
本件ニ付去ル五月十八日保可發第一二七三號ヲ以テ御照會ノ儀ハ左記ノ通
リト御承知相成度候
第一項 少年ニ對シテハ少年法第十三條ノ規定ニ依リ勞務場留置ノ旨渡
ラシメ能ハス從テ警察官署トシテハ違警罪即決例第八條ニ基キ必要ト
認メタル場合第九條ニ依リ留置ヲ爲ス外可無之思料得共本條ノ特別
處分ヲ此等ノ場合ニ爲スハ適當ナラサル據アルノミナラス少年法ノ趣
旨ニ副ハサルモノト被存候

〔長崎縣〕

尙本件ハ刑罰訴訟法第三百二十條ノ檢事ノ命令ヲ受テヘキモノニ無之
勞本項ハ少年法ノ趣旨ニ副リ勞務場留置ヲ爲ス能ハス執行ノ方法無之
義ト存候
第二項 保證金ヲ徵收スル能ハサルノ結果ヲ生スルモ已ムラ得ザル義ト
存候
追テ本件ハ司法省刑務局長ト協議濟ニ付爲念申シ候

●拘留處分ニ關スル義ニ付内示

明治四十二年四月三十日
保可發第五號

警察犯處罰令第一條第三號ハ一定ノ住居又ハ生業ヲ有セスシテ居所ニ徘徊
セル者アルニ際シテ之ヲ放任スルニ於テハ不良ノ行爲ヲ遂行スル事必ナリ
ト認メタル場合ニ於テ未然ニ防止スルノ目的ヲ以テ必要上之ヲ處罰スルノ
趣旨ニ出テタル者ナリ然ルニ處分往々其當ヲ失シ動モスレハ事實ヲ輕ケテ
名ヲ浮浪罪ニ濫リ之ヲ處罰シ而シテ他ノ罪證ヲ索ムルノ便宜手段ニ供スル
向アルヤノ間ハアリ願フニ凡ソ拘留ニ該ルヘキ罪科者ニ對シ即決處分ニ依
リ留置スルハ固ヨリ妨ナキ所ナリト雖モ其處分ニ依リテ一般ノ秩序ヲ維持
セントスルノ本義ヲ洗却スルカ如キ弊害ニ陷ルコトナキヲ期待セザルヘキ
ラス就テハ今後處分ヲ爲スニ方リテハ十分違犯者ノ狀態ト犯情トヲ調査シ
一層處分ヲ慎重ニスヘキハ勿論犯罪アル見込ニ付不取敢拘留處分ニ附シ
査シタル結果其ノ罪證ヲ發見シタリト云ヘルカ如キ字句ヲ新聞紙等ニ掲載
セラル、コトナキ注意ヲ加ヘラルヘシ

●警察犯處罰令ノ取扱方

明治四十二年一月十二日
警務第四二七號

警察犯處罰令第二條第四號ノ解釋方ニ關シ別紙ノ通り通牒有之候此旨心

得ラルヘシ

(別紙)

内務省四一警甲第五二號警務局長通牒(明治四十二年一月六日)
甲號照會ニ對シ乙號ノ通り回答候條御參考迄此段及通牒候也

(甲號)

司法省民刑第二九六號(明治四十一年十二月十六日)
(民刑局長ヨリ警務局長へ照會)

明治四十一年内務省令第十六號警察犯處罰令第二條第四號中ノ「入札」中ニ
ハ民事訴訟法及ヒ競賣法ニ於ケル動不動產ノ賣買ヲモ包含スヘキ義ナルヤ
否ヤニ付別紙寫ノ如ク仙臺區裁判所監督官署ヨリ伺出候ニ付キテハ一應貴
見承知致度若シ同號ノ入札中ニハ前記賣買ハ之ヲ包含セザルモノトノ御意
見ニ候ハ、右包含スヘキ權御配慮相成度此段及照會候也
(別紙寫ハ略ス)

(乙號)

内務省四一警甲第五二號(明治四十二年一月六日)
(警務局長ヨリ民刑局長同答)

昨年十二月十六日附(民刑)第二九六號ヲ以テ警察犯處罰令第二條第四號
入札ノ規定ニ關シ御照會ノ趣テ承右賣買ノ場合ニ於ケル價格表示ニ投票方
法ニ依ルトキハ其投票ハ即チ入札ニ外ナラサルヘク隨テ口頭ヲ以テ價格ヲ
表示スル場合ハ同令ニ依リ取捨ルコト能ハサル見込ニ付御希望ノ點ハ將來
據アリテ相當取計ヲヘク候條御了知相成度此段及回答候也

●違警罪即決例ト刑法及刑法施行

法トノ關係

明治四十一年十月六日
警務第一六二六三號

違警罪即決例ト刑法及刑法施行法トノ關係ニ付別紙ノ通り司法省民刑局長

第九編 司法 第一章 刑事訴訟法關係

ヨリ通牒有之候此旨心得ヘシ

(別紙)

司法省甲第二三一號民刑局長通牒(明治四十一年十月三日)
違警罪即決例ト刑法及刑法施行法トノ關係ニ付別紙ノ通り内務省警務局長
ト照復候條此段及通牒候也

(別紙)

内務省警務局長警山第三七號ノ内(明治四十一年九月二十四日)
(警務局長ヨリ民刑局長へ照會)

今同別紙寫ノ通り山梨縣知事ヨリ照會有之候ニ付テハ貴省ノ御意見承知致
度此段及照會候也
追テ同縣知事照會追書後段ハ通牒及照會置候事項ニ有之候爲念此段申添
候也

(別紙)

梨縣警務第二七號(明治四十一年九月二十日)
(山梨縣知事ヨリ警務局長へ照會)

新刑法第十八條ニ依レハ科料刑執行ノ強制手段トシテ其ノ旨渡ト共ニ不完
納ノ場合ニ於ケル勞務場留置日數ヲ定メ旨渡ヲ爲スヘキ規定ニ有之候處右
留置ノ旨渡ハ警察官署ニ於テ違警罪即決例ニ依リ即決處分ヲ爲ス場合ニ於
テモ旨渡シ得ルモノナルヤ元來該例ハ犯罪ノ處分ヲ行政官ニ委シタル非
常特別ノ例外法ナレハ其解釋ハ最モ嚴格ナル制限ノ解釋ヲ用ユヘク隨テ該
例中特別ノ明文ナキ限り新ノ如キ權限ハ警察官署ニ附與セラレサルモノト
解スルカ如クニ有之候得共若シ新ノ如ク解スルトキハ警察官署ノ科料處分
ニ對シテハ全然執行上ノ強制手段ヲ缺キ結局執行シ得ヘカラサルノ結果ヲ
生スル處有之此點ニ付法ノ執行上疑義有之候ニ付至急何分ノ御回示相成度
此段及御照會候也

追テ本件警察官署ノ裁量ニヨリ刑法第十八條ノ範圍内ニ於テ期日ヲ定メ
留置ノ旨ヲ爲シ得ヘキモノナリトセハ新刑法施行前ニ於テ警察官署カ
留置タル科料處分ニ對シテモ尚舊刑法第十三條ニ依リ裁判所ノナ
スヘキ決定ニ付テモ同様之ヲナシ得ヘキヤ將又留置スヘキ勞役場ハ警察
官署ノ留置場ヲ以テ代用シ得ヘキ義ニ有之候ヤ併テ御回示相成度候也
司法省日第二二二號(明治四十一年九月三十日)

(民刑局長ヨリ警保局長ヘ回答)

本月二十四日警山第三七號ノ内ヲ以テ違警罪即決例ニ依リ科料ヲ言渡ス場
合ニ於テ勞役場留置ノ旨ヲ爲シ得ルヤ否等其ノ件ニ關シ御照會ノ趣
領承右ノ場合ニ於テモ勞役場留置ノ期間ヲ定メ同時ニ之ヲ言渡スヘク而シ
テ若シ科料ヲ假納セサルトキハ同例第九條ニ依リ刑法第十八條第五項ニ定
ムル期間内ハ勿論言渡シタル科料ノ金額ニ連スルマテ引續キ留置スヘキモ
ノト致思考候又刑罰法施行前ニ於テ警察官署カ言渡シタル科料處分ニ付テハ
刑罰法第十三條ニ準シ警察官署ニ於テ其決定ヲ爲スヘキモノト致思考
候將又留置スヘキ勞役場ハ監獄法第一條第八條及第九條ニ依リ警察官署ノ
留置場ヲ以テ代用シ得ヘキモノト被考量候此段及回答候也
警二第六〇二八號岡山縣知事照會(明治四十一年十一月四日)

一、明治四十一年七月十八日大垣區裁判所監督判事ノ實議ニ對スル同年八
月一日司法省民刑第一五七號ノ回答ニヨレハ刑罰法第十三條ハ刑
法施行後ト雖モ舊刑法ノ刑ニ處スル者ニ對シテハ罰金科料ノ旨ヲ同時
ニ勞役場留置ノ旨ヲナスコトヲ得サルモノト解スヘシト有之是レ所犯
刑罰法施行以前ニ係リ刑罰ノ適用スル能ハサル場合ニ起ルヘキ問題
ニシテ所犯刑罰法施行後ニ係ルトキハ假令舊刑法ノ條文ニヨリ處分セラル
ヘシト明記セル縣令ノ違犯行為ナリト雖モ罰金科料ノ旨ヲ同時ニ勞役
場留置ノ旨ヲナスヘキモノト思考ス警ヘハ本縣縣令(明治三十六年二

〔長野警〕

月十六號)飲料水販賣業取締規則第十七條ニ本則ニ違背シタル者ハ刑
法第四百二十六條第四項ニ依リ處分セラルベシト有之刑罰法施行後該規則
ニ違犯セル者ニ對シ科料ノ旨ヲナスコトノ場合ノ如シ

二、勞役場留置ノ旨ヲ付司法省民刑第一二二號ヲ以テ民刑局長ヨリ警
保局長ヘ回答セラレタル趣旨ニヨレハ違警罪即決例ニ依リ科料ヲ言渡ス
場合ハ勞役場留置ノ期間ヲ定メ同時ニ之ヲ言渡スヘク而シテ若シ科料
假納セサルトキハ同例第九條ニ依リ刑罰法第十八條第五項ニ定ムル期間内
ハ勿論言渡シタル科料ノ金額ニ連スル引續キ留置スヘキモノト有之其
勞役場留置ノ期間ヲ定ムルハ即決處分權者カ刑罰法ノ趣旨ニ依リ自己ノ裁
量ヲ以テ自由ニ之ヲ定メ得ベク且假納セサル場合ハ科料金額ハ科料金額
ト留置日數トノ割合ニ從ヒ留置スヘク警ヘハ科料金額四圓ニ對シ勞役場
留置二日ヲ言渡シタルトキハ五拾錢ヲ一日ニ折算シ科料金額四圓ニ對シ二
日ノ留置ヲ言渡シタルトキハ貳圓ヲ一日ニ折算シテ留置スルガ如シ新ノ
如クセハ即決例ノ九條ニ定ムル壹圓ヲ一日ニ折算シテ留置スルニ拘ハラス同條
文ハ死文ニ屬シ同條ニヨリ假納セサルモノヲ留置セサルニ拘ハラス同條
ノ折算法ニ依ラサルハ之レ即決例ハ訴訟法ノ性質ヲ有スルモノナルニ依
リ刑罰法ノ左右スル能力ナキモノト見解ニ出ツルモノナランカ

或曰即決例ハ特別法ニシテ何等刑罰法ト關係アルモノニアラス故ニ即決例
ニ依リ處分シタル場合ハ同例第九條ヲ全部適用スヘク決シテ分割的適用
ヲ許ササルモノナリ故ニ科料金額四圓ニ對シ勞役場留置二日ノ旨ヲ言
渡シタルトキ假納セサルニ依リ留置スル場合ハ壹圓ヲ一日ニ折算シ一日間
留置シ釋放セサルヘカラス又之ニ反シ科料金額四圓ニ對シ二日ノ留置ヲ言
渡シタル場合ハ必ス四日間留置スヘク言渡日數ニ對シ二日間超過スルモ
之レ法ノ命スル所ニシテ止ムヲ得サルモノト強テ之レカ罰和ヲ圖ラン
トセバ勞役場留置ノ旨ヲ一日壹圓ニ制限スルニアリト如此セバ全然刑

法ノ趣旨ヲ没却スルニ至ルヘク以上ノ數點ニ付法ノ執行上疑義有之候ニ
付至急何分ノ御回示相成度候

警甲第四六號警保局長回答(明治四十二年四月五日)

一、大垣區裁判所監督判事實議ニ對スル民刑局長回答ノ刑罰法施行前
ニ係リ新舊法ヲ對照シ舊刑法ヲ輕シト認メ之ヲ適用シタル場合ニシテ刑
法施行後ノ罪ニハ關係無之即チ處犯刑罰法施行前ナルトキハ同法施行後ニ
於テ其旨ヲナスコトモ刑罰法第十八條ニ依リ罰金科料ノ旨ヲ同時ニ勞
役場留置ノ旨ヲ爲スヘキモノト無之刑罰法施行第十三條ニ依リ檢事ノ請
求ヲ待テ裁判所決定ヲ以テ之ヲ爲スヘキ次第ニ付即決言渡ノ科料ニ關シ
テハ右ニ準シ即決官ニ於テ相當取扱相成ルヘキ義ト存候去引例ニ係ル
貴縣令飲料水販賣業取締規則第十七條ニ於テ刑罰法第四百二十六條第四
項ニ據リ處分セラルヘシトノ規定ハ元來注意的ノ規定ニシテ本年勅令第
二百十七號ノ適用ナキヲ以テ舊刑法ノ廢止ト同時ニ刑罰法ノ刑名ニ依ル新
タル罰則ヲ設ケサルニ於テハ同規則ハ制裁ナキノ規定ト可相成存候
二、勞役場留置ト即決例ニ依リ留置處分トノ關係ハ第二說ノ前項又ハ後項
ニ依リ便宜御取扱相成可然存候

●科料金徵收方他縣トノ協議

明治三十六年十二月九日
乙五收第七八〇九號本縣内務部長通牒

違警罪科料金收入取扱方之義ニ就別紙寫之通茨城及福井縣ヨリ申越候間同
縣ニ限リ右ニ依リ取扱有之度依命此段及通牒候也

(別紙)
國發第三〇七號(明治三十六年十一月二十四日)
茨城縣知事ヨリ長野縣知事宛

違警罪科料金取扱方ノ儀ニ付別紙申渡シ、通リ大藏省ヘ問合セ候處乙號ノ通
リ回答有之就テハ自今左記ノ通り(縣外ノ場合トモ)取扱可致候間御承知

第九編 司法 第一章 刑事訴訟法關係法規

相成度此處特ニ申進候也

一、甲署ヨリ乙署ニ科料金言渡書ノ送達及徵收方ヲ囑託シタルトキハ乙
署ニ於テ收入ノ手續ヲ爲シ收入済ノ上ハ其旨甲署ニ通知スルコト

甲號
國發第二八五號問合(三十六年十月二十八日)

違警罪即決例ニ依リ科料金ノ旨ヲ爲シタルトキ該科料金ノ收入方ハ其旨
渡ヲ爲シタル警察官署ノ所屬收入官吏ニ於テ取扱ヲ爲ストキハ當然ノ儀ニ
有之候得共甲署ヨリ乙署ニ科料金言渡書ノ送達又ハ執行方ヲ囑託シタルト
キハ之ヲ乙署ノ調定ニ移シ乙署ニ於テ之レヲ收入ノ手續ヲ爲シ收入済ノ
上ハ其旨甲署ニ通知シ(若シ納付ノ見込ナキトキハ該調定ヲ取消スト同時
ニ是亦其旨甲署ニ通知シ)甲署ニ於テハ右通知ニ基キ處分ノ願末ヲ告ケル
ニ於テハ共ニ便宜ノ取扱ハ有之ノミナラス何レニ於テ收入ヲ了スルモ同シ
ク國庫ノ歲入トナルヘキモノニ付別ニ支障ノ筋無之儀被存候ニ付縣ノ内外
ヲ問ハス右儀ノ取扱致度候得共如何ニ可有之哉何分ノ御回報煩度此段及御
問合候也

乙號
第三六八號主稅局長回答(三十六年十一月七日)

本月二十八日付國發第二八五號ヲ以テ違警罪即決例ニ依ル旨言渡書ノ送達又
ハ執行方他ノ警察署ニ囑託シタル場合ニ於テ科料金收入方ノ義ニ付御照會
ノ趣了承右ノ御見込ノ通ニテ可然尤科料金ハ現金ニテ收入相成ルヘキニ付
會計規則第一條ノ規定ニ依リ收入ヲ爲シタル日ノ屬スル年度ノ歲入トナル
ヘキモノニシテ從テ調定済額モ現金ヲ領收シタルトキ登記可相成順序ニ儀
間囑託警察署ニ於テハ調定事務ヲ處理スルノ要ナキコト、存候右本局主管
ニ付本官ヨリ及御回答候也

海軍省訓令第一號(明治三十年五月二十六日)

海軍省訓令第一號(明治三十年五月二十六日)
海軍省訓令第一號(明治三十年五月二十六日)
海軍省訓令第一號(明治三十年五月二十六日)

●違警罪ニ關スル件

明治十五年四月二十九日
大政官達第二十二號

刑法第四百二十七條第三項夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者モ有之候處
軍人制服ヲ着用乗馬シタルモノハ右ノ限リニ無之候條此旨相違候事

●勞役場留置ノ言渡其ノ他ニ關スル件

明治四十一年十月五日
警政第一五一四九號

勞役場留置ノ言渡其ノ他ニ付別紙寫ノ通り内務省警保局長ヨリ通達有之候條此旨相違候事
勞役場留置ノ言渡其ノ他ニ付別紙寫ノ通り内務省警保局長ヨリ通達有之候條此旨相違候事

●留置場設備標準

明治三十年八月十二日
内務省訓令第七六一號

- 留置場設備標準
一 留置場ハ警署ニ在テハ三層以上警署分署ニ在テハ二層以上ヲ設備スルベシ
二 留置場ノ位置ハ警署警署分署内ニシテ隣地ヨリノ交通及觀望ヲ遮斷シ且事務所等所小使部屋人民控所等ニ於ケル普通ノ音聲ヲ聽取ル能ハラシムヘキ位置構造ヲ選ムル要ス
三 女ハ男ト嚴重別異シ幼年者ト成年者トハ可成別異シ得ルノ設備アルヲ要ス
四 留置場ノ前面ナル廊下ノ幅ハ六尺以上タルヲ要ス
五 留置場ノ可成南位ニ向ハシムルヲ要ス
六 留置場ノ分層ハ三層以上トシ雜居房ヲ設ケタルトキハ四疊半以上八疊以下トス

●留置人取扱心得

明治三十一年十二月十六日
長野縣訓令第三百三十七號

- 留置人取扱心得
一 留置人取扱心得
二 留置人取扱心得
三 留置人取扱心得
四 留置人取扱心得
五 留置人取扱心得
六 留置人取扱心得
七 留置人取扱心得
八 留置人取扱心得
九 留置人取扱心得
十 留置人取扱心得
十一 留置人取扱心得
十二 留置人取扱心得
十三 留置人取扱心得
十四 留置人取扱心得
十五 留置人取扱心得
十六 留置人取扱心得
十七 留置人取扱心得
十八 留置人取扱心得
十九 留置人取扱心得
二十 留置人取扱心得
二十一 留置人取扱心得
二十二 留置人取扱心得
二十三 留置人取扱心得
二十四 留置人取扱心得
二十五 留置人取扱心得
二十六 留置人取扱心得
二十七 留置人取扱心得
二十八 留置人取扱心得
二十九 留置人取扱心得
三十 留置人取扱心得

